

(様式4)

一般社団法人薬学教育評価機構

(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成25年5月1日)

京都薬科大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況・休学退学者数・学士課程修了状況	15
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	18
基礎資料 4	カリキュラムマップ	116
基礎資料 5	語学教育の要素	118
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	120
基礎資料 7	学生受入状況	124
基礎資料 8	教員・事務職員数	125
基礎資料 9	専任教員年齢構成	126
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	127
基礎資料11	卒業研究の配属状況	139
基礎資料12	講義室等の数と面積	140
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	141
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	142
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	143

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

(2011年度以前の入学生)

		1 年 次 (2011年度実績)							
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	生命の倫理	後期	190	2	377	コ			1.5
	薬学への招待	後期	190	2	377	コ			1.5
	早期体験学習	前期			375	体	S	実	1.5
	IT A	前期	95	4	374	コ	演		1.5
	IT B	後期	95	4	376	コ	演		1.5
	(択) 哲学的人類学	前期	1-360	1	228	コ			1.5
	(択) 文学	前期	1-360	1	322	コ			1.5
	(択) 法学	前期	1-360	1	19	コ			1.5
	(択) 日本国憲法	前期	1-360	1	181	コ			1.5
	(択) 現代社会と人権	後期	1-360	1	12	コ			1.5
	(択) コミュニケーション学と談話分析	後期	1-20	1	7	コ			1.5
	(択) 現代の世界と日本の歩み	前期	1-360	1	125	コ			1.5
	(択) 地域社会の歴史と文化	後期	1-360	1	39	コ			1.5
	(択) 外国文学	後期	1-360	2	279	コ			1.5
	(択) 科学史	前期	1-360	1	177	コ			1.5
	(択) 医療と社会	前期	1-360	1	45	コ			1.5
	(択) 比較文化論	後期	1-360	1	46	コ			1.5
	(択) 特別講義 病気を診るⅠ*	前期	1-50	1	37	コ			2
	(択) 特別講義 病気を診るⅡ*	後期	1-50	1	7	コ			2
	(択) 特別講義 やさしい身のまわりの化学*	後期	1-50	1	3	コ			2
	英語 I A	前期	31	12	374	コ			1.5
	英語 I B	前期	31	12	374	コ			1.5
	英語 I C	後期	31	12	375	コ			1.5
	英語 I D	後期	31	12	375	コ			1.5
	ドイツ語 I A	前期	62	6	375	コ			1.5
	ドイツ語 I B	後期	62	6	375	コ			1.5
体育実技	前期・後期	94	4	375			実	1	
健康科学	前期	190	2	377	コ			1.5	
薬学専門教育	物理学 A	前期	190	2	379	コ			1.5
	物理学 B	後期	190	2	378	コ			1.5
	有機化学 A	前期	190	2	378	コ			1.5
	生物学 A	前期	185	2	380	コ			1.5
	生物学 B	後期	190	2	378	コ			1.5
	微分学・積分学 A	前期	190	2	376	コ			1.5
	微分学・積分学 B	後期	190	2	381	コ			1.5
	有機化学 B	後期	190	2	379	コ			1.5
	ヒトの成り立ち	後期	190	2	376	コ			1.5
実習									
演習	基礎演習	通年	10	37	374	S	演		1.5
	専門基礎演習 A	前期	190	2	374		演		1
	専門基礎演習 B	後期	190	2	376		演		1
単位数の合計							(必須科目)		36
							(選択科目)		24
							合計		60

*1: 1~3年次配当科目

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について
2 記入してください
3 記入の「科目の識別」にそって、該当する科目に「(択)」を
付してください

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

(2011年度以前の入学生)

		2 年 次 (2012年度実績)							
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
教養教育・語学教育	医療の担い手としてのこころ構え	前期	180	2	365	コ		1.5	
	英語ⅡA	前期	60	6	363	コ		1.5	
	英語ⅡB	後期	60	6	365	コ		1.5	
	(択)英語ⅡC	前期	10-60	4	109	コ		1.5	
	(択)英語ⅡD	前期	10-20	6	101	コ		1.5	
	(択)英語ⅡE	前期	30	2	61	コ		1.5	
	(択)英語ⅡF	後期	10-60	2	108	コ		1.5	
	(択)英語ⅡG	後期	10-20	6	103	コ		1.5	
	(択)英語ⅡH	後期	30	2	60	コ		1.5	
	(択)ドイツ語ⅡA	前期	10-60	2	89	コ		1.5	
	(択)ドイツ語ⅡB	後期	10-60	2	91	コ		1.5	
	(択)特別講義 病気を診るⅠ* ¹	前期	1-50	1	1	コ		2	
	(択)特別講義 病気を診るⅡ* ¹	後期	1-50	1	2	コ		2	
(択)特別講義 スポーツってどんなくすり?* ¹	後期	1-50	1	0	コ		2		
薬学専門教育	統計学	前期	180	2	367	コ		1.5	
	有機化学C	前期	190	2	387	コ		1.5	
	有機化学D	後期	195	2	397	コ		1.5	
	物理化学A	前期	180	2	363	コ		1.5	
	物理化学B	後期	180	2	370	コ		1.5	
	分析化学	前期	180	2	368	コ		1.5	
	生命錯体化学	後期	185	2	381	コ		1.5	
	機器分析学A	後期	185	2	374	コ		1.5	
	ヒトの機能調節A	前期	190	2	387	コ		1.5	
	ヒトの機能調節B	後期	190	2	386	コ		1.5	
	微生物学	前期	185	2	375	コ		1.5	
	感染症学	後期	190	2	392	コ		1.5	
	生化学A	前期	195	2	395	コ		1.5	
	生化学B	後期	200	2	404	コ		1.5	
	社会・集団と健康	前期	185	2	372	コ		1.5	
	栄養と健康	後期	190	2	386	コ		1.5	
薬理学A	後期	190	2	388	コ		1.5		
実習	分析化学実習	前期	90	4	361		実	0.5	
	生化学実習	前期	90	4	361		実	1	
	微生物学実習	後期	90	4	362		実	0.5	
	物理化学実習	後期	90	4	362		実	0.5	
	機器分析学実習	後期	90	4	362		実	0.5	
演習	専門基礎演習C	前期	185	2	370		演	1	
	専門基礎演習D	後期	185	2	374		演	1	
単位数の合計								(必須科目)	35
								(選択科目)	18
								合計	53

*1: 1~3年次配当科目

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付けてください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

(2011年度以前の入学生)

		3 年 次 (2013年度実績)							
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	実用薬学英語 A	前期	45	8	357	コ		S	1.5
	実用薬学英語 B	後期	45	8	358	コ		S	1.5
	(択)特別講義 スポーツってどんなくすり?*	後期	1-50	1	0	コ			2
	(択)特別講義 消化管のサイエンス*1	前期	1-50	1	2	コ			2
薬学専門教育	分子薬品化学 A	前期	180	2	363	コ			1.5
	分子薬品化学 B	後期	180	2	369	コ			1.5
	天然医薬品学 A	前期	180	2	358	コ			1.5
	天然医薬品学 B	後期	180	2	361	コ			1.5
	医薬開発論 A	後期	180	2	361	コ			1.5
	物理化学 C	前期	180	2	357	コ			1.5
	機器分析学 B	前期	180	2	362	コ			1.5
	臨床分析学	後期	180	2	366	コ			1.5
	免疫学	前期	180	2	361	コ			1.5
	化学療法学	前期	180	2	364	コ			1.5
	生化学 C	前期	180	2	366	コ			1.5
	生活環境と健康	前期	180	2	364	コ			1.5
	化学物質の生体への影響	後期	180	2	372	コ			1.5
	薬理学 B	前期	180	2	370	コ			1.5
	薬理学 C	後期	180	2	370	コ			1.5
薬物治療学 A	後期	180	2	365	コ			1.5	
薬物治療学 B	後期	180	2	367	コ			1.5	
薬剤学 A	後期	180	2	361	コ			1.5	
(択)総合薬学研究 A	後期	1-25	25	327			研	1.5	
(択)総合薬学演習 A	後期	1-5	26	48			研	1	
実習	有機化学・天然医薬品学実習	前期	90	4	356		実		1.5
	食品・環境衛生学実習	前期	90	4	356		実		1
	薬理学実習	後期	90	4	357		実		1
	薬剤学・薬物動態学実習	後期	90	4	357		実		1
演習									
単位数の合計								(必須科目)	34.5
								(選択科目)	6.5
								合計	41

*1: 1~3年次配当科目

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

(2011年度以前の入学生)

4 年 次 (2013年度実績)										
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
						講義	演習	実技		
教養教育・語学教育	コミュニケーションズ	前期	185	4	372	コ		体	1.5	
薬学専門教育	漢方医薬学A	前期	185	2	372	コ			1.5	
	漢方医薬学B	後期	185	2	374	コ			1.5	
	医薬開発論B	前期	185	2	374	コ			1.5	
	医薬開発論C	後期	185	2	373	コ			1.5	
	薬理学D	前期	185	2	374	コ			1.5	
	薬物治療学C	前期	185	2	372	コ			1.5	
	薬物治療学D	前期	185	2	372	コ			1.5	
	薬物治療学E	後期	185	2	374	コ			1.5	
	薬物治療学F	後期	185	2	374	コ			1.5	
	薬物動態学A	前期	185	2	372	コ			1.5	
	薬物動態学B	後期	185	2	374	コ			1.5	
	薬剤学B	前期	185	2	372	コ			1.5	
	薬剤学C	後期	185	2	373	コ			1.5	
	臨床情報学	前期	185	2	373	コ			1.5	
	テーラーメイド薬物治療学	後期	185	2	374	コ			1.5	
	調剤学	前期	185	2	372	コ			1.5	
	地域薬局学	後期	185	2	374	コ			1.5	
	病院薬学A	前期	185	2	374	コ			1.5	
	病院薬学B	後期	185	2	374	コ			1.5	
	薬事法規・制度	前期	185	2	373	コ			1.5	
薬剤経済学	後期	185	2	374	コ			1.5		
(択)総合薬学研究B	前期	1-25	25	329			研	1.5		
(択)総合薬学演習B	前期	1-5	26	43			研	1		
実習	病院・薬局へ行く前に	後期	185	2	374			実	4	
演習	共用試験演習	後期	185	2	375		演		2	
単位数の合計							(必須科目)			39
							(選択科目)			2.5
							合計			41.5

(凡例)
 講義=コ 演習=演 実習・実技=実
 研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
- 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-5) 学年別授業科目

(2011年度以前の入学生)

		5 年 次 (2013年度実績)								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育										
薬学専門教育	(択) 総合薬学研究C	通年	1-25	24	328			研	4.5	
	(択) 総合薬学演習C	通年	1-15	25	55			研	3.5	
実習	病院・薬局で学ぶ	通年			383		実		20	
演習										
単位数の合計							(必須科目)			20
							(選択科目)			8
							合計			28

(凡例)
講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

(2011年度以前の入学生)

		6 年 次 (2013年度実績)								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育										
薬学専門教育	(択) 先端有機化学概論	前期	1-360	1	38	コ				1
	(択) 先端創薬学概論	前期	1-360	1	39	コ				1
	(択) 先端生命分子機構学概論	前期	1-360	1	246	コ				1
	(択) 先端生物無機化学概論	前期	1-360	1	75	コ				1
	(択) 先端衛生薬学概論	前期	1-360	1	88	コ				1
	(択) 先端分子生物学概論	前期	1-360	1	105	コ				1
	(択) 先端臨床薬学概論	前期	1-360	1	193	コ				1
	(択) 先端病態科学概論	前期	1-360	1	186	コ				1
	(択) 先端薬理学概論	前期	1-360	1	101	コ				1
	(択) 先端薬物動態学概論	前期	1-360	1	101	コ				1
	(択) 先端臨床医学概論	前期	1-360	1	275	コ		S		1
	(択) がん化学療法概論	前期	1-360	1	181	コ				1
	(択) 栄養管理概論	前期	1-360	1	172	コ				1
	(択) 院内感染概論	前期	1-360	1	225	コ				1
	(択) 緩和医療概論	前期	1-360	1	183	コ				1
	(択) 精神医学概論	前期	1-360	1	150	コ				1
	(択) 漢方医療概論	前期	1-360	1	192	コ				1
	(択) 臨床治験管理学概論	前期	1-360	1	119	コ				1
	(択) 総合薬学研究 D	前期	1-25	23	258				研	2
	(択) 総合薬学演習 D	前期	1-15	24	47				研	2
実習										
演習	薬学特別演習	後期	344	1	344			演		3
	(択) 薬学演習	前期	1-50	1	39			演		2
単位数の合計								(必須科目)		3
								(選択科目)		24
								合計		27

(凡例)
 講義=コ 演習=演 実習・実技=実
 研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(2011年度以前の入学生)

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	3	4.5
教養教育科目	19	31
語学教育科目	18	27
医療安全教育科目	9	34.5
生涯学習の意欲醸成科目	19	19.5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	10	20

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	36	24	60
2 年 次	35	18	53
3 年 次	34.5	6.5	41
4 年 次	39	2.5	41.5
5 年 次	20	8	28
6 年 次	3	24	27
合計	167.5	83	250.5

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

(2012年度以降の入学学生)

	1 年 次 (2013年度実績)							単位数	
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			
教養教育・語学教育	医療の担い手としてのこころ構え A	後期	180	2	371	コ		1.5	
	早期体験学習	前期			367	体	S	1.5	
	(択) 哲学倫理学	後期	1-200	1	14	コ		1.5	
	(択) コミュニケーション学と談話分析	前期	1-20	1	20	コ		1.5	
	(択) 文化論 A	後期	1-200	1	11	コ		1.5	
	(択) 日本文学	前期	1-200	1	89	コ		1.5	
	(択) 外国文学 A	前期	1-200	1	193	コ		1.5	
	(択) 外国文学 B	後期	1-200	1	109	コ		1.5	
	(択) 法学 A	前期	1-200	1	64	コ		1.5	
	(択) 日本国憲法	後期	1-200	1	2	コ		1.5	
	(択) 京都学	後期	1-200	1	34	コ		1.5	
	(択) 歴史 A	前期	1-200	1	57	コ		1.5	
	(択) 医療と社会	前期	1-200	1	197	コ		1.5	
	(択) 特別講義 スポーツってどんなくすり? *1	後期	1-50	1	3	コ		2	
	(択) 特別講義 消化管のサイエンス *1	前期	1-50	1	2	コ		2	
	英語 I A	前期	31	12	369	コ		1.5	
	英語 I B	後期	30	12	369	コ		1.5	
	薬学英語 I A	前期	31	12	367	コ		1.5	
	薬学英語 I B	後期	31	12	371	コ		1.5	
	(択) ドイツ語と文化 A	前期	50-80	2	161	コ		1.5	
	(択) ドイツ語と文化 B	後期	50-80	2	163	コ		1.5	
	(択) フランス語と文化 A	前期	50-80	2	103	コ		1.5	
	(択) フランス語と文化 B	後期	50-80	2	103	コ		1.5	
	(択) 中国語と文化 A	前期	50-80	2	106	コ		1.5	
	(択) 中国語と文化 B	後期	50-80	2	106	コ		1.5	
	体育実技	前期・後期	90	4	369			実	1
健康科学	前期	188	2	375	コ			1.5	
薬学専門教育	情報科学	前期	180	2	367	コ	演	1.5	
	基礎物理学 A	前期	180	2	369	コ		1.5	
	基礎物理学 B	後期	180	2	371	コ		1.5	
	基礎化学	前期	180	2	372	コ		1.5	
	生命科学	前期	180	2	378	コ		1.5	
	基礎数学 A	前期	180	2	370	コ		1.5	
	基礎数学 B	後期	180	2	375	コ		1.5	
	有機化学 A	前期	180	2	372	コ		1.5	
	有機化学 B	後期	180	2	377	コ		1.5	
	物理化学 A	前期	180	2	368	コ		1.5	
	物理化学 B	後期	180	2	370	コ		1.5	
	分析化学	後期	180	2	374	コ	演	1.5	
	解剖学	前期	180	2	367	コ		1.5	
	生理学 A	後期	180	2	376	コ		1.5	
生化学 A	後期	180	2	377	コ		1.5		
実習	基礎科学実習	後期	90	4	369			実	0.5
	基礎演習	通年	10	37	371	S	演	1.5	
単位数の合計	(必須科目)							36	
	(選択科目)							29.5	
	合計							65.5	

*1: 1~3年次配当科目

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

(2012年度以降の入学学生)

		2 年 次 (2013年度実績)						
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	単位数
教養教育・語学教育	医療の担い手としてのこころ構えB	前期	175	2	349	コ		1.5
	(択) 人間学	前期	1-200	1	189	コ		1.5
	(択) 文化論B	後期	1-200	1	146	コ		1.5
	(択) 心理学	後期	1-200	1	53	コ		1.5
	(択) 法学B	前期	1-200	1	28	コ	演	1.5
	(択) 歴史B	前期	1-200	1	80	コ		1.5
	(択) 科学史	前期	1-200	1	197	コ		1.5
	(択) 現代社会	後期	1-200	1	17	コ		1.5
	(択) 国際問題	後期	1-200	1	56	コ		1.5
	(択) スポーツ療法	後期	1-30	1	11	コ	演	1.5
	(択) 特別講義 スポーツってどんなくすり?*1	後期	1-50	1	0	コ		2
	(択) 特別講義 消化管のサイエンス*1	前期	1-50	1	2	コ		2
	英語2A	前期・後期	29	12	349	コ		1.5
	(択) 英語2B	前期	50-100	1	99	コ		1.5
	(択) 英語2C	前期	50-100	1	85	コ		1.5
	(択) 英語2D	後期	50-100	1	99	コ		1.5
	(択) 英語2E	後期	50-100	1	85	コ		1.5
	薬学英语2	前期・後期	29	12	349	コ		1.5
	(択) ドイツ語2A	前期	10-80	2	51	コ		1.5
	(択) ドイツ語2B	後期	10-80	2	51	コ		1.5
	(択) フランス語2A	前期	10-80	2	37	コ		1.5
	(択) フランス語2B	後期	10-80	2	37	コ		1.5
	(択) 中国語2A	前期	10-80	2	76	コ		1.5
(択) 中国語2B	後期	10-80	2	76	コ		1.5	
薬学専門教育	薬学統計解析学	前期	175	2	349	コ		1.5
	有機化学C	前期	175	2	349	コ		1.5
	有機化学D	後期	175	2	349	コ		1.5
	天然医薬品学A	後期	175	2	349	コ		1.5
	生体分析化学	前期	175	2	349	コ		1.5
	機器分析学A	前期	175	2	349	コ		1.5
	機器分析学B	後期	175	2	349	コ		1.5
	生理学B	前期	175	2	349	コ		1.5
	生化学B	前期	175	2	349	コ		1.5
	細胞生物学	前期	175	2	349	コ		1.5
	感染症学	後期	175	2	349	コ		1.5
	栄養化学	後期	175	2	349	コ		1.5
	公衆衛生学A	後期	175	2	349	コ		1.5
	薬理学A	前期	175	2	349	コ		1.5
	薬理学B	後期	175	2	349	コ		1.5
	薬物動態学	後期	175	2	349	コ		1.5
	薬剤学A	後期	175	2	349	コ		1.5
実習	分析化学実習	前期	87	4	349		実	0.5
	生化学実習	後期	87	4	349		実	1
	物理化学実習	前期	87	4	349		実	0.5
	機器分析学実習	後期	87	4	349		実	0.5
	有機化学実習	後期	87	4	349		実	1
演習								
単位数の合計	(必須科目)							33.5
	(選択科目)							32.5
	合計							66

*1: 1~3年次配当科目

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-3) 学年別授業科目

(2012年度以降の入学生)

		3 年 次 (2014年度見込み)							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	医療の担い手としてのこころ構えC	前期	175	2	349	コ		1.5	
	(択) 医療心理学	前期	1-200	1 (未定)	コ		1.5		
	(択) 環境学	前期	1-200	1 (未定)	コ		1.5		
	(択) 医療経済学	前期	1-200	1 (未定)	コ		1.5		
	(択) 医療社会学	前期	1-200	1 (未定)	コ		1.5		
	(択) 特別講義 スポーツってどことなくすり?*1	後期	1-50	1 (未定)	コ		2		
	(択) 特別講義 消化管のサイエンス*1	前期	1-50	1 (未定)	コ		2		
	薬学英語3A	前期	44	8	349	コ	S	1.5	
薬学英語3B	後期	44	8	349	コ	S	1.5		
薬学専門教育	薬品合成化学A	前期	175	2	349	コ		1.5	
	薬品合成化学B	後期	175	2	349	コ		1.5	
	医薬品化学A	後期	175	2	349	コ		1.5	
	天然医薬品学B	前期	175	2	349	コ		1.5	
	漢方生薬学	後期	175	2	349	コ		1.5	
	放射薬学	後期	175	2	349	コ		1.5	
	感染症治療学	前期	175	2	349	コ		1.5	
	腫瘍細胞生物学	後期	175	2	349	コ		1.5	
	公衆衛生学B	前期	175	2	349	コ		1.5	
	薬理学C	前期	175	2	349	コ		1.5	
	病態薬物治療学A	前期	175	2	349	コ		1.5	
	病態薬物治療学B	後期	175	2	349	コ		1.5	
	病態診断学A	後期	175	2	349	コ		1.5	
	テーラーメイド薬物治療学	前期	175	2	349	コ		1.5	
	薬剤学B	前期	175	2	349	コ		1.5	
臨床統計開発論	後期	175	2	349	コ		1.5		
総合薬学研究A	3年後期・4年前期*2	13	27	349		研			
実習	微生物学実習	後期	87	4	349		実	0.5	
	天然医薬品学実習	前期	87	4	349		実	0.5	
	栄養化学実習	前期	87	4	349		実	0.5	
	公衆衛生学実習	前期	87	4	349		実	0.5	
	薬理学実習	前期	87	4	349		実	1	
	薬剤学実習	後期	87	4	349		実	0.5	
	薬物動態学実習	後期	87	4	349		実	0.5	
	演習								
単位数の合計								(必須科目)	32.5
								(選択科目)	10
								合計	42.5

*1: 1~3年次配当科目

*2: 3年次後期~4年次前期を通して履修し、4年次前期終了時に成績評価を付ける

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-4) 学年別授業科目

(2012年度以降の入学生)

	4 年 次 (2015年度見込み)							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	薬学英語4A	前期	58	6	349	コ		1.5
	薬学英語4B	後期	58	6	349	コ		1.5
薬学専門教育	医薬品化学B	前期	175	2	349	コ		1.5
	医薬開発論	後期	175	2	349	コ		1.5
	病態薬物治療学C	前期	175	2	349	コ		1.5
	病態診断学B	前期	175	2	349	コ		1.5
	がん化学療法学	前期	175	2	349	コ		1.5
	臨床情報学	前期	175	2	349	コ		1.5
	調剤学	前期	175	2	349	コ		1.5
	地域医療学	後期	175	2	349	コ		1.5
	医療薬学A	前期	175	2	349	コ		1.5
	医療薬学B	後期	175	2	349	コ		1.5
	薬事関連法規	前期	175	2	349	コ		1.5
総合薬学研究A	3年後期* ・4年前期	13	27	349		研	3	
実習	実務事前実習	通年	175	2	349		実	4
演習	薬学総合演習	後期	175	2	349		演	4.5
単位数の合計							(必須科目)	31
							(選択科目)	0
							合計	31

* : 3年次後期~4年次前期を通して履修し、4年次前期終了時に成績評価を付ける

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

(2012年度以降の入学生)

		5 年 次 (2016年度見込み)									
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育											
		(択) 総合薬学研究 B	5年通年 ・6年前期*	13	27	349			研		
薬学専門教育											
		病院実習 薬局実習	通年 通年			349 349		実 実		10 10	
実習											
演習											
単位数の合計								(必須科目)			20
								(選択科目)			0
								合計			20

*5年次～6年次前期を通して履修し、6年次前期終了時に成績評価を付ける

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実

研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

(2012年度以降の入学生)

		6 年 次 (2017年度見込み)							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	漢方医療薬学	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1.5
	日本薬局方	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1.5
	(択) 生命科学探究概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 先端臨床薬学概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) PK-PD解析概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) DDS概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 分子薬品化学概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 分子病態学概論A	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 分子病態学概論B	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 医薬品レギュラトリーサイエンス	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 実践医薬開発論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 地域医療概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) がん化学療法概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 緩和医療概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
	(択) 栄養管理概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1
(択) 感染制御学概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1	
(択) 精神医学概論	前期	(未定)	1	(未定)	コ			1	
(択) 総合薬学研究B	5年通年* ・6年前期	13	27	349			研	6.5	
実習									
演習	アドバンスト薬学	後期	349	1	349		演		10
	(択) 薬学演習	前期	(未定)	1	(未定)		演		1
単位数の合計								(必須科目)	13
								(選択科目)	22.5
								合計	35.5

*5年次~6年次前期を通して履修し、6年次前期終了時に成績評価を付ける

(凡例)

講義=コ 演習=演 実習・実技=実
研究等=研 PBL/SGD=S 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(2012年度以降の入学生)

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	8	12
教養教育科目	19	29.5
語学教育科目	26	39
医療安全教育科目	10	34.5
生涯学習の意欲醸成科目	18	19.5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	3	11

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	36	29.5	65.5
2 年 次	33.5	32.5	66
3 年 次	32.5	10	42.5
4 年 次	31	0	31
5 年 次	20	0	20
6 年 次	13	22.5	35.5
合計	166	94.5	260.5

(基礎資料2-1) 修学状況

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	
入学年度 における	入学定員数	360	360	360	360	360	360	2,160	
	編入定員数							A	
	入学者数	363	366	373	402	406	372	2,282	
基準日 における	各学年の在籍学生数	376	402	375	378	383	344	2,258	
	編入学生数(内)							D	
	留年者数(内)	15	53	55	41	47	47	258	
	留年者の 入学年度	平成20年度			2	5	41		
		平成21年度		2	15	34			
		平成22年度		12	36				
		平成23年度	2	39					
		平成24年度	13						
	平成25年度								
	C / (A + B)		1.05						
D / B									

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料 2-2) 休学者数および退学者数

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数
総在籍学生数	1535		1541		1891		2239		2261		2258	
1年次	2	8	4	13	7	8	7	12	6	4		2
2年次	4	12	13	13	17	12	14	8	13	8	5	
3年次		1	3	2	7	2	2	4	3		5	
4年次		1	3	2	4	3	4	2	4		2	
5年次												
6年次								1				
合計	6	22	23	30	35	25	27	27	26	12	12	2

[注] 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

卒業者総数	平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	卒業率 (%)
	名	名	名	名	名	名	
卒業者の入学 の年度内 年度内 記	320	356	320	36	320	36	320
平成18年度入学者	320	36	320	36	320	36	320
平成19年度入学者							
平成20年度入学者							
平成21年度入学者							
平成22年度入学者							
平成23年度入学者							
入学者総数	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	
	373名	402名	406名	372名	391名	396名	80.8%
							81.8%
							0.0%
							0.0%
							0.0%
							0.0%

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ							
(1) 生と死							
【生命の尊厳】							
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)							
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。							
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。							
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。			医療の担い手としてのこころ構え				
5) 自らの体験を通して、生命の尊厳と医療の関わりについて討議する。(態度)							
【医療の目的】							
1) 予防、治療、延命、00Lについて説明できる。							
【先遣医療と生命倫理】							
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。			医療の担い手としてのこころ構え				
(2) 医療の担い手としてのこころ構え							
【社会の期待】							
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)							
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)			医療の担い手としてのこころ構え				
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)							
【医療行為に関わるこころ構え】							
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。							
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。							
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。							
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)							
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)			医療の担い手としてのこころ構え				
【研究活動に求められるこころ構え】							
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。							
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)							
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)			医療の担い手としてのこころ構え				

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)		該 当 科 目					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【分子間相互作用】							
1)	静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
2)	ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。						
3)	双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4)	分散力について例を挙げて説明できる。						
5)	水素結合について例を挙げて説明できる。						
6)	電荷移動について例を挙げて説明できる。						
7)	疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【原子・分子】							
1)	電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。						
2)	分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3)	スピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4)	分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。						
5)	代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)						
6)	偏光および旋光性について説明できる。						
7)	散乱および干渉について説明できる。						
8)	結晶構造と回折現象について説明できる。						
【放射線と放射能】							
1)	原子の構造と放射線について説明できる。						
2)	電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
3)	代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4)	核反応および放射平衡について説明できる。						
5)	放射線の測定原理について説明できる。						
(2) 物質の状態 I							
【総論】							
1)	ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。						
2)	気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3)	エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】							
1)	系、外界、境界について説明できる。						
2)	状態関数の種類と特徴について説明できる。						
3)	仕事および熱の概念を説明できる。						
4)	定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
5)	熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
6)	代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)						
7)	エンタルピーについて説明できる。						
8)	代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)						
9)	標準生成エンタルピーについて説明できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化					
【反応速度】					
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	微分学・積分学B				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)	物理化学A				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	物理化学A				
4) 代表的な(様)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	物理化学実習 物理化学A				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連鎖反応など)の特徴について説明できる。	物理化学A				
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。	物理化学A				
7) 衝突理論について概説できる。					
8) 遷移状態理論について概説できる。	有機化学B				
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。	物理化学A				
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。					
【物質の移動】					
1) 拡散および溶解速度について説明できる。	物理化学B				
2) 沈降現象について説明できる。					
3) 流動現象および粘度について説明できる。	物理化学C				
02 化学物質の分析					
(1) 化学平衡					
【酸と塩基】					
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	分析化学				
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)	分析化学実習				
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)					
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	分析化学				
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。					
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。					
【各種の化学平衡】					
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。					
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。					
3) 酸化還元電位について説明できる。	分析化学				
4) 酸化還元平衡について説明できる。					
5) 分配平衡について説明できる。					
6) イオン交換について説明できる。					
		機器分析学B			
		機器分析学B			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 化学物質の検出と定量							
【定性試験】							
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。			分析化学				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。							
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。							
【定量の基礎】							
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)			分析化学 分析化学実習				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。							
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。			分析化学				
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。							
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。				臨床分析学			
【容量分析】							
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。			分析化学		機器分析学B		
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。							
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。							
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)			分析化学実習				
【金属元素の分析】							
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。							
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。			機器分析学A				
【クロマトグラフィー】							
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。							
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。			機器分析学実習		機器分析学B		
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)							
(3) 分析技術の臨床応用							
【分析の準備】							
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)							
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。					臨床分析学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【分析技術】						
1)	臨床分析分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			臨床分析学		
2)	免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。		生化学実習			
3)	酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			機器分析学B 臨床分析学		
4)	電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			機器分析学B 臨床分析学		
5)	代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			臨床分析学		
6)	代表的なドラッグモニタリングについて概説できる。			臨床分析学 物理化学C		
7)	代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。			物理化学C		
8)	画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。			臨床分析学		
9)	薬学領域で採用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。					
【薬物の分析】						
1)	毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			臨床分析学		
2)	代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。					
3)	代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)		機器分析学実習			
03 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1)	紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学A			
2)	蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。					
3)	赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。					
4)	電子スピン共鳴(EPR)スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		生命圏体化学			
5)	旋光度測定法(旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学A			
6)	代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)		機器分析学実習			
【核磁気共鳴スペクトル】						
1)	核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		機器分析学A			
2)	生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。					
【質量分析】						
1)	質量分析法の原理を説明できる。	物理学B	機器分析学A			
2)	生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。					
【X線結晶解析】						
1)	X線結晶解析の原理を概説できる。		機器分析学A			
2)	生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。					

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。		機器分析学B				
【立体構造】						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。						
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。						
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。		生化学A				
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。			生化学C			
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		生化学B				
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。		生化学A				
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生化学C			
3) 脂質の水における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。						
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。		生化学B 物理化学基礎		物理化学C		
C4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学A					
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。	有機化学B					
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	有機化学A					
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	有機化学B 有機化学A					
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。	有機化学A	有機化学D				
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。						
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。						
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学B					
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。						
2) キラリティーと光学活性を概説できる。						
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明できる。						
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
	有機化学A	有機化学D				

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。		生命圏体化学 有機化学D				
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。						
2) 配位結合を説明できる。						
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。		生命圏体化学 有機化学D				
4) 錯体の安定定数について説明できる。						
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。						
6) 錯体の反応性について説明できる。						
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。						
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。	有機化学A					
3) アルカンの構造異性を図示し、その数を示すことができる。						
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。		有機化学D				
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。						
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学A					
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。						
2) アルケンへの異素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。	有機化学B					
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。		有機化学D				
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	有機化学B					
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。						
2) 芳香族性 (Huckel 則) の概念を説明できる。	有機化学C					
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。		有機化学D				
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【 ¹ H NMR】	1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学A 有機化学D	天然医薬品学B			
	2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
	3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
	4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
	5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
	6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。						
	7) ¹ H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
	8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【 ¹³ C NMR】	1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		機器分析学A 有機化学D				
	2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】	1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学A 有機化学D				
	2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		機器分析学A 有機化学D	天然医薬品学B			
【紫外可視吸収スペクトル】	1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		機器分析学A 有機化学D	天然医薬品学B			
	【マススペクトル】	1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。					
	2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
	3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明することができる。		機器分析学A 有機化学D	天然医薬品学B			
	4) 塩基原子や酸素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。						
	5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
	6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
	7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		有機化学D				
【比旋光度】	1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。		機器分析学A 有機化学D				
	2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)	有機化学A	有機化学D				
	3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
	4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】	1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		機器分析学実習 有機化学D	天然医薬品学B			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
05 ターゲット分子の合成					
(1) 官能基の導入・変換					
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。					
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。					
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	有機化学D				
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。					
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。					
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。					
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学C 有機化学D				
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。					
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。	有機化学D				
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。					
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。					
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		有機化学・天然医薬品学 実習			
(2) 複雑な化合物の合成					
【波長帯の構築法】					
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。					
2) 転位反応を用いた代表的な波長帯の構築法を列挙できる。	有機化学D				
3) 代表的な波長帯のpKaと反応性の関係を説明できる。					
4) 代表的な波長帯-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。	有機化学C 有機化学D				
【位置および立体選択性】					
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機化学D				
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。					
【保護基】					
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	有機化学D				
【光学活性性化合物】					
1) 光学活性性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。	有機化学D	分子薬品化学A			
【総合演習】					
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)	有機化学D	分子薬品化学A			
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)		有機化学・天然医薬品学 実習			
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
06 生体分子・医薬品を化学で理解する					
(1) 生体分子のコアとパーツ					
【生体分子の化学構造】					
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。					
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。					
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。					
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。					
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。					
【生体内で機能する複素環】					
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。					
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。					
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。					
【生体内で機能する錯体・無機化合物】					
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。					
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。					
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。					
【化学から見る生体ダイナミクス】					
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。					
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。					
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。					
(2) 医薬品のコアとパーツ					
【医薬品のコアポネント】					
1) 代表的な医薬品のコア構造 (フアーマコフォア) を指摘し、分類できる。					
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。					
【医薬品に含まれる複素環】					
1) 医薬品として複素環化合物が採用される根拠を説明できる。					
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。					
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連つけて説明できる。					
4) 代表的な芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。					
5) 代表的な芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。					
【医薬品と生体高分子】					
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。					
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。					
3) 分子模型、コンピュータソフトウェアなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体分子を模倣した医薬品】							
1)	カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
2)	アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3)	ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬開発論B		
4)	核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5)	ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】							
1)	アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。						
2)	インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。						
3)	β -ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。						
07 自然が生み出す薬物							
(1) 薬になる動植物							
【生薬とは何か】							
1)	代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。			天然医薬品学A			
2)	生薬の歴史について概説できる。						
3)	生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】							
1)	代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)						
2)	代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。						
3)	代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
4)	代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)						
5)	代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。						
【植物以外の医薬資源】							
1)	動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。						
【生薬成分の構造と合成】							
1)	代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの合成経路を概説できる。						
2)	代表的なテルペノイドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
3)	代表的な強心配糖体の構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
4)	代表的なアルカロイドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
5)	代表的なフラボノイドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
6)	代表的なフェニルプロパノイドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
7)	代表的なポリケチドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
【薬薬、化粧品としての利用】							
1)	天然物質の薬薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)		該 当 科 目				
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
【神経系】 1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。 2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。 3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節A				
	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節A				
【骨格系・筋肉系】 1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。 2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節A				
【皮膚】 1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		ヒトの機能調節B				
【循環器系】 1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。 2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。 3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトの成り立ち 健康科学					
	ヒトの成り立ち					
【呼吸器系】 1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節B				
【消化器系】 1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。 2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節B				
【泌尿器系】 1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節B				
【生殖器系】 1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節B				
【内分泌系】 1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節B				
【感覚器系】 1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節B				
【血液・造血器系】 1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトの成り立ち	ヒトの機能調節B				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】 1) 細胞集合による組織構築について説明できる。 2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。 3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)	生物学A	微生物学実習				
【細胞膜】 1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。 2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。 3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。	生物学A	生化学B 生化学B 生化学A				
【細胞内小器官】 1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	生物学A	生化学A				

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	生物学A					
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクロシスについて説明できる。	生物学B					
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生物学A					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。						
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。	生物学B	ヒトの機能調節A				
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。	生物学B 健康科学					
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。						
2) 血糖の調節機構を説明できる。		ヒトの機能調節B				
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。						
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。		ヒトの機能調節B				
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。		ヒトの機能調節B				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。		ヒトの機能調節B				
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。		ヒトの機能調節A				
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中の微生物の役割について説明できる。		微生物学				
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学				
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		感染症学				
5) 腸内細菌の役割について説明できる。		微生物学				
6) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質転換）について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		感染症学				
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。						
2) ウイルスの分類法について概説できる。		微生物学				
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。		微生物学				
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。		感染症学				
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、精製菌の概念を説明できる。		感染症学				
2) 主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度） (OSCEの対象)		微生物学実習				
3) 主な滅菌法を実施できる。（技能） (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。（技能）		微生物学実習				
2) 無菌操作を実施できる。（技能）						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）						
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。		感染症学				
5) 代表的な細菌を同定できる。（技能）		微生物学実習				
09 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生物学A					
2) 脂防糖の種類と役割を説明できる。		生化学B				
3) 脂防糖の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【補習】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生物学A	生化学A				
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。		生化学実習				
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学A	生化学A				
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。		生化学B				
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		生化学実習				
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補次分子として関与する生体内反応について説明できる。		生化学A				
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。						
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核糖塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。		生化学B				
2) DNAの構造について説明できる。	生物学A	微生物学				
3) RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。						
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。		微生物学				
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。						
4) 染色体の構造を説明できる。	生物学A					
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。		微生物学 生化学B	生化学C			
6) RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。						
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。						
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。	生物学A		生化学C			
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
5) リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。						
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。	生物学A	微生物学	生化学C			
3) DNAの修復の過程について説明できる。						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【顕微鏡と顕微鏡】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。		生化学A				
2) 糖新生について説明できる。						
3) 銅鉄状態のエネルギ―代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。						
4) 糸裂のエネルギ―を蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。		生化学B				
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		ヒトの機能調節A				
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オートコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。						
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。		ヒトの機能調節A				
4) 主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割について説明できる。						
5) 主な生理活性ペプチド(アングイオテンシン、ブラジキニンなど)の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		ヒトの機能調節A				
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		ヒトの機能調節A				
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。			生化学C			
2) 細胞膜受容体から6タンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。		ヒトの機能調節A				
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4) 代表的な細胞内(核内)受容体の具体例を挙げて説明できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 細胞からDNA技術の概要を説明できる。(技能)				生化学C		
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)						
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)		生化学実習				
4) 組換えDNA実験指針を理解する。(態度)				生化学C		
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)						
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。						
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生化学実習		生化学C		
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)						
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。						
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
G10 生体防衛						
(1) 身体をまもる						
【生体防衛反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。	生物学B					
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。		感染症学				
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。						
5) クローン選択説を説明できる。	生物学B					
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。				免疫学		

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【免疫を担当する組織・細胞】					
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。					
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	感染症学	免疫学			
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。					
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。					
【分子レベルで見えた免疫のしくみ】					
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。					
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。	感染症学	免疫学			
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。					
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。					
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。	感染症学				
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用					
【免疫系が関係する疾患】					
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。					
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学			
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。					
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。					
【免疫応答のコントロール】					
1) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。					
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫学			
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。					
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。					
【予防接種】					
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。					
2) 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。	感染症学	免疫学			
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。					
【免疫反応の利用】					
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。					
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。		免疫学			
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）					
4) ELISA法、ウェスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）					

学年	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
養学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。						
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			食品・環境衛生学実習			
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。		栄養と健康				
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)			食品・環境衛生学実習			
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。		栄養と健康				
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。						
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		感染症学 栄養と健康				
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		感染症学				
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		栄養と健康				
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						
2) 人口動態と人口動態について説明できる。		社会・集団と健康				
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。						
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)		社会・集団と健康				
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。						
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。						
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)						
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、希与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。		社会・集団と健康	食品・環境衛生学実習			
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【水環境】			生活環境と健康			
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			生活環境と健康			
2) 水の浄化法について説明できる。			生活環境と健康			
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。			生活環境と健康			
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			生活環境と健康 食品・環境衛生学実習			
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			生活環境と健康			
6) 水質汚濁の主な指標を水質ごとに列挙し、その意味を説明できる。			食品・環境衛生学実習 生活環境と健康			
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)			生活環境と健康			
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			生活環境と健康			
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。			生活環境と健康			
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。			生活環境と健康			
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)			生活環境と健康 食品・環境衛生学実習			
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			生活環境と健康			
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			生活環境と健康 食品・環境衛生学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			生活環境と健康			
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			生活環境と健康			
4) シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。			生活環境と健康			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			生活環境と健康			
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)			生活環境と健康			
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			生活環境と健康			
2) 環境基本法の理念を説明できる。			生活環境と健康			
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬と疾病】					
013 薬の効くプロセス					
【薬の作用】					
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学実習			
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。					
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。	薬理学A	薬理学C 薬理学実習			
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。					
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。					
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。					
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。			調剤学		
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。	薬理学A				
【薬の運命】					
1) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。					
2) 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。					
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。		薬剤学A			薬物動態学B
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。					
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。					
【薬の副作用】					
1) 薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。	薬理学A				
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。					
【動物実験】					
1) 動物実験における倫理について配慮する。（態度）					
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）		薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。（技能）					
(2) 薬の効き方					
【中枢神経系に作用する薬】					
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学C 薬理学実習			
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学C			
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学C 薬理学実習			
4) 代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
5) 代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学C			
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。		薬理学実習			
【自律神経系に作用する薬】					
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬理学A	薬理学B 薬理学実習			
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）△技能であるからCBTには馴染まない		薬理学実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該当科目		
1年	2年	3年	4年	5年	6年		
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】							
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物 (局所麻酔薬など) を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬理学A	薬理学実習					
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)							
【循環器系に作用する薬】							
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学B					
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
【呼吸器系に作用する薬】							
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学B					
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学B					
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
【化学構造】							
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。	薬理学A	薬理学B 薬理学C					
(3) 薬の働き方II							
【ホルモンと薬】							
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	健康科学						
2) 代表的な糖質コルチコイド作用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。				薬理学D			
3) 代表的な性ホルモン作用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。							
【消化器系に作用する薬】							
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。							
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学C					
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。							
【腎に作用する薬】							
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬理学C					
【血液・造血器系に作用する薬】							
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。							
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学D			
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。							
【代謝系に作用する薬】							
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						薬理学D	
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬物治療学B					
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。							
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						薬理学D	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【炎症・アレルギーと薬】					
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。					
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。					
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。					
【化学構造】					
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。					
(4) 薬物の臓器への到達と消失					
【吸収】					
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。					
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。					
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。					
4) 能動輸送の特徴を説明できる。					
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。					
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。					
【分布】					
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。					
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。					
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。					
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。					
5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。					
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。					
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)					
【代謝】					
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。					
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。					
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。					
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。					
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。					
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。					
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。					
8) 初回通過効果について説明できる。					
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。					
		薬理学C	薬理学D		
		薬理学A 薬理学・薬物動態学実習			
		薬理学A			
		薬理学A 薬理学・薬物動態学実習	薬物動態学B		
		薬理学A			
		薬理学A 薬理学・薬物動態学実習	薬物動態学A 薬物動態学B 薬物動態学A		
		薬理学A	薬物動態学A		
		薬理学・薬物動態学実習			
			薬物動態学B		
		薬理学A			
			薬物動態学B 薬物動態学A		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。						
2) 腎クリアランスについて説明できる。				薬物動態学A		
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。			薬剤学A			
4) 胆汁中排泄について説明できる。						
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中の排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬剤学A			
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。				薬物動態学B		
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。						
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。			薬剤学・薬物動態学実習	薬物動態学A		
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。				薬物動態学B		
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)			薬剤学・薬物動態学実習	薬物動態学A		
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)				薬物動態学B		
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。				薬物動態学A		
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)			薬剤学・薬物動態学実習	薬物動態学A		
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)				薬物動態学A		
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)				薬物動態学A 薬物動態学B		
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。			臨床分析学			
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。			薬剤学・薬物動態学実習	薬物動態学B		
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)						
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動的パラメーターを用いて説明できる。			薬剤学・薬物動態学実習			
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)						
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症状】						
1) 以下の症状について、生じる原因とそれらを伴う代表的な病態を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、腹痛、下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、呼吸困難、咳、口臭、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、めまい、視力障害、聴力障害、めまい				薬物治療学F		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【症状と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
3) 代表的な呼吸器機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。						
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)						
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血系の疾患】						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白血球の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎、肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 肺炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓、膵臓、胃がん、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)						
【(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)】						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフロローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖系疾患】						
1) 男性および女性生殖系に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、不妊、子宮癌、子宮内腺症						
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 閉塞性気道疾患 (気管支喘息、肺炎腫) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎 (かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学A			
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物治療学F		
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学A			
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					薬物治療学E	
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギ一性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。			免疫学			
2) アトピー一性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			化学療法学			
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾燥症、接触性皮膚炎、光線過敏症			免疫学			
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					薬物治療学E	
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					薬物治療学E	
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【アレルギー・免疫疾患】					
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げるができる。					
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
3) 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
【移植医療】					
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					
【緩和ケアと長期療養】					
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。					
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。					
【総合演習】					
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)					
(5) 病原微生物・悪性新生物と闘う					
【感染症】					
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。					
【抗真菌薬】					
1) 抗真菌薬を作用点に基づいて分類できる。					
2) 代表的な抗真菌薬の基本構造を示すことができる。					
3) 代表的なβ-ラクタム系抗真菌薬を抗真菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。					
4) テトラサイクリン系抗真菌薬の抗真菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。					
5) マクロライド系抗真菌薬の抗真菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。					
6) アミノ配糖体系抗真菌薬を抗真菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。					
7) ピリドンカルボン酸系抗真菌薬の抗真菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。					
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。					
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。					
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。					
11) 代表的な抗細菌薬の使用上の注意について説明できる。					
12) 特徴的な組織移行性を示す抗真菌薬を列挙できる。					
【抗原虫・寄生虫薬】					
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。					
【抗真菌薬】					
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。					
【抗ウイルス薬】					
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。					
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。					
【抗真菌薬の耐性と副作用】					
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。					
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。						
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。				薬物治療学E		
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。						
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。						
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。						
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの違いがわかる。（技能）						
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）						
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。（技能）						
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）						
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）						
5) 主要な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						

1年	該当科目				6年
	2年	3年	4年	5年	
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
【データベース】					
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。					
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)			臨床情報学		
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)					
【EBM (Evidence-Based Medicine)】					
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。					
2) EBM実践のプロセスを概説できる。					
3) 臨床研究方法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)の長所と短所を概説できる。			臨床情報学		
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)					
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。					
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など)について説明できる。					
【総合演習】					
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。					
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)			臨床情報学		
(2) 患者情報					
【情報と情報源】					
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。					
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			臨床情報学		
【収集・評価・管理】					
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。					
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)			臨床情報学		
3) 患者、介護者との適切なインタビュから患者基本情報を収集できる。(技能)					
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)			臨床情報学 病院・薬局へ行く前に		
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)					
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)					
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)			臨床情報学		
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して					
【遺伝的素因】					
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。					
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。					
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。					
【年齢的素因】					
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。					
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。					
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生理的要因】					
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学B		
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学B		
3) 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学B		
【合併症】					
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学B		
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学B		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学B		
【投与計画】					
1) 患者固有の薬動学的パラメータを用いて投与設計ができる。（知識・技能）			薬物動態学B		
2) ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。			薬物動態学B		
3) 薬動学的パラメータを用いて投与設計ができる。（知識・技能）			薬物動態学B		
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。			薬物動態学B		
【医薬品をつくる】					
G16 製剤化のサイエンス					
(1) 製剤材料の性質					
【物質の溶解】					
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。					
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。					
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。		薬剤学・薬物動態学実習			
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。					
【分散系】					
1) 界面の性質について説明できる。					
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。					
3) 乳剤の型と性質について説明できる。					
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。					
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。					
【製剤材料の物性】					
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。					
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。					
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。					
4) 粉体の性質について説明できる。		薬剤学・薬物動態学実習			
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。					
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。		薬剤学・薬物動態学実習			
7) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。					
8) 製剤材料の物性を測定できる。（技能）	機器分析学A				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。						
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。						
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。						
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)						
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。						
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。						
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる。						
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲットニング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。						
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。						

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
017 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセンプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。				医薬開発論C		
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4) 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医薬開発論C		
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。				医薬開発論C 臨床情報学		
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				医薬開発論C		
3) 医薬品製造において環境安全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。				医薬開発論C 臨床情報学		
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。				医薬開発論C		
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）				臨床情報学 医薬開発論C		
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。				医薬開発論B 医薬開発論C		
【薬の生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。						
2) 医薬品と標的の生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				医薬開発論B		
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。			分子薬品化学B			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				医薬開発論C		
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメータを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				医薬開発論B		
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。						
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				医薬開発論C		
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			生化学C			
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)	生物学B					
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。		生化学B				
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ケミックスアザンプロット法など) について概説できる。			生化学C	医薬開発論C		
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。			薬物治療学B	医薬開発論C 薬物治療学D		
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。				医薬開発論C		
(4) 治療						
【治療の意義と業務】						
1) 治療に関してヘルシキ宣言が意図するところを説明できる。				医薬開発論C		
2) 医薬品創製における治療の役割を説明できる。	薬学への招待			医薬開発論C 病医薬学A		
3) 治療 (第I、II、およびIII相) の内容を説明できる。						
4) 公正な治療の推進を確保するための制度を説明できる。						
5) 治療における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)				医薬開発論C		
6) 治療業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治療における薬剤師の役割】						
1) 治療における薬剤師の役割 (治療薬管理者など) を説明できる。						
2) 治療コーディネーターの業務と責任を説明できる。				医薬開発論C		
3) 治療に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
4) インフォームド・コンセントと治療情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) バイオスタティスティクス					
【生物統計の基礎】					
1) 帰無仮説の概念を説明できる。					
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。					
3) 主な二群間の平均値の検定法 (t-検定, Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)	統計学	医薬開発論A 薬理学・薬物動態学実習			
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)					
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)	統計学 機器分析学実習	医薬開発論A			
6) 主な多重比較検定法 (分散分析, Dunnett検定, Tukey検定など) の概要を説明できる。	統計学				
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。					
【臨床への応用】					
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。					
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。					
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。		医薬開発論A			
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)					
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。					
C18 薬学と社会					
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度					
【医療の担い手としての使命】					
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)					
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)					薬利経済学 病院薬学A
【法律と制度】					
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。					
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。					
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。					薬事法規・制度
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。					
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。					
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。					
7) 製造物責任法を概説できる。					病院薬学A
【管理薬】					
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。					
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。					薬事法規・制度
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。					
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。					
【放射性医薬品】					
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。					
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。		物理化学C			

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。						
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。				薬剤経済学		
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。						
2) 医療保険のしくみを説明できる。				薬剤経済学		
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。						
2) 保険医療と薬価制度の関係の概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。				薬剤経済学		
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)						
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。					地域薬局学	
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。						
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)				地域薬局学		
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師業務担当規則および保険医療費担当規則を概説できる。						
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				地域薬局学		
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)						
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。				地域薬局学		
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

(基礎資料 3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することができます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ							
(1) 生と死							
【生命の尊厳】							
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)							
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。							
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。							
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。							
5) 自らの体験を通して、生命の尊厳と医療の関わりについて討議する。(態度)							
【医療の目的】							
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。							
【先進医療と生命倫理】							
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。							
(2) 医療の担い手としてのところ構え							
【社会の期待】							
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)							
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)							
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)							
【医療行為に関わるところ構え】							
1) ヘルシキ言の内容を概説できる。							
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。							
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。							
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)							
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)							
【研究活動に求められるところ構え】							
1) 研究に必要な独創的思考力、能力を醸成する。							
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)							
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤師の活動分野】					
1) 薬剤師の活動分野 (医療機関、製薬企業、衛生行政など) について概説できる。					
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。					
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。					
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。					
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。					
【薬について】					
1) 「薬とは何か」を概説できる。					
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。					
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。					
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。					
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。					
【現代社会と薬学との接点】					
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。					
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。					
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。					
【日本薬局方】					
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。					
【総合演習】					
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)					
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)					
(2) 早期体験学習					
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)					
3) 製薬企業および保健衛生・健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討論する。(知識・態度)					
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)					
C 薬学専門教育					
【物理系薬学を学ぶ】					
61 物質の物理的性質					
(1) 物質の構造					
【化学結合】					
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。					
2) 軌道の形成について説明できる。					
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。					
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。					
医療の担い手としてのところ 構えA					
医療の担い手としてのところ 構えA					
医療の担い手としてのところ 構えA					
早期体験学習					
医療の担い手としてのところ 構えA					
医療の担い手としてのところ 構えA					
早期体験学習					
有機化学A					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自発的な変化】							
1) エントロピーについて説明できる。							
2) 熱力学第二法則について説明できる。							
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)							
4) 熱力学第三法則について説明できる。							
5) 自由エネルギーについて説明できる。							
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)							
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。							
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。							
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。							
(3) 物質の状態 II							
【物理平衡】							
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。							
2) 相平衡と相律について説明できる。							
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。			物理化学実習				
4) 物質の溶解平衡について説明できる。							
5) 溶液の菓一性性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。							
6) 界面における平衡について説明できる。							
7) 吸着平衡について説明できる。							
8) 代表的な物理平衡を精測し、平衡定数を求めることができる。(技能)							
【溶液の化学】							
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。							
2) 活量と活量係数について説明できる。							
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係の説明できる。							
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。			機器分析学B				
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。							
6) イオン強度について説明できる。							
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückelの式) について説明できる。							
【電気化学】							
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。							
2) 標準電極電位について説明できる。			機器分析学B				
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。							
4) Nernstの式が誘導できる。			機器分析学B				
5) 濃淡電池について説明できる。							
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。			物理化学B				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化					
【反応速度】					
1) 反応次数と速度定数について説明できる。					
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)	物理化学A				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。					
4) 代表的な(競)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学実習			
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。					
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。	物理化学A				
7) 衝突理論について概説できる。					
8) 遷移状態理論について概説できる。	有機化学A 有機化学B				
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。	物理化学A				
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。					
【物質の移動】					
1) 拡散および溶解速度について説明できる。					
2) 沈降現象について説明できる。	物理化学B				
3) 流動現象および粘度について説明できる。					
02 化学物質の分析					
(1) 化学平衡					
【酸と塩基】					
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	分析化学				
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)		分析化学実習			
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)					
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。					
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	分析化学				
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。					
【各種の化学平衡】					
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。					
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。					
3) 酸化還元電位について説明できる。					
4) 酸化還元平衡について説明できる。	分析化学	機器分析学B			
5) 分配平衡について説明できる。					
6) イオン交換について説明できる。		機器分析学B			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 化学物質の検出と定量					
【定性試験】					
	分析化学	薬品合成化学B			
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。					
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。					
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。					
【定量の基礎】					
	分析化学		分析化学実習		
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)					
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。					
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。					
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。					
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。					
【容量分析】					
	分析化学		機器分析学B		
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。					
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。					
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。					
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。					
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。					
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。					
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)					
【金属元素の分析】					
			機器分析学A		
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。					
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。					
【クロマトグラフィー】					
			機器分析学B 機器分析学実習		
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。					
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。					
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)					
(3) 分析技術の臨床応用					
【分析の準備】					
			生体分析化学		
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)					
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分析技術】					
1) 臨床分析分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。					
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。	生体分析化学				
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)					
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)	機器分析学B				
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。					
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。	生体分析化学				
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。	機器分析学B	放射線学			
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。					
9) 薬学領域で採用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。	機器分析学A				
【薬物の分析】					
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。					
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。	生体分析化学				
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)	機器分析学実習				
03 生体分子の姿・かたちをとらえる					
(1) 生体分子を解析する手法					
【分光分析法】					
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。					
2) 蛍光分析法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	機器分析学A				
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。					
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	生体分析化学				
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	機器分析学A				
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)	機器分析学実習				
【核磁気共鳴スペクトル】					
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。					
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。	機器分析学A				
【質量分析】					
1) 質量分析法の原理を説明できる。	基礎物理学B				
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。	機器分析学A				
【X線結晶解析】					
1) X線結晶解析の原理を概説できる。					
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。	機器分析学A				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【相互作用の解析法】							
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			機器分析学A				
(2) 生体分子の立体構造と相互作用							
【立体構造】							
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。		生命科学 生化学A					
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。		生化学A					
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。		生化学A	細胞生物学				
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。		生化学A					
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		生化学A					
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		生化学A					
【相互作用】							
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。		生化学A					
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		生命科学 生化学A					
3) 脂質の水の中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。		物理化学B	物理化学実習				
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。		基礎化学					
C4 化学物質の性質と反応							
(1) 化学物質の基本的性質							
【基本事項】							
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。		有機化学A					
2) 基学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。		有機化学B					
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。		有機化学A					
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。		有機化学B					
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。		有機化学A					
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。		有機化学A					
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。		有機化学B					
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。							
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。							
【有機化合物の立体構造】							
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。							
2) キラリティーと光学活性を概説できる。							
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。							
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。		有機化学A					
5) 絶対配置の表示法を説明できる。							
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。							
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】					
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。					
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。					
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。					
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。					
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。					
【錯体】					
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。					
2) 配位結合を説明できる。					
3) 代表的なトナー原子、配位子、キレート試薬を列挙できる。					
4) 錯体の安定度定数について説明できる。					
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。					
6) 錯体の反応性について説明できる。					
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。					
(2) 有機化合物の資格					
【アルカン】					
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。					
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。					
3) アルカンの構造異性を図示し、その数を示すことができる。					
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。					
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。					
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。					
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。					
【アルケン・アルキンの反応性】					
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。					
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。					
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。					
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。					
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。					
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。					
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。					
【芳香族化合物の反応性】					
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。					
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。					
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。					
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。					
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。					
生体分析化学					
生体分析化学					
有機化学 A					
有機化学 B					
有機化学 C					
有機化学 B					
有機化学 C					
有機化学 D					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
(3) 官能基						
【概説】		有機化学B	有機化学C 有機化学D			
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。			医薬品化学A			
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)			天然医薬品学実習			
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)			有機化学実習			
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		有機化学B	有機化学C 有機化学D			
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 求核置換反応 (S _N 1および S _N 2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。		有機化学B				
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学B				
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。		有機化学B	有機化学D			
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学B				
2) オキソラン類の閉環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		有機化学B				
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル)の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学D			
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。			有機化学D			
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。						
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。		有機化学A	有機化学D			
3) 含窒素化合物の塩基性を説明できる。						薬品合成化学A
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。			機器分析学A			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
05	ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換							
1)	アルケンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学B					
2)	アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3)	有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
4)	アルコールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学D				
5)	フェノールの代表的な合成法について説明できる。	有機化学B					
6)	エーテルの代表的な合成法について説明できる。						
7)	アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学C				
8)	カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9)	カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。		有機化学D				
10)	アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11)	代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
12)	代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		有機化学実習				
(2) 複雑な化合物の合成							
【医薬骨格の構築法】							
1)	Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。						
2)	転位反応を用いた代表的な医薬骨格の構築法を列挙できる。						
3)	代表的な医薬酸のpKaと反応性の関係を説明できる。						
4)	代表的な医薬-医薬結合生成反応(アルドール反応、マロニン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。						
【位置および立体選択性】							
1)	代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
2)	代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】							
1)	官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。						
【光学活性化合物】							
1)	光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。						
【総合演習】							
1)	課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)						
2)	課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)		有機化学実習				
3)	反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
06 生体分子・医薬品を化学で理解する					
(1) 生体分子のコアとパーツ					
【生体分子の化学構造】					
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。		医薬品化学 A			
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。					
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。					
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。		医薬品化学 A			
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。					
【生体内で機能する複素環】					
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。		医薬品化学 A			
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。					
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。					
【生体内で機能する糖体・無機化合物】					
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	生体分析化学				
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。					
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。					
【化学から見る生体ダイナミクス】					
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。		医薬品化学 A			
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。					
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。					
(2) 医薬品のコアとパーツ					
【医薬品のコアポーン】					
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。		薬品合成化学 A			
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。					
【医薬品に含まれる複素環】					
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。					
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。		薬品合成化学 A			
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。					
4) 代表的な芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。					
5) 代表的な芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。					
【医薬品と生体高分子】					
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。					
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。					
3) 分子模型、コンピュータソフトウェアなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)			医薬品化学 B		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体分子を模倣した医薬品】					
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学B		
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
【生体内分子と反応する医薬品】					
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。					
2) インターカレーター作用機序を図示し、説明できる。			医薬品化学B		
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。					
C7 自然が生み出す薬物					
(1) 薬となる動植物					
【生薬とは何か】					
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。					
2) 生薬の歴史について概説できる。	天然医薬品学A				
3) 生薬の生産と流通について概説できる。					
【薬用植物】					
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)				天然医薬品学実習	
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	天然医薬品学A			天然医薬品学B	
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。				天然医薬品学実習	
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)	天然医薬品学A			天然医薬品学B	
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。					
【植物以外の医薬資源】					
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	天然医薬品学A			天然医薬品学B	
【生薬成分の構造と生合成】					
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。				天然医薬品学B	
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。	天然医薬品学A				
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。				天然医薬品学B	
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
【薬業、香粧品としての利用】					
1) 天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。	天然医薬品学A				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生理学A 解剖学 健康科学					
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生理学A 解剖学					
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	解剖学					
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	生理学B				
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 健康科学					
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学					
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	生理学B				
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学					
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学					
【生殖器系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	生理学B				
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	生理学B				
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	生理学B				
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学	生理学B				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。		細胞生物学				
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	生命科学					
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)						
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。						
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	生命科学	細胞生物学				
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	生命科学	細胞生物学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細胞の分裂と死】							
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。							
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。			細胞生物学				
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。		生理学A 生理学A 生命科学					
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。							
【細胞間コミュニケーション】							
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		生命科学	細胞生物学				
2) 主な細胞がマトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。							
(3) 生体の機能調節							
【神経・筋の調節機構】							
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。			細胞生物学				
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。		生理学A					
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。							
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。		生理学A 健康科学	細胞生物学				
【ホルモンによる調節機構】							
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		健康科学	生理学B 細胞生物学				
2) 血糖の調節機構を説明できる。			生理学B				
【循環・呼吸系の調節機構】							
1) 血圧の調節機構を説明できる。			生理学B				
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。							
3) 血液凝固・凝固系の機構を説明できる。							
【体液の調節機構】							
1) 体液の調節機構を説明できる。			生理学B				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。							
【消化・吸収の調節機構】							
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。			生理学B				
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。							
【体温の調節機構】							
1) 体温の調節機構を説明できる。		生理学A					
(4) 小さな生き物たち							
【総論】							
1) 生態系の中の微生物の役割について説明できる。		生命科学	感染症学 細胞生物学				
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細菌】							
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。							
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。	生命科学						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。							
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		感染症学					
5) 腸内細菌の役割について説明できる。	生命科学						
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。							
【細菌毒素】							
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		感染症学					
【ウイルス】							
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。							
2) ウイルスの分類法について概説できる。		感染症学					
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。							
【真菌・原虫・その他の微生物】							
1) 主な真菌の性状について説明できる。		感染症学					
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。							
【消毒と滅菌】							
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		感染症学					
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度)							
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能)				微生物学実習			
【検出方法】							
1) グラム染色を実施できる。(技能)							
2) 無菌操作を実施できる。(技能)				微生物学実習			
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)							
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的試験法、血清型別試験、血清学的性状試験、分子生物学的試験) について説明できる。		感染症学					
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)				微生物学実習			
09 生命をミクロに理解する							
(1) 細胞を構成する分子							
【脂質】							
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生命科学						
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。	生化学A	細胞生物学					
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。							
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。	生化学A						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【糖質】							
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。			細胞生物学				
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。							
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。							
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生化学実習				
【アミノ酸】							
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。		生命科学 生化学A					
2) アミノ酸分子中の成素および窒素の代謝について説明できる。			生化学B				
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生化学実習				
【ビタミン】							
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。		生化学A	栄養化学				
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。							
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。							
(2) 生命情報を担う遺伝子							
【ヌクレオチドと核酸】							
1) 核酸塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。		生命科学	生化学B				
2) DNAの構造について説明できる。			細胞生物学 生化学B				
3) RNAの構造について説明できる。							
【遺伝情報を担う分子】							
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。		生命科学	細胞生物学 生化学B				
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。							
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。							
4) 染色体の構造を説明できる。							
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。							
6) RNAの種類と働きについて説明できる。							
【転写と翻訳のメカニズム】							
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。		生命科学	生化学B 細胞生物学				
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。							
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。							
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。							
5) リボソームの構造と機能について説明できる。							
【遺伝子の複製・変異・修復】							
1) DNAの複製の過程について説明できる。		生命科学	生化学B 細胞生物学				
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。							
3) DNAの修復の過程について説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子多型】							
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。		生命科学	生化学B				
(3) 生命活動を担うタンパク質							
【タンパク質の構造と機能】							
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。		生命科学 生化学A	細胞生物学				
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。							
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。		生命科学	生化学B 細胞生物学				
【酵素】							
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。							
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。		生化学A					
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。							
4) 酵素反応速度論について説明できる。							
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。		細胞生物学					
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)		生化学実習					
【酵素以外の機能タンパク質】							
1) 細胞内外の物質や情報の受容に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。		生命科学 生理学A	細胞生物学				
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。		生理学A					
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。		生化学A					
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。		生命科学	細胞生物学				
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。							
【タンパク質の取扱い】							
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)							
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)			生化学実習				
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。		生化学A					
(4) 生体エネルギー							
【栄養素の利用】							
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		生化学A	栄養化学 生化学B				
【ATPの産生】							
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。		生命科学 生化学A	細胞生物学 栄養化学				
2) 解糖系について説明できる。		生命科学 生化学A 健康科学					
3) クエン酸回路について説明できる。		生命科学 生化学A	細胞生物学				
4) 電子伝達系 (酸化リン酸化) について説明できる。		生化学A					
5) 脂防酸のβ酸化反応について説明できる。		生命科学 生化学A					
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。		生命科学 生化学A					
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。		生命科学 生化学A					
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。		生化学A					
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。							
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【創薬状態と創薬状態】							
1)	グリコゲンの役割について説明できる。	生化学A	栄養化学				
2)	糖新生について説明できる。		栄養化学 生化学B 生化学B				
3)	創薬状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		栄養化学 生化学B				
4)	余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		栄養化学 生化学B				
5)	食餌性の血糖変動について説明できる。		生化学B				
6)	インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7)	糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8)	ケトン原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子							
【ホルモン】							
1)	代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
2)	代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理学B				
3)	代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4)	代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オートコイドなど】							
1)	エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。						
2)	代表的なエイコサノイドを挙げ、その合成経路を説明できる。						
3)	代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。	生理学A					
4)	主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の合成と役割について説明できる。						
5)	主な生理活性ペプチド(アンギオテンシン、ブラジキニンなど)の役割について説明できる。						
6)	一酸化窒素の合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】							
1)	モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
2)	アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	生理学A					
3)	ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4)	アセチルコリンの合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】							
1)	代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。	生命科学	生理学B 細胞生物学				
2)	代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		生理学B				
3)	代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】							
1)	細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	生理学A 生命科学	細胞生物学				
2)	細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3)	細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4)	代表的な細胞内(核内)受容体の具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 遺伝子を操作する							
【遺伝子操作の基本】							
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。(技能)			生化学B 細胞生物学				
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)							
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)							
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)							
5) 遺伝子採取に関する安全性と倫理について配慮する。(態度)							
【遺伝子のクローニング技術】							
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。			生化学B				
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。			生化学B 細胞生物学				
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。			生化学B				
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)							
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。			生化学B 細胞生物学				
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。			生化学B				
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)							
【遺伝子機能の解析技術】							
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。			生化学B 細胞生物学				
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。							
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。							
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。							
GI0 生体防御							
(1) 身体をまもる							
【生体防御反応】							
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。							
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。							
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。							
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。			感染症学				
5) クローン選択説を説明できる。							
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。							
【免疫を担当する組織・細胞】							
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。							
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。							
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。			感染症学				
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食品の品質と管理】					
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。					
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)		栄養化学実習			
3) 食品の腐敗を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。					
4) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。	栄養化学				
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。					
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。					
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。					
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)		栄養化学実習			
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。					
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)	栄養化学				
【食中毒】					
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。					
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	感染症学				
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。					
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。	栄養化学				
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。					
(2) 社会・集団と健康					
【保健統計】					
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。					
2) 人口動態と人口動態について説明できる。	公衆衛生学A				
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。					
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。					
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。					
【健康と疾病をめぐる日本の現状】					
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。					
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。	公衆衛生学A				
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)					
【疫学】					
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。					
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。					
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。					
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)	公衆衛生学A	公衆衛生学実習			
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)					
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。					
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。					
(3) 疾病の予防					
【健康とは】					
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	公衆衛生学A				
2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【疾病の予防とは】					
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。					
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。	公衆衛生学A				
3) 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。					
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)					
【感染症の現状とその予防】					
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴について説明できる。					
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。					
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。	感染症学				
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。					
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。					
6) 予防接種種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。					
【生活習慣病とその予防】					
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。					
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。	公衆衛生学A				
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。					
【職業病とその予防】					
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。	公衆衛生学A				
G12 環境					
(1) 化学物質の生体への影響					
【化学物質の代謝・代謝的活性化】					
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。					
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。	公衆衛生学A				
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。					
【化学物質による発がん】					
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。					
2) 変異原性試験(Ames試験など)の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)	微生物学実習				
3) 発がんのイニエーションとプロモーションについて概説できる。	公衆衛生学A				
4) 代表的な発がん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。					
【化学物質の毒性】					
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。					
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。					
3) 重金属、農薬、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。					
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。					
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。					
6) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。					
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法など)を説明できる。					
8) 環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【化学物質による中毒と処置】			公衆衛生学A				
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。				公衆衛生学実習			
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)							
【電離放射線の生体への影響】				放射薬学			
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。							
2) 電離放射線被曝における線量と生体組織の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。							
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。							
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。							
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。							
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。							
【非電離放射線の生体への影響】							
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。				公衆衛生学B			
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。							
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。							
(2) 生活環境と健康							
【地球環境と生態系】							
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。							
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。				公衆衛生学B			
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)							
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。							
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。							
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。							
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。				放射薬学			
【水環境】							
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				公衆衛生学B			
2) 水の浄化法について説明できる。							
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。				公衆衛生学B 公衆衛生学実習			
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)				公衆衛生学B			
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。							
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。				公衆衛生学B 公衆衛生学実習			
7) DO、BOD、CODを測定できる。(技能)				公衆衛生学B			
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。				公衆衛生学B			
【大気環境】							
1) 空気の成分を説明できる。				公衆衛生学B			
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。				公衆衛生学B 公衆衛生学実習			
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)				公衆衛生学B			
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。				公衆衛生学B			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】					
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		公衆衛生学B 公衆衛生学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。					
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。		公衆衛生学B			
4) シックハウス症候群について概説できる。					
【医薬物】					
1) 医薬物の種類を列挙できる。					
2) 医薬物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。		公衆衛生学B			
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)					
4) マニフェスト制度について説明できる。					
5) PRIR法について概説できる。					
【環境保全と法的規制】					
1) 典型セブ言とその現状、および四大公害について説明できる。					
2) 環境基本法の理念を説明できる。					
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。					
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。					
【薬と疾病】					
G13 薬の効くプロセス					
【薬の作用】					
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。					
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。					
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。					
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。	薬理学A				
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。					
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。					
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。				調剤学	
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。	薬理学A				
【薬の運命】					
1) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。					
2) 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。					
3) 経口投与された薬剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。	薬理学A				
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。					
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。					
【薬の副作用】					
1) 薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。					
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。	薬理学A				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 薬の働き方I					
【ホルモンと薬】					
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬理学C			
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。					
【消化器薬に作用する薬】					
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学C			
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。					
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
【腎に作用する薬】					
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。	薬理学B				
【血液・造血器薬に作用する薬】					
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。					
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬理学C			
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。					
【代謝薬に作用する薬】					
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬理学C			
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		病態薬物治療学A			
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。					
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学C			
【炎症・アレルギーと薬】					
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。					
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬理学C			
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。					
【化学構造】					
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。	薬理学B	薬理学C			
(4) 薬物の臓器への到達と消失					
【吸収】					
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。					
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。					
3) 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。	薬理学A				
4) 能動輸送の特徴を説明できる。					
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。					
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
該当科目						
1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【分布】						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。	薬理学A					
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液・脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。		薬物動態学				
5) 薬物分布の要動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。(技能)						
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)			薬物動態学実習			
【代講】						
1) 薬物分子の体内での化学的变化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。	薬理学A					
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。	薬物動態学					
3) 薬物代謝構造式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。	薬理学A					
4) シクロロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。	薬理学A					
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。						
8) 初回通過効果について説明できる。		薬物動態学				
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【繰講】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。	薬物動態学					
2) 腎クリアランスについて説明できる。						
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。						
4) 胆汁中排泄について説明できる。		薬理学A				
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。	薬理学A					
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。	薬物動態学					

	臨床科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】				病態診断学B		
1) 代表的な疾患における薬物治療 (外科学術、食事療法など) の位置づけを説明できる。						
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)						
【心臓・血管系の疾病】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態診断学A			
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血系の疾病】						
1) 血液・造血系における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						病態薬物治療学C
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾病】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				病態薬物治療学B		
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)						病態診断学B
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾病】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						病態薬物治療学C
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿管結石						
【生殖系疾病】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				病態診断学A		
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内腫瘍						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【呼吸器・胸部の疾患】			病態診断学 A			
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】			病態薬物治療学 A			
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】			病態薬物治療学 A			
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】			病態薬物治療学 B			
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】				病態診断学 B		
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。						
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】			病態薬物治療学 B			
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】			病態薬物治療学 B			
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) めまいの病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態診断学 A			
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。			感染症治療学			
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症			病態診断学 A			
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 緑内障の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。			病態薬物治療学 B			
3) 白内障の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態薬物治療学 B			
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。				病態診断学 B		
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症			病態薬物治療学 B			
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。						
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。			病態診断学 A			
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療、およびその使用上の注意について説明できる。			病態診断学 A			
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			病態診断学 A	がん化学療法学		
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)				病態診断学 B		
(5) 病原微生物・悪性新生物と職う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		感染症学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【抗菌薬】							
1)	抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。						
2)	代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3)	代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4)	テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5)	マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6)	アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			感染症治療学			
7)	ピリドンカルボキシ系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8)	サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。						
9)	代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10)	細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11)	代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12)	特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】							
1)	代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			感染症治療学			
【抗真菌薬】							
1)	代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			感染症治療学			
【抗ウイルス薬】							
1)	代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			感染症治療学			
2)	抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】							
1)	主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。			感染症治療学			
2)	主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】							
1)	悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。			腫瘍細胞生物学			
2)	悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。				がん化学療法学		
3)	化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】							
1)	代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。						
2)	代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3)	代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4)	代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5)	抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6)	抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7)	代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8)	代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】							
1)	主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
2)	主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
3)	副作用軽減のための対処法を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
1年	2年	3年	該当科目		
			4年	5年	6年
G15 薬物治療に役立つ情報					
(1) 医薬品情報					
【情報】					
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。					
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。					
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。					
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。					
5) 医薬品情報に關係する代表的な法律と制度について概説できる。					
【情報源】					
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。					
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけと用途を説明できる。					
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。					
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。					
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの違いがわかる。(技能)					
【収集・評価・加工・提供・管理】					
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬物動態、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)					
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。					
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)					
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)					
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
【データベース】					
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。					
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)					
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)					
【EBM (Evidence-Based Medicine)】					
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。					
2) EBM実践のプロセスを概説できる。					
3) 臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。					
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)					
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。					
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。					
【総合演習】					
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。					
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報							
【情報と情報源】					臨床情報学		
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。							
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。							
【収集・評価・管理】					臨床情報学		
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。							
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)							
3) 患者、介護者との適切なインタビュから患者基本情報を収集できる。(技能)							
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)					臨床情報学 実務事前実習		
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)							
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)							
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)					臨床情報学		
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して							
【遺伝的薬因】					テーラーメイド薬物治療学		
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的薬因について、例を挙げて説明できる。							
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的薬因について、例を挙げて説明できる。							
3) 遺伝的薬因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。							
【年齢的薬因】					テーラーメイド薬物治療学		
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
【生理的薬因】					テーラーメイド薬物治療学		
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
2) 授乳時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3) 栄養状態の異なる患者(肥満など)に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
【合併症】					テーラーメイド薬物治療学		
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。							
【投与計画】					テーラーメイド薬物治療学		
1) 患者固有の薬動的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)							
2) ポピュレーションファーマコダイナミクス概念と応用について概説できる。							
3) 薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)							
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品をつくる】					
C16 製剤化のサイエンス					
(1) 製剤材料の性質					
【物質の溶解】					
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。					
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。					
3) 溶解した物質の透過速度について説明できる。					
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。					
【分散系】					
1) 界面の性質について説明できる。					
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。					
3) 乳剤の型と性質について説明できる。					
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。					
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。					
【製剤材料の物性】					
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。					
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。					
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。					
4) 粉体の性質について説明できる。					
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。					
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。					
7) 粉末×線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。					
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)					
(2) 剤形をつくる					
【代表的な製剤】					
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。					
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。					
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。					
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。					
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。					
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。					
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。					
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。					
【製剤化】					
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。					
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)					
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関する試験法を列挙できる。			薬剤学B			
2) 日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)			薬剤学実習			
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。		薬剤学A				
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。		薬剤学A				
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。		薬剤学B				
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる。		薬剤学A				
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。		薬剤学A				
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。		薬剤学A				
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。		薬剤学A				
G17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。						
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。					医薬開発論	
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。					医薬開発論	
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。					医薬開発論	
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)について概説できる。					医薬開発論 臨床情報学	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【臨床への応用】 1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。 2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。 3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。 4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。			臨床統計開発論				
	G18 薬学と社会						
	(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
	【医療の担い手としての使命】						
	1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)	医療の担い手としての こころ構えA		医療の担い手としての こころ構えC		医療薬学A	
	2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						
【法律と制度】							
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。							
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。							
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。					薬事関連法規		
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。							
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。							
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。							
7) 製造物責任法を概説できる。					医療薬学A		
【管理薬】							
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。							
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。							
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。							
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。							
【放射性医薬品】							
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。							
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。			放射薬学				
(2) 社会保険制度と薬料経済							
【社会保険制度】							
1) 日本における社会保険制度のしくみを説明できる。							
2) 社会保険制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						地域医療学	
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。							
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該 当 科 目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医療保険】					
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。			地域医療学		
2) 医療保険のしくみを説明できる。					
3) 医療保険の種類を列挙できる。					
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。					
【薬料経済】					
1) 国民医療費の動向を概説できる。			地域医療学		
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。					
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。					
4) 医療費の内訳を概説できる。					
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。					
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)					
(3) コミュニティファーマシー					
【地域薬局の役割】					
1) 地域薬局の役割を列挙できる。			地域医療学		
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。					
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。					
【医薬分業】					
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。			地域医療学		
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)					
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。					
【薬局の業務運営】					
1) 保険薬剤師業務担当規則および保険医療費担当規則を概説できる。			地域医療学		
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。					
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。					
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。					
【OTC薬・セルフメディケーション】					
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)			地域医療学		
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。					
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。					

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することができます。
 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

	該当科目		
	3年	4年	5年
実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習専前学習) SBOs			
D 実務実習教育			
(I) 実務実習専前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1.	医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	調剤学 病院薬学A	
2.	医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。		
3.	薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)	病院薬学A 病院・薬局へ行く前に	
《チーム医療に注目する》			
4.	医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	病院薬学B	
5.	チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。	調剤学 病院薬学A 病院薬学B	
6.	自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)	病院・薬局へ行く前に	
《医薬分業に注目する》			
7.	医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	病院薬学A	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1.	処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		
2.	処方オーダーリングシステムを概説できる。		
3.	処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		
4.	調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	調剤学 病院・薬局へ行く前に	
5.	代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		
6.	不適切な処方せんの処置について説明できる。		
《医薬品の用法・用量》			
7.	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	調剤学 病院薬学B 病院・薬局へ行く前に	
8.	患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)		
9.	患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。		
10.	患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)	調剤学 病院・薬局へ行く前に	
11.	病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。		

《調剤化の基礎》			
12.	院内製剤の意義、調剤上の手続き、品質管理などについて説明できる。	病院薬学A 病院・薬局へ行く前に	
13.	薬局製剤の意義、調剤上の手続き、品質管理などについて説明できる。		
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)	病院・薬局へ行く前に	
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いはけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		
《注射剤と輸液》			
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	調剤学 病院薬学A 病院・薬局へ行く前に	
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)	病院・薬局へ行く前に	
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。	病院薬学A	
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)	病院・薬局へ行く前に	
《消毒薬》			
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。	病院薬学A	
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。		
(5) リスクマネージメント			
《安全管理に注目する》			
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	地域薬局学 病院薬学B	
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。	地域薬局学 病院薬学B 病院・薬局へ行く前に	
3.	院内感染の回避方法について説明できる。	病院薬学A	
《副作用に注目する》			
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	病院薬学A 病院・薬局へ行く前に	
《リスクマネージメント入門》			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	地域薬局学 病院薬学A 病院薬学B 病院・薬局へ行く前に	
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)	地域薬局学 病院薬学B 病院・薬局へ行く前に	
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)	病院・薬局へ行く前に	
(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	病院薬学B 病院・薬局へ行く前に	
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)	病院・薬局へ行く前に	
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		
7.	患者待遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	病院薬学B 病院・薬局へ行く前に	

《患者情報の重要性に注目する》			
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		病院薬学B
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		
10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		
《服薬指導入門》			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		病院・薬局へ行く前に
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		病院薬学B 病院・薬局へ行く前に
（7）事前学習のまとめ			

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

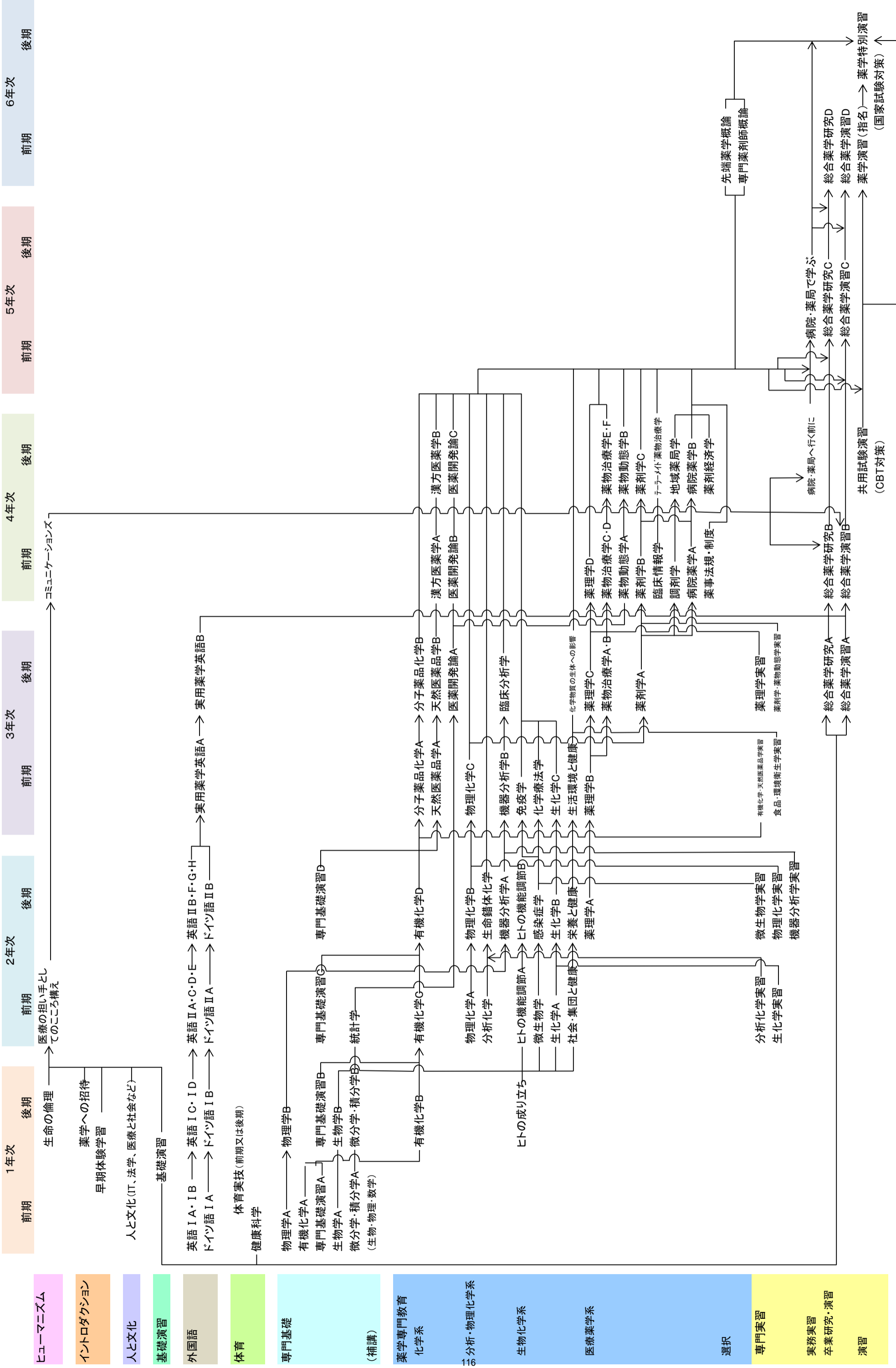
2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

	実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習事前学習) SBOs		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		調剤学 医療薬学A	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。		医療薬学B	
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		医療薬学A 実務事前実習	
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		医療薬学B	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		医療薬学B	
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		実務事前実習	
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		医療薬学A	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。			
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。			
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)			
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)			
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。			

《服薬指導の基礎》			
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		医療薬学B
《調剤業務入門》			
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		調剤学 実務事前実習
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		
17.	処方せん例の鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		実務事前実習
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		調剤学 地成医療学
2.	代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		調剤学 医療薬学A
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		実務事前実習
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		調剤学 医療薬学A
《疑義照会入門》			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		実務事前実習
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		調剤学 医療薬学A
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		
9.	疑義照会の流れを説明できる。		
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		実務事前実習
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		医療薬学A
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		
《特別な配慮を要する医薬品》			
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		医療薬学A
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		実務事前実習
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		医療薬学A

《患者情報の重要性に注目する》	
8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	
9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）	
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。	医療薬学B
《服薬指導入門》	
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）	
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）	実務事前実習
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）	
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）	医療薬学B 実務事前実習
(7) 事前学習のまとめ	
	実務事前実習



(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年次				
英語ⅠA	1	読み	書き	聞く	話す
英語ⅠB	1	読み	書き	聞く	話す
英語ⅠC	1	読み	書き	聞く	話す
英語ⅠD	1	読み	書き	聞く	話す
英語ⅡA	2	読み	書き	聞く	話す
英語ⅡB	2	読み	書き	聞く	話す
英語ⅡC	2	読み	聞く		
英語ⅡD	2	読み	書き	聞く	話す
英語ⅡE	2	読み	聞く	話す	
英語ⅡF	2	読み	聞く		
英語ⅡG	2	読み	書き	聞く	話す
英語ⅡH	2	読み	聞く	話す	
ドイツ語ⅠA	1	読み	書き		
ドイツ語ⅠB	1	読み	書き		
ドイツ語ⅡA	2	読み	書き	聞く	
ドイツ語ⅡB	2	読み	書き	聞く	
実用薬学英語A	3	読み	書き	聞く	話す
実用薬学英語B	3	読み	書き	聞く	話す

要素	読み
	書き
	聞く
	話す

(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年次				
英語1A	1	読み	書き	聞く	話す
英語1B	1	読み	書き	聞く	話す
英語2A	2	読み	聞く	話す	
英語2B	2	読み	聞く		
英語2C	2	読み	聞く		
英語2D	2	読み	聞く		
英語2E	2	読み	聞く		
薬学英語1A	1	読み	書き	聞く	話す
薬学英語1B	1	読み	書き	聞く	話す
薬学英語2	2	読み	書き	聞く	話す
薬学英語3A	3	読み	書き	聞く	話す
薬学英語3B	3	読み	書き	聞く	話す
薬学英語4A	4	読み	書き	聞く	話す
薬学英語4B	4	読み	書き	聞く	話す
ドイツ語と文化A	1	読み	書き	聞く	
ドイツ語と文化B	1	読み	書き	聞く	
ドイツ語2A	2	読み	書き	聞く	
ドイツ語2B	2	読み	書き	聞く	
フランス語と文化A	1	読み	書き	聞く	
フランス語と文化B	1	読み	書き	聞く	
フランス語2A	2	読み	書き	聞く	
フランス語2B	2	読み	書き	聞く	
中国語と文化A	1	読み	書き	聞く	
中国語と文化B	1	読み	書き	聞く	
中国語2A	2	読み	書き	聞く	話す
中国語2B	2	読み	書き	聞く	話す

要素	読み
	書き
	聞く
	話す

(基礎資料6) 実務実習事前学習カレンダー (2013年度)

学生人数の関係で名簿順に「前半」、「後半」組に分けて実習を行っている。

月	日	曜日	学内行事等	実習内容
6	20	木		演習1日目(前半学生)
	21	金		演習1日目(後半学生)
	27	木		演習2日目(前半学生)
	28	金		演習2日目(後半学生)
9	6	金	模擬患者練習会、学外講師との会議	
	9	月	模擬患者練習会	
	17	火	後期開始	導入講義(後半学生)
	18	水		講義(後半学生)
	19	木		実習(後半学生)
	20	金		実習(後半学生)
	24	火		実習(後半学生)
	25	水		実習(後半学生)
	26	木		実習(後半学生)
	27	金		実習(後半学生)
	30	月		実習(後半学生)
10	1	火		実習(後半学生)
	2	水		実習(後半学生)
	3	木		導入講義(前半学生)
	4	金		講義(前半学生)
	7	月		実習(前半学生)
	8	火		実習(前半学生)
	9	水		実習(前半学生)
	10	木		実習(前半学生)
	11	金		実習(前半学生)
	15	火		実習(前半学生)
	16	水		予備日
	17	木		実習(前半学生)
	18	金		実習(前半学生)

	21	月		実習（後半学生）
	22	火		実習（後半学生）
	23	水		実習（後半学生）
	24	木		実習（後半学生）
	25	金		実習（後半学生）
	28	月		実習（後半学生）
	29	火		実習（後半学生）
	30	水		実習（後半学生）
	31	木		実習（後半学生）
11	1	金		実習（後半学生）
	5	火		実習（前半学生）
	6	水		実習（前半学生）
	7	木		実習（前半学生）
	8	金		実習（前半学生）
	11	月		実習（前半学生）
	12	火		実習（前半学生）
	13	水		実習（前半学生）
	14	木		実習（前半学生）
	15	金		実習（前半学生）
	18	月		実習（前半学生）
	19	火		実習（前半学生）
	20	水		全体練習日（前半学生）
	21	木		全体練習日（後半学生）
	22	金		講義（講評）（全員）
	25	月		総合演習（全員）
	26	火		総合演習（全員）
	27	水		総合演習（全員）
	28	木		総合演習（全員）
	29	金		総合演習（全員）
12	2	月		筆記試験（全員）
12	3	火		総合演習（全員）

土、日、祝日は示していない。OSCE 本試験：12月14日(土)、15日(日)

(基礎資料6) 実務実習事前学習スケジュール (2013年度)

学生は10名単位で1グループ(「前半」,「後半」)それぞれ18グループ、合計36グループ)となり個別実習を受ける。表は「前半」組のグループごとの実習項目一覧を示す。

日数	前半学生	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	6月20日	前期1								前期演習①									
	6月27日	前期2								前期演習②									
	10月3日	導入講義								導入講義									
	10月4日	講義形式								講義形式									
	10月7日	1	コミ①	疑義	疑義	疑義	疑義	疑義	無菌混合	注射調剤	注射調剤	鑑査	院内	軟・外用	液剤	錠剤	散剤	TDM	
	10月8日	2	コミ②	コミ①	DI	DI	DI	DI	無菌混合	注射調剤	注射調剤	注射調剤	鑑査	院内	軟・外用	液剤	錠剤	散剤	---
	10月9日	3	コミ③	---	疑義	疑義	疑義	疑義	歴・才	---	注射調剤	注射調剤	注射調剤	軟・外用	液剤	錠剤	散剤	---	
	10月10日	4	TDM	コミ②	コミ①	コミ①	コミ①	コミ①	DI	---	---	無菌混合	---	---	鑑査	院内	液剤	錠剤	
	10月11日	5	散剤	コミ③	---	---	---	---	疑義	歴・才	---	---	無菌混合	注射調剤	---	---	軟・外用	液剤	
	10月15日	6	錠剤	TDM	コミ②	コミ②	コミ②	コミ②	---	DI	---	---	無菌混合	---	---	---	院内	軟・外用	
	10月17日	7	液剤	散剤	コミ③	コミ③	コミ③	コミ③	コミ①	疑義	疑義	歴・才	---	---	---	---	院内	軟・外用	
	10月18日	8	軟・外用	錠剤	TDM	TDM	TDM	TDM	コミ②	コミ①	DI	DI	---	---	---	---	---	---	
	11月5日	9	院内	液剤	錠剤	---	---	---	コミ③	---	---	---	疑義	歴・才	---	---	---	---	
	11月6日	10	鑑査	軟・外用	液剤	散剤	散剤	散剤	TDM	コミ②	---	---	---	DI	---	---	---	---	
	11月7日	11	---	院内	軟・外用	液剤	液剤	液剤	---	コミ③	---	---	---	疑義	疑義	歴・才	---	---	
	11月8日	12	注射調剤	院内	軟・外用	液剤	液剤	液剤	散剤	コミ③	---	---	---	---	---	---	---	---	
	11月11日	13	無菌混合	---	---	---	---	---	散剤	TDM	---	---	---	---	---	---	---	---	
	11月12日	14	---	無菌混合	注射調剤	注射調剤	注射調剤	注射調剤	液剤	散剤	---	---	---	---	---	---	---	---	
	11月13日	15	歴・才	---	---	---	---	---	液剤	錠剤	---	---	---	---	---	---	---	---	
	11月14日	16	DI	---	---	---	---	---	軟・外用	液剤	---	---	---	---	---	---	---	---	
	11月15日	17	疑義	歴・才	---	---	---	---	院内	軟・外用	---	---	---	---	---	---	---	---	
	11月18日	18	---	DI	---	---	---	---	無菌混合	注射調剤	---	---	---	---	---	---	---	---	
	11月19日	19	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	11月20日	全体練習								全体練習									
	11月22日	講評																	
	11月25日	総合1																	
	11月26日	総合2																	
	11月27日	総合3																	
	11月28日	総合4																	
	11月29日	総合5																	
	12月2日	試験																	
	12月3日	総合練習																	

(基礎資料6) 実務実習事前学習 LS との対応 (2013 年度)

項目名	概要	3時限目～5時限目 (6時限目)
前期演習①		S101講義、S102講義、S103(SGD)、S104(講義)、S105(講義)
前期演習②		S201-S204(講義、演習)、S210(講義、演習)
導入講義(講義形式)	個別項目(実習形式)への導入講義	LS全般
個別項目(講義形式)	薬剤師業務に関する解説	S101、S504、S506-S507(講義、SGD)
個別項目(実習形式)	医療コミュニケーション1日目	S601-S604(講義、演習)、S210(実習)、S701(実習)
〃	医療コミュニケーション2日目	S605(講義、演習)、S210(実習)、S701(実習)
〃	医療コミュニケーション3日目	S606(講義、演習)、S210(実習)、S701(実習)
〃	TDM	S205、S207-S208(講義、実習)
〃	散剤調剤	S210(実習)、S701(実習)
〃	計数調剤	S210(実習)、S701(実習)
〃	液剤調剤	S210(実習)、S701(実習)
〃	軟・外用剤調剤	S210(実習)、S701(実習)
〃	院内製剤	S408-S410(実習)
〃	調剤薬鑑査	S210(実習)、S701(実習)
〃	注射薬調剤	S210(実習)、S412-S413(実習)
〃	無菌混合	S411(実習)、S701(実習)
〃	薬歴管理・オーダーリング	S201(講義、実習)
〃	医薬品情報	
〃	処方監査・疑義照会	S301-S306(実習)
全体講評(講義形式)	実習全体の解説と講評	LS全般
全体練習(実習形式)	実技項目に関する総合的演習	S701(実習)
総合演習(実習形式)	〃	S701(実習)
筆記試験	事前実習に関する筆記試験	(試験)

(基礎資料7) 学生受入状況

学部	学科名	入試の種類		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(20年度実施)	入試(21年度実施)	入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	
薬学部	薬学	一般入試	受験者数	1,195	1,123	1,050	1,097	1,323	1,341	
			合格者数	536	525	474	442	401	423	
			入学者数(A)	228	235	213	173	168	191	
			募集定員数(B)	180	180	180	180	180	180	
			A/B*100(%)	127%	131%	118%	96%	93%	106%	
		大学入試センター入試	受験者数	775	849	791	1,030	1,158	1,311	
			合格者数	307	292	320	413	370	434	
			入学者数(A)	29	22	30	63	61	54	
			募集定員数(B)	35	35	35	50	50	50	
			A/B*100(%)	83%	63%	86%	126%	122%	108%	
		AO入試	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
		附属校推薦	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
	指定校推薦	受験者数	48	42	50	49	53	52		
		合格者数	48	42	50	49	53	52		
		入学者数(A)	48	42	50	49	53	52		
		募集定員数(B)	62	62	65	50	50	50		
		A/B*100(%)	77%	68%	77%	98%	106%	104%		
	公募推薦入試	受験者数	366	294	266	247	293	355		
		合格者数	101	103	80	81	80	81		
		入学者数(A)	101	103	80	81	79	81		
		募集定員数(B)	83	83	80	80	80	80		
		A/B*100(%)	122%	124%	100%	101%	99%	101%		
	社会人入試	受験者数								
		合格者数								
		入学者数(A)								
		募集定員数(B)								
		A/B*100(%)								
	留学生入試	受験者数								
		合格者数								
		入学者数(A)								
		募集定員数(B)								
		A/B*100(%)								
帰国生徒入試	受験者数									
	合格者数									
	入学者数(A)									
	募集定員数(B)									
	A/B*100(%)									
その他	受験者数									
	合格者数									
	入学者数(A)									
	募集定員数(B)									
	A/B*100(%)									
学科計	受験者数	2,384	2,308	2,157	2,423	2,827	3,059			
	合格者数	992	962	924	985	904	990			
	入学者数(A)	406	402	373	366	361	378			
	募集定員数(B)	360	360	360	360	360	360			
	A/B*100(%)	113%	112%	104%	102%	100%	105%			

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料 8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数	67名
②設置基準において、必要な実務家教員数	8名

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	1	2	2	0	0	
語学教育	1	3	0	0	0	
薬学基礎教育	2	2	1	0	0	
専門薬学教育	21 (1)	9	9	25	11	RA : 23 TA : 6
実務実習教育	13 (6)	1	5 (4)	1 (1)	2	
小計	38 (7)	17	17 (4)	26 (1)	13	() 内は実務家教員
専任教員数	111 (12)					
(事務職員の部)	局長	次長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	1	1	5 (2)	39 (7)		() 内 嘱託職員5名、 契約(事務)職員3名、 出向受入職員1名
法人業務関連	0	0	0	0		
小計						
事務職員数	46 (9)					

- [注] 1 「①設置基準において、必要な教員数」には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。
- 2 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 3 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2)=6名のうち2名が特任)
- 4 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 5 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 6 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	1(0)	16(2)	13(0)	8(0)			38(2)
	3%	42%	34%	21%	%	%	100%
准教授		1(1)	8(3)	8(2)			17(6)
	%	6%	47%	47%	%	%	100%
専任講師			5(1)	5(1)	7(0)		17(2)
	%	%	29%	29%	42%	%	100%
助教		1(0)	1(1)	5(3)	15(4)	4(0)	26(8)
	%	4%	4%	19%	58%	15%	100%
合計	1(0)	18(3)	27(5)	26(6)	22(4)	4(0)	98(18)
	1%	18%	28%	27%	22%	4%	100%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 () に女性の数を記入してください。(例示：2(1)＝2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目												年間平均授業時間数	最終学歴及び学位称号								
									毎週授業時間数						講義															
									実験・実習・実技	通年前期	通年中期	通年後期	通年前期	通年中期	通年後期	通年前期	通年中期	通年後期	通年前期	通年中期			通年後期							
薬学科	学長	教授	乾 賢一	男	66	2010/4/1	2010/4/1	医療の担い手としての心構えA 腫瘍薬理学特論 計	0.1	0.2						0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	京都大学大学院 修士課程 薬学博士						
薬学科	薬化学分野	教授	上西潤一	男	61	1999/4/1	1999/4/1	有機化学C 先端有機化学概論 有機化学・天然医薬品学実習 有機化学B 有機化学D 有機化学実習 計	1.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4						1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	大阪大学大学院 博士後期課程 薬学博士			
薬学科	薬化学分野	准教授	橋本貴美子	女	51	2004/4/1	2004/4/1	早期体験学習(企業見学SD) 有機化学・天然医薬品学実習 有機化学B 有機化学実習 基礎演習 計					0.4			0.1					0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	北海道大学大学院 博士後期課程 博士(理学)			
薬学科	薬化学分野	助教	河井伸之	男	40	2005/4/1	2005/4/1	有機化学C 先端有機化学概論 有機化学・天然医薬品学実習 有機化学B 有機化学実習 計	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.4							0.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	東京理科大学大学院 博士課程 博士(薬学)
								計	0.3	0.3	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.4	0.3	0.0	0.7	0.6	0.0	0.0	0.0	0.7						

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号							
									講義		演習		実験・実習・実技		計		前期	後期	通年	前期			後期	通年					
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									前期	後期	通年		
薬学科	薬品薬理学分野	教授	山下正行	男	56	1991/5/1	2008/4/1	早期体験学習(プロダクト・意見交換)	有機化学A	1.5		0.4		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	大阪大学大学院 博士後期課程 薬学博士					
									分子薬品化学A	0.3				1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
									有機化学・天然医薬品学実習			0.4		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	
									有機化学実習					0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
									創薬腫瘍科学特論	0.1				0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
									薬品製造学特論	0.1				0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	2.0	0.0	0.0	0.6	0.8	0.3	0.0	2.8	0.3	0.6	1.2																	
薬学科	薬品薬理学分野	講師	小島直人	男	37	2012/4/1	2012/4/1	有機化学・天然医薬品学実習	有機化学A	0.7		0.4		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	大阪大学大学院 博士後期課程 博士(薬学)					
									有機化学実習					0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
									基礎演習					0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	
									創薬腫瘍科学特論	0.1				0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	
									薬品製造学特論	0.1				0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	
									計	0.9	0.0	0.0	0.3	0.4	0.3	0.0	1.3	0.3	0.3	0.6									
薬学科	薬品薬理学分野	助教	岩崎宏樹	男	33	2010/4/1	2011/4/1	有機化学・天然医薬品学実習	分子薬品化学A	0.4		0.4		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	大阪大学大学院 博士後期課程 博士(薬学)						
									有機化学実習					0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									基礎演習					0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
									創薬腫瘍科学特論	0.1				0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
									薬品製造学特論	0.1				0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
									計	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.9	0.3	0.0	0.6									
薬学科	薬品化学分野	教授	赤路健一	男	58	2011/4/1	2011/4/1	早期体験学習(企業見学可)	有機化学・天然医薬品学実習	0.1		0.1		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 修士課程 薬学博士						
									医薬開発論B	0.1		0.4		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									先端創薬学概論	0.3				0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
									有機化学D	0.4				0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
									分子薬品化学B	1.4				1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
									有機化学実習	0.6				0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
	計	0.1	1.8	0.0	0.7	0.5	0.3	0.0	1.0	2.1	0.7	1.3																	
薬学科	薬品化学分野	助教	服部恭尚	男	34	2011/10/1	2011/10/1	有機化学実習	有機化学・天然医薬品学実習	0.4		0.4		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	信州大学大学院 博士後期課程 博士(農学)						
									有機化学実習					0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									有機化学・天然医薬品学実習	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									有機化学実習	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									有機化学実習	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.4	0.3	0.0	0.4									
薬学科	生薬学分野	教授	松田久司	男	57	1996/4/1	2013/4/1	早期体験学習(企業見学可)	天然医薬品学A	1.0		0.1		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士後期課程 薬学博士						
									渡方医薬品学A	0.5				0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0				
									有機化学・天然医薬品学実習			0.4		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									漢方医療概論	0.3				0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									天然医薬品学A	1.0				1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
									天然医薬品学B	1.1				1.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
	計	0.2	2.2	0.0	0.6	0.5	0.0	2.5	2.2	2.6	2.4																		
薬学科	生薬学分野	助教	中村誠宏	男	37	2005/6/1	2007/4/1	早期体験学習(企業見学可)	天然医薬品学A	0.4		0.1		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士後期課程 博士(薬学)						
									有機化学・天然医薬品学実習					0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0				
									天然医薬品学A	0.4				0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0				
									生薬学概論	0.2				0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0				
									計	0.6	0.4	0.0	0.0	0.5	0.0	1.1	0.4	0.0	0.0	0.8									
									薬学科	薬品分析学分野	教授	北出達也	男	58	1983/4/1	2007/10/1	基礎化学	基礎化学	0.1					0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
機器分析学A	0.7				0.7	0.0	0.0	0.0										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
機器分析学B	0.7				0.7	0.0	0.0	0.0										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
先端生命科学分子機構概論	0.1				0.1	0.0	0.0	0.0										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
機器分析学B	0.7				0.7	0.0	0.0	0.0										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
臨床分析学	0.1				0.1	0.0	0.0	0.0										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
	計	1.6	0.8	0.0	2.0	2.0	0.0	0.6	0.0	1.6	1.4	2.0	1.7																

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
									講義		演習		実験・実習・実技		計						
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期
薬学科	薬品分析学分野	准教授	武上茂彦	男	40	1997/4/1	2013/1/1	早期体験学習(企業見学SD)	0.1		0.1		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士(薬学) 博士(薬学)			
								基礎化学	0.7					0.1	0.0	0.0					
								機器分析学A	0.7												
								機器分析学B	0.7												
								先端生命科学	0.0												
								先端生命科学機構論	0.0												
								機器分析学B	0.7												
								臨床分析学	0.3												
								機器分析学実習			0.6										
								基礎演習		2.0											
計	1.5	1.0	0.0	2.6	0.1	0.6	0.0	1.6	1.6	2.6	1.9										
薬学科	薬品分析学分野	助手	小西敦子	女	25	2012/4/1	2012/4/1	機器分析学実習									京都薬科大学				
薬学科	代謝分析学分野	教授	安井裕之	男	48	1985/4/1	2007/10/1	早期体験学習(企業見学1課)	1.0		0.1		0.1	1.0	0.0	0.3	京都薬科大学大学院 博士(薬学) 薬学博士				
								基礎化学	0.6												
								生体分析化学	0.8												
								分析化学実習	1.0												
								先端生物有機化学概論	0.3												
								分析化学	1.4		0.4										
								臨床分析学	0.7												
								代謝分析学特論	0.5												
								演習		2.0											
								計	3.6	3.1	0.0	2.0	1.5	0.0	0.0	5.1		3.1	2.0	3.4	
薬学科	代謝分析学分野	助手	内藤行喜	女	28	2011/4/1	2011/4/1	分析化学実習									京都薬科大学大学院 修士(薬学)				
薬学科	薬品物理化学分野	教授	小暮健太郎	男	46	2007/4/1	2007/4/1	物理化学A	1.2				1.2	0.0	0.0	0.5	徳島大学大学院 博士(薬学) 博士(薬学)				
								基礎化学	0.5												
								物理化学C	0.5												
								物理化学実習	0.8												
								先端生命科学	0.1												
								先端生命科学機構論	0.1												
								物理化学B	1.2												
								基礎演習		0.6											
								生物物理化学特論	0.2												
								計	2.5	1.2	0.0	0.6	0.8	0.0	0.0	3.3		1.2	0.6	1.7	
薬学科	薬品物理化学分野	講師	濱進	男	36	2008/4/1	2013/4/1	早期体験学習(企業見学SD)									北海道大学大学院 博士(薬学) 博士(薬学)				
薬学科	衛生化学分野	教授	長澤一樹	男	47	1990/4/1	2009/7/1	早期体験学習(1.5より先修科免除)									京都薬科大学大学院 修士(薬学) 博士(薬学)				
								生命科学	0.4												
								食品・環境衛生学実習	0.8												
								先端衛生学概論	0.1												
								栄養化学													
								基礎演習		0.6											
								衛生化学特論(開講しない)													
								演習		2.0											
								計	0.5	1.2	0.0	2.6	0.8	0.0	0.0	1.4		1.2	2.6	1.7	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
									講義		演習		実験・実習・実技		計					
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科	衛生化学分野	助教	西田健太郎	男	34	2008/10/1	2008/10/1	生命科学	0.2						0.2	0.0	0.0	鹿児島大学大学院 修士課程 博士(医学)		
								食品・環境衛生学実習			0.8								0.8	0.0
薬学科	公衆衛生学分野	教授	渡辺徹志	男	54	1985/4/1	2009/7/1	食品・環境衛生学実習	0.2						0.2	0.0	0.0	福岡大学大学院 修士課程 薬学博士		
								衛生化学特論(開講しない)			0.8						0.8		0.0	0.0
薬学科	公衆衛生学分野	教授	長谷井友母	男	34	2004/4/1	2007/4/1	早期体験学習(企業見習い)	1.4						1.4	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 博士(薬学)		
								生活環境と健康	0.1							0.1	0.0		0.0	
薬学科	微生物・感染制御学分野	教授	後藤直正	男	61	1978/4/1	2004/7/1	食品・環境衛生学実習	0.1						0.1	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 薬学博士		
								先端衛生学実習	0.4							0.4	0.0		0.0	
薬学科	微生物・感染制御学分野	教授	皆川 周	男	36	2007/7/1	2007/7/1	化学物質の生体への影響	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 薬学博士		
								院内感染概論	0.2							0.2	0.0		0.0	
薬学科	細胞生物学分野	助教	林 直樹	男	28	2013/4/1	2013/4/1	感染制御学特論	0.2		2.0				2.0	0.0	0.0	近畿大学大学院 博士後期課程 博士(医学)		
								演習	2.0	1.2	0.0	2.0	1.1	0.0	0.0	3.1	1.2		2.0	2.1
薬学科	細胞生物学分野	教授	藤室雅弘	男	45	2011/7/1	2011/7/1	早期体験学習(ようこそ先輩観察)	0.2						0.2	0.0	0.0	北海道大学大学院 博士後期課程 博士(生命科学)		
								生命科学	0.4							0.4	0.0		0.0	
薬学科	細胞生物学分野	助教	賀川裕貴	男	29	2012/4/1	2012/4/1	感染制御学特論	0.2		1.0				1.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士(医学)		
								基礎演習	1.8	0.2	0.0	1.6	0.1	0.2	0.0	1.9	0.4		1.6	1.3
薬学科	細胞生物学分野	助教	渡部匡史	男	31	2012/1/1	2012/1/1	先端分子生物学概論	0.0						0.0	0.0	0.0	千葉大学大学院 修士課程 博士(薬学)		
								基礎科学実習	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	0.2	0.0		0.2	
薬学科	生化学分野	教授	中山祐治	男	45	2012/7/1	2012/7/1	基礎科学実習	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	京都大学大学院 博士(医学)		
								基礎科学実習	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0		0.1	
薬学科	生化学分野	教授	中山祐治	男	45	2012/7/1	2012/7/1	早期体験学習(企業見習い)	0.6						0.6	0.0	0.0	千葉大学大学院 修士課程 博士(薬学)		
								生化学B	0.9							0.9	0.0		0.0	
薬学科	生化学分野	教授	中山祐治	男	45	2012/7/1	2012/7/1	先端分子生物学概論	0.1						0.1	0.0	0.0	千葉大学大学院 修士課程 博士(薬学)		
								生化学A	0.7							0.7	0.0		0.0	
薬学科	生化学分野	教授	中山祐治	男	45	2012/7/1	2012/7/1	生化学実習	0.2						0.2	0.0	0.0	千葉大学大学院 修士課程 博士(薬学)		
								生化学特論	1.8	0.7	0.0	0.0	0.1	0.4	0.0	1.9	1.1		0.0	1.5

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号								
									講義		演習		実験・実習・実技		計		前期	後期	通年	前期			後期	通年						
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									前期	後期	通年			
薬学科	生化学分野	助教	齋藤洋平	男	36	2005/4/1	2007/4/1	生化学B	0.3					0.3	0.0	0.0								京都医科大学大学院 博士(後期課程) 博士(薬学)						
								生化学C	0.5										0.5	0.0	0.0									
								生化学実習									0.4													
								生化学特論																						
								演習			0.2																			
								計	0.8	0.0	0.0	0.2	0.0	0.4	0.0	0.8	0.4	0.2	0.5											
薬学科	病態生理学分野	教授	芦原英司	男	51	2012/4/1	2012/4/1	早期体験学習(企業見学実習)				0.1												京都府立医科大学 博士(医学)						
								生理学B	1.0																					
								先端薬理学概論	0.0	0.6																				
								生理学A																						
								薬理学実習	1.0	0.6	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.6											
								計	1.0	0.6	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.6											
薬学科	病態生理学分野	准教授	北村佳久	男	52	1994/4/1	1994/4/1	早期体験学習(企業見学実習)				0.2												法政大学大学院 博士(前期課程) 薬学博士						
								生理学B	0.2																					
								先端薬理学概論	0.0	0.7																				
								生理学A																						
								薬理学実習	0.2	0.7	0.0	0.6	0.2	0.1	0.0	0.4	0.8	0.6	0.6											
								計	0.2	0.7	0.0	0.6	0.2	0.1	0.0	0.4	0.8	0.6	0.6											
薬学科	病態生理学分野	助教	高田和幸	男	36	2006/4/1	2007/4/1	早期体験学習(企業見学実習)				0.1												京都医科大学大学院 博士(後期課程) 博士(薬学)						
								生理学B	0.2																					
								先端薬理学概論	0.0	0.4																				
								生理学A																						
								薬理学実習	0.2	0.4	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.3	0.5	0.0	0.3											
								計	0.2	0.4	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.3	0.5	0.0	0.3											
薬学科	病態生理学分野	教授	秋葉 聡	男	50	1991/4/1	2008/4/1	薬物治療学D	0.8														京都医科大学大学院 博士(後期課程) 薬学博士							
								先端病態科学概論	0.1																					
								薬物治療学B		0.9																				
								生化学実習									0.4													
								病態生化学特論	0.2																					
								計	1.1	0.9	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	1.1	1.3	0.0	1.2											
薬学科	病態生理学分野	講師	石原慶一	男	39	2009/4/1	2010/4/1	早期体験学習(企業見学実習)				0.1											京都医科大学大学院 博士(後期課程) 博士(薬学)							
								薬物治療学D	0.6																					
								先端病態科学概論	0.1																					
								薬物治療学A		0.4																				
								薬物治療学B		0.5																				
								生化学実習																						
								基礎演習																						
								病態生化学特論	0.2																					
								計	0.9	0.9	0.0	0.6	0.1	0.4	0.0	1.0	1.3	0.6	1.0											
薬学科	薬物治療学分野	助手	金井志帆	女	28	2010/4/1	2010/4/1	生化学実習				0.4											帝京大学大学院 修士課程 修士(薬学)							
								早期体験学習(企業見学実習)																						
								薬理学D	1.1																					
								先端病態科学概論	0.1																					
								薬物治療学A																						
								薬物治療学E		0.7																				
								薬理学実習		0.8																				
								基礎演習																						
								演習																						
								計	1.2	1.5	0.0	2.6	0.1	0.3	0.0	1.3	1.8	2.6	1.9											
薬学科	薬物治療学分野	助教	天ヶ瀬紀久子	女	42	1985/4/1	2007/4/1	早期体験学習(企業見学実習)				0.1											京都医科大学大学院 修士課程 博士(薬学)							
								先端病態科学概論	0.0																					
								薬物治療学A		0.3																				
								薬物治療学E		0.3																				
								薬理学実習																						
								計	0.0	0.6	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.1	0.9	0.0	0.5											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号			
									講義		演習		実験・実習・実技		計		前期	後期	通年	前期			後期	通年	
									後期	前期	通年	後期	前期	後期	通年	前期									後期
薬学科	臨床薬理学分野	教授	中田徹男	男	56	1988/4/1	2003/5/1	基礎薬理学(基礎薬理学Ⅰ)	1.2				0.2				0.2	0.0	0.0	京都府立医科大学大学院 博士課程 医学博士					
								免疫学	0.5																
								薬物治療学C	0.3																
								先端臨床医学概論	0.1																
								アブゾミド-薬物治療学	0.2																
								薬物治療学F	0.3																
薬学科	臨床薬理学分野	准教授	小原 幸	女	49	2004/2/1	2004/2/1	計	2.0	0.3	0.0	0.3	0.2	0.1	0.0	2.2	0.4	0.3	1.0	京都府立医科大学 博士 (医学)					
								早期体験学習(救命応急)	0.1																
								免疫学	0.6																
								薬物治療学C	0.0																
								先端臨床医学概論	1.1																
								薬物治療学F	0.3																
薬学科	臨床薬理学分野	助教	鳥羽裕恵	女	35	2002/4/1	2007/4/1	早期体験学習(救命応急)	0.7	1.1	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0	0.8	1.2	0.3	0.8	京都府立医科大学大学院 修士課程 博士 (薬学)					
								免疫学	0.1																
								薬物治療学C	0.1																
								薬理学実習	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.3	0.1	0.0	0.1		0.0	0.0	0.1		
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0		0.1	0.0	0.0	0.1	
								早期体験学習(企業見学引継)	1.4																
薬学科	薬理学分野	教授	大東 誠	男	32	2013/4/1	2013/4/1	薬理学実習	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	京都府立医科大学大学院 修士前期課程 博士 (薬学)				
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.1	
								早期体験学習(企業見学引継)	1.4																
								薬理学A	0.7																
								薬理学B	0.1																
								薬理学C	0.4																
薬学科	薬理学分野	准教授	藤井正徳	男	47	1990/4/1	2001/1/1	計	2.3	1.1	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0	2.4	1.2	0.3	1.3	京都府立医科大学大学院 修士課程 博士 (薬学)					
								早期体験学習(企業見学引継)	0.7																
								先端薬理学概論	0.0																
								薬理学B	0.6																
								薬理学C	0.1																
								薬理学実習	0.1																
薬学科	薬理学分野	助教	藤井正徳	男	36	2006/4/1	2007/4/1	計	0.8	1.3	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0	0.9	1.4	0.3	0.9	京都府立医科大学大学院 修士後期課程 博士 (薬学)					
								早期体験学習(企業見学引継)	0.0																
								先端薬理学概論	0.3																
								薬理学B	0.3																
								薬理学C	0.1																
								薬理学実習	0.1																
薬学科	臨床薬理学分野	教授	吉貴達寛	男	59	2009/4/1	2009/4/1	計	0.1	0.6	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.2	0.8	0.0	0.3	京都府立医科大学大学院 博士課程 博士 (医学)					
								早期体験学習(企業見学引継)	0.9																
								解剖学	0.1																
								薬物治療学C	0.2																
								がん化学療法概論	0.6																
								薬物治療学F	0.5																
計	1.7	0.2	0.0	2.6	0.1	0.1	0.0	1.8	0.3	2.6	1.6														

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号								
									講義		演習		実験・実習・実技		計													
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期	後期	前期	後期	計			
薬学科	臨床薬学分野	助教	飯居宏美	女	32	2010/7/1	2010/7/1	基礎科学実習 演習																	京都薬科大学大学院 修士後期課程 博士(薬学)			
薬学科	薬科学分野	教授	山本 昌	男	55	1991/1/1	1998/1/1	早期体験学習(企業見学実習) 計	0.1																京都薬科大学大学院 修士課程 薬学博士			
薬学科	薬科学分野	准教授	坂根稔康	男	51	2007/10/1	2007/10/1	早期体験学習(企業見学実習) 薬科学B 先端薬物動態学概論 薬科学C 薬科学・薬物動態学実習 基礎演習 計	0.1																京都薬科大学大学院 修士課程 博士(薬学)			
薬学科	薬科学分野	助教	勝見英正	男	33	2006/4/1	2007/4/1	早期体験学習(企業見学SD) 薬科学B 薬科学・薬物動態学実習 演習	0.2																京都薬科大学大学院 修士課程 博士(薬学)			
薬学科	薬物動態学分野	助教	草森浩輔	男	29	2013/4/1	2013/4/1	薬科学・薬物動態学実習 演習	0.2																京都薬科大学大学院 修士後期課程 博士(薬学)			
薬学科	薬物動態学分野	教授	高田寛治	男	64	1981/6/1	1990/12/1	薬物動態学A 1.1 先端薬物動態学概論 0.1 薬物動態学 薬物動態学B 1.0 アーマイト・薬物治療学 薬科学・薬物動態学実習 臨床薬物動態学特論 計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	1.1	京都薬科大学大学院 修士課程 博士(薬学)
薬学科	薬物動態学分野	講師	伊藤由佳子	女	42	2009/4/1	2011/1/1	早期体験学習(企業見学SD) 薬物動態学A 薬物動態学 1.0 薬物動態学B 0.3 アーマイト・薬物治療学 0.2 薬科学・薬物動態学実習 基礎演習 臨床薬物動態学特論 計	0.2																	京都薬科大学大学院 修士課程 博士(薬学)		
薬学科	臨床薬学分野	教授	西口工司	男	48	2008/10/1	2008/10/1	早期体験学習(企業見学SD) 調理学 1.1 先端臨床薬学概論 0.0 アーマイト・薬物治療学 0.5 基礎演習 病院・薬局へ行く前に 演習 計	1.4	0.5	0.0	0.6	0.1	0.8	0.0	0.6	0.1	0.8	0.0	0.6	0.1	0.8	0.0	1.5	1.3	0.6	1.1	京都薬科大学大学院 修士課程 博士(薬学)
薬学科	臨床薬学分野	講師	辻本雅之	男	36	2006/4/1	2010/7/1	早期体験学習(企業見学SD) 調理学 0.2 先端臨床薬学概論 0.0 アーマイト・薬物治療学 0.3 病院・薬局へ行く前に 基礎演習 計	1.1	0.5	0.0	3.3	0.6	5.0	0.0	1.7	5.5	3.3	3.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 博士(薬学)
薬学科	臨床薬学分野	助手	梶垣哲也	男	30	2009/4/1	2009/4/1	基礎演習 計	0.2	0.3	0.0	0.3	0.1	5.0	0.0	0.3	5.3	0.3	2.0							京都薬科大学大学院 修士課程		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号		
									講義		演習		実験・実習・実技		計							
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期	後期
薬学科	健康科学分野	准教授	長澤吉則	男	45	2009/4/1	2009/4/1	早期体験学習(ハンデアカヤック)	0.7		0.1		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	金沢大学大学院 博士後期課程 博士(学術)				
								健康科学														
								体育実技	1.4		1.4											
								スポーツ療法					1.4									
薬学科	健康科学分野	講師	沼尾成晴	男	33	2012/4/1	2012/4/1	早期体験学習(ハンデアカヤック)	0.7		0.1		0.1	0.0	0.0	0.0	筑波大学大学院 博士課程 博士(スポーツ医学)					
								健康科学														
								体育実技	1.4		1.4											
								スポーツ療法					1.4									
薬学科	物理学分野	教授	有本 収	男	56	2007/4/1	2007/4/1	早期体験学習(救命応急・意思交換会)	1.4		0.2		0.2	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士課程 理学博士					
								基礎物理学A														
								基礎物理学B					0.6									
								基礎演習	1.4	0.0	0.6	0.2	0.0	0.0	1.6	1.4		0.6	1.2			
薬学科	数学	准教授	葛城大介	男	48	2005/10/1	2005/10/1	早期体験学習(ハンデアカヤック)	1.4		0.2		0.2	0.0	0.0	0.0	東京工業大学大学院 博士課程 博士(理学)					
								数学統計解析学														
								基礎数学B					0.6									
								基礎演習	1.4	0.0	0.6	0.2	0.0	1.6	1.4	0.6		1.2				
薬学科	一般教育	教授	鈴木栄樹	男	60	1992/4/1	2009/7/1	早期体験学習(研究発表会等4回)	1.4		0.2		0.2	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士課程					
								歴史A														
								英語2B														
								科学史	0.2													
薬学科	一般教育	准教授	児玉富美子	女	64	1998/4/1	1998/4/1	早期体験学習(意見交換会)	2.3	2.1	0.0	0.0	0.2	0.6	0.0	2.5	2.7	0.0	1.7	ニッポン大学 ハツアアロー校 博士課程 P.h.D		
								英語1A	1.4			0.1										
								英語1A	1.4													
								英語1A	1.4													
薬学科	一般教育	准教授	桑形広司	男	58	1992/4/1	1992/4/1	早期体験学習(ハンデアカヤック)	4.9	4.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	5.0	4.2	0.0	4.6	京都外国語大学大学院 修士課程		
								外国文学A	0.7			0.2										
								ドイツ語と文化A	0.7													
								ドイツ語2A	0.7													
薬学科	一般教育	准教授	今井千壽	女	52	1988/4/1	1995/4/1	早期体験学習(ハンデアカヤック)	2.1	2.1	0.0	0.6	0.2	0.0	0.0	2.3	2.1	0.6	1.7	京都大学大学院 修士課程		
								英語1A	1.4			0.2										
								英語1A	1.4													
								英語2A	1.4													

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号															
									講義		演習		実験・実習・実技		計																						
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																	
薬学科	一般教育	准教授	野崎亜希子	女	42	2013/4/1	2013/4/1	基礎薬学Ⅰ(70分×1)	0.7		0.2				0.2	0.0	0.0	0.0	千葉大学大学院 博士課程 博士(法学)																		
								医療と社会	0.7								0.7	0.0		0.0																	
								法学A	0.7								0.7	0.0		0.0																	
								英語2C	0.7								0.7	0.0		0.0																	
								法学B	0.7								0.7	0.0		0.0																	
								日本国憲法	0.7								0.0	0.7		0.0																	
								英語2E	0.7								0.0	0.7		0.0																	
								現代社会	0.7								0.0	0.7		0.0																	
								基礎演習	0.6								0.6	0.0		0.0	0.6																
								計	2.8	2.1	0.0	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0		2.1	0.6	1.9															
薬学科	一般教育	講師	坂本尚志	男	36	2013/4/1	2013/4/1	フランス語2A	0.7		0.2				0.2	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士後期課程 ポスドク大学院 博士課程 哲学博士																		
								科学史	0.5								0.7	0.0		0.0																	
								人間学	0.7								0.7	0.0		0.0																	
								医療の担い手としての心構えA	0.3								0.0	0.3		0.0																	
								フランス語2B	0.7								0.0	0.7		0.0																	
								文化論A	0.7								0.0	0.7		0.0																	
								哲学倫理学	0.7								0.0	0.7		0.0																	
								基礎演習	0.6								0.6	0.0		0.0	0.6																
								計	1.9	2.4	0.0	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1		2.4	0.6	1.7															
								薬学科	薬学英語	教授	フオン	男	61	2010/4/1	2010/4/1	東学英語1A	1.4							1.4	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士後期課程 薬学博士									
東学英語2	1.4															1.4	0.0	0.0																			
実用薬学英語A	1.4																1.4	0.0	0.0																		
東学英語1B	1.4																0.0	1.4	0.0																		
東学英語2	1.4																0.0	1.4	0.0																		
実用薬学英語B	1.4																0.0	1.4	0.0																		
基礎演習	0.6																0.6	0.0	0.0	0.6																	
計	4.2	4.2	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0									0.0	4.2	4.2	0.6	3.0																	
教育研究センター	薬学教育 研究センター	准教授	細井信造	男	52	2007/10/1	2007/10/1									早期体験演習(企業見学引継)		0.1					0.1	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士課程 博士(薬学)										
																薬学演習	0.8								0.8	0.0			0.0								
								有機化学D	0.7								0.0	0.7	0.0																		
								天然医薬品学B	0.3								0.0	0.3	0.0																		
								共用試験演習	—								—	0.0	0.0	0.0																	
								薬学特別演習	—								—	0.0	0.0	0.0																	
								基礎演習	0.6								0.6	0.0	0.0	0.6																	
								計	0.0	1.0	0.8	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.9	1.0	0.6	0.8																	
								教育研究センター	薬学教育 研究センター	助教	關 章宏	男	43	1998/4/1	2007/4/1	前期体験演習(救命心電、意思交換機)		0.2					0.2	0.0	0.0	0.0		京都薬科大学大学院 博士後期課程 博士(薬学)									
																生命科学	0.2								0.2	0.0			0.0								
薬学演習	0.4																0.4	0.0	0.0																		
共用試験演習	—																—	0.0	0.0	0.0																	
薬学特別演習	—																—	0.0	0.0	0.0																	
計	0.2	0.0	0.4	0.0	0.2	0.0	0.0									0.0	0.8	0.0	0.0	0.4																	
教育研究センター	薬学教育 研究センター	助手	吉村典久	男	32	2013/4/1	2013/4/1									薬学演習	0.5						0.5	0.0	0.0	0.0	名古屋州立大学大学院 修士課程										
																共用試験演習	—							—	0.0	0.0			0.0								
																薬学特別演習	—								—	0.0			0.0	0.0							
																計	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0			0.0								
								教育研究センター	薬学教育 研究センター	助手	西村奏映	女	27	2010/4/1	2013/4/1	薬学演習	1.0						1.0	0.0	0.0	0.0		京都薬科大学									
																共用試験演習	—							—	0.0	0.0			0.0								
																薬学特別演習	—								—	0.0			0.0	0.0							
																計	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0			0.0								
																教育研究センター	薬学教育 研究センター	助手	高木愛未	女	25	2013/4/1	2013/4/1	薬学演習	—								—	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学
																								共用試験演習	—									—	0.0	0.0	
薬学特別演習	—																								—	0.0	0.0		0.0								
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0																	0.0	0.0	0.0	0.0										
教育研究センター	臨床薬学 教育研究 センター	教授	高山 明	男	62	2006/4/1	2006/4/1																	早期体験演習(病院薬師実習指導)	0.1		0.3				0.3	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学 修士課程 博士(医学)		
																								医療の担い手としての心構えB	0.4								0.4	0.0		0.0	
								病院薬学A	0.4																0.4	0.0	0.0										
								緩和医療概論	0.0																0.0	0.0	0.0										
								病院薬学B	1.0																1.0	0.0	0.0										
								病院・薬局へ行く前に	—																—	5.0	0.0	5.0									
								病院・薬局で学ぶ	—								—	0.0	0.0	0.0																	
								計	0.5	1.3	0.0	0.0	0.3	5.0	0.0	0.8	6.3	0.0	0.0	3.6																	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号			
									講義		演習		実験・実習・実技		計		前期	後期	通年	前期			後期	通年	
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									前期
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	教授	橋詰 勉	男	32	1986/4/1	2009/4/1	早期体験学習 (フロアマト3rd)	0.8			0.3			0.3	0.0	0.0								京都薬科大学大学院 修士課程 博士(薬学)
												0.6													
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	教授	矢野義孝	男	50	2009/4/1	2009/4/1	先導臨床薬学概論	0.1	1.4														京都薬科大学大学院 修士後期課程 薬学博士	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	准教授	津島美幸	女	50	1987/4/1	2010/4/1	臨床情報学																京都薬科大学 博士(薬学)	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	講師	中村暢彦	男	43	2008/4/1	2008/4/1	早期体験学習 (病院薬局見学S020B)				0.2												岡山大学大学院 修士課程 博士(薬学)	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	講師	本橋秀之	男	41	2011/7/1	2011/7/1	薬理学D	0.2															京都薬科大学 修士後期課程 博士(薬学)	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	講師	今西孝至	男	41	2010/4/1	2010/4/1	医療の担い手としてのこころ構えB				0.6												近畿大学大学院 修士後期課程 博士(薬学)	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	講師	河野修治	男	38	2010/4/1	2010/4/1	早期体験学習 (病院薬局見学S020B)	0.4			0.2												神戸薬科大学大学院 修士課程	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	助教	松村千佳子	女	46	2009/4/1	2009/4/1	医療の担い手としてのこころ構えB				0.2												京都薬科大学大学院 修士課程	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	助教	松尾道代	女	28	2010/4/1	2013/4/1	計																京都薬科大学	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	教授	藤内徳蔵	男	62	2011/4/1	2011/4/1	病院・薬局へ行く前に	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	静岡薬科大学	
教育研究センター	臨床薬学教育研究センター	教授	稲田節子	女	62	2011/4/1	2011/4/1	病院・薬局へ行く前に	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週時間数	最終学歴及び学位称号						
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計		後期	前期	後期			前期	後期	計			
									後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期									後期	前期	後期
教育研究 総合センター	臨床薬学 教育研究 センター	教授 特別教授	石津雅弘	男	65	2013/4/1	2013/4/1	病院・薬局へ行く前 に 病院・薬局で学ぶ 計	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	京都薬科大学			
教育研究 総合センター	臨床薬学 教育研究 センター	教授 特別教授	中嶋澄江	女	60	2013/4/1	2013/4/1	病院・薬局へ行く前 に 病院・薬局で学ぶ 計	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学		
教育研究 総合センター	臨床薬学 教育研究 センター	教授 特別教授	金澤治男	男	70	2010/4/1	2010/4/1	病院・薬局で学ぶ 計	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 薬学博士		
教育研究 総合センター	臨床薬学 教育研究 センター	教授 特別教授	西野武志	男	68	2010/4/1	2010/4/1	病院・薬局で学ぶ 計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 医学博士		
教育研究 総合センター	臨床薬学 教育研究 センター	教授 特別教授	野出 學	男	68	2010/4/1	2010/4/1	病院・薬局で学ぶ 計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 博士課程 薬学博士		
教育研究 総合センター	臨床薬学 教育研究 センター	教授 特別教授	藤本貞毅	男	69	2010/4/1	2010/4/1	病院・薬局で学ぶ 計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	大阪大学大学院 博士課程 薬学博士		
教育研究 総合センター	情報処理 教育研究 センター	教授	深田 守	男	64	1972/4/15	2010/1/1	早期体験学習 (救命心志) 情報科学 基礎数学 B 基礎演習 計	1.4	0.2	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	京都薬科大学大学院 修士課程 修士 (薬学)	
教育研究 総合センター	情報処理 教育研究 センター	准教授	藤原洋一	男	50	1987/4/1	2010/1/1	情報科学 (救命心志) 情報科学 基礎数学 B 基礎演習 計	1.4	0.2	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	京都薬科大学大学院 修士課程 修士 (薬学)	
教育研究 総合センター	情報処理 教育研究 センター	講師	石川誠司	男	45	1999/10/1	2010/1/1	早期体験学習 (救命心志) 基礎数学 B 基礎演習 計	1.4	0.2	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	京都薬科大学大学院 修士課程 修士 (薬学)	
教育研究 総合センター	学生実習支援 センター	准教授	木村 徹	男	49	1988/4/1	2007/7/1	1-2-3年次実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 修士 (薬学)	
教育研究 総合センター	学生実習支援 センター	講師	竹島繁雄	男	62	1973/4/1	1998/4/1	1-2-3年次実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学 博士 (薬学)	
教育研究 総合センター	学生実習支援 センター	講師	若槻 徹	男	64	1975/4/1	1999/4/1	1-2-3年次実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 修士 (薬学)	
教育研究 総合センター	学生実習支援 センター	助教	河野享子	女	55	1989/1/1	2007/4/1	1-2-3年次実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	東京工科大学大学院 博士課程 理学博士	
教育研究 総合センター	学生実習支援 センター	助教	平山恵津子	女	45	1992/4/1	2007/4/1	1-2-3年次実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	博士 (医学) 博士 (薬学)	
教育研究 総合センター	学生実習支援 センター	助教	小関 稔	男	38	2012/10/1	2012/10/1	1-2-3年次実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 博士課程 修士 (薬学)	
教育研究 総合センター	学生実習支援 センター	助教	高尾郁子	女	35	2004/4/1	2007/4/1	1-2-3年次実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学大学院 修士課程 修士 (薬学)	
教育研究 総合センター	学生実習支援 センター	助手	大谷有佳	女	25	2012/4/1	2012/4/1	1-2-3年次実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都薬科大学	
薬用植 物園	薬用植物園	助教	月岡淳子	女	34	2004/1/1	2007/4/1	早期体験学習 (救命心志) 有機化学・天然医薬品実習 計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	香川大学
薬用植 物園	薬用植物園	助手	前田晋作	男	25	2012/4/1	2012/4/1	計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	兵庫立大学大学院 専門職学位課程	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	科目名	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号									
									毎週授業時間数						講義																
									実験・実習・実技	通年	後期	前期	後期	前期	通年	後期	前期	後期	前期	通年			後期	前期	後期	前期					
放射線同位元素研究センター	放射線同位元素研究センター	准教授	山岸伸行	男	44	1997/4/1	2009/4/1	早期体験学習(企業見学SD)	0.0	0.1					0.1	0.0	0.0							京都大学大学院 博士課程 博士(医学)							
								生化学B	0.5												0.5	0.0	0.0								
								物理化学C	0.5												0.5	0.0	0.0								
								先端分子生物学概論	0.1												0.1	0.0	0.0								
								生化学A	0.7												0.0	0.7	0.0								
薬学科	動物研究センター	講師	西川哲	男	61	2012/7/1	2012/7/1	計	1.1	0.7	0.0	1.2	0.1	1.0	0.0	1.2	1.7	1.2	1.7	1.4				岡山大学大学院 博士課程 博士(農学)							
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
								早期体験学習(プロダクト)													0.1										
								基礎演習	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
								計	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
共同利用機器センター	共同利用機器センター	講師	小川俊次郎	男	63	1983/4/1	1992/4/1	計	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4			京都薬科大学大学院 薬学博士							
								計	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0			
								早期体験学習(プロダクト)	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
								計	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
共同利用機器センター	共同利用機器センター	助手	照屋千香子	女	38	2013/4/1	2013/4/1	計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	同志社女子大学						
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
生涯教育センター	生涯教育センター	教授	谷口隆之	男	67	2011/4/1	2011/4/1	計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	京都大学大学院 博士課程 医学博士						
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

最終学歴：単位取得満期退学の場合は、その課程(博士課程又は博士後期課程)を記載。中退の場合はその前歴を最終学歴

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

2013年度3～6年次在籍学生数 3年次生：375名、4年次生：378名、5年次生383名、6年次生344名

	分野名	指導教員数	3年次生		4年次生		5年次生		6年次生		合計	配属学生 1名当たりの 研究室の 広さ (㎡)	研究室の広 さ (㎡)
			研究	演習	研究	演習	研究	演習	研究	演習			
1	薬化学	3	5	8	4	6	10	3	0	8	44	7.45	327.72
2	薬品製造学	3	21	0	19	0	15	0	9	0	64	6.06	387.83
3	薬品化学	3	3	0	15	0	13	0	6	0	37	10.63	393.16
4	生薬学	2	17	4	16	4	18	3	18	3	83	4.85	402.51
5	薬品分析学	3	19	4	19	2	14	1	15	4	78	4.36	340.32
6	代謝分析学	2	11	4	19	2	17	2	14	1	70	4.89	342.46
7	薬品物理化学	2	4	0	5	0	11	0	22	5	47	5.94	279.40
8	衛生化学	2	15	0	10	0	21	0	17	1	64	6.24	399.58
9	公衆衛生学	2	9	2	16	3	13	3	13	0	59	5.77	340.70
10	微生物・感染制御学	3	21	0	14	0	20	0	15	1	71	4.40	312.35
11	細胞生物学	3	18	3	18	3	-	-	-	-	42	10.34	434.19
12	生化学	2	8	1	11	1	14	4	16	2	57	6.58	375.14
13	病態生理学	3	19	0	23	3	16	1	15	0	77	4.63	356.51
14	病態生化学	3	14	0	13	0	19	0	12	0	58	4.84	280.65
15	薬物治療学	2	15	0	17	2	18	3	17	2	74	4.19	310.27
16	臨床薬理学	4	22	1	19	1	21	3	21	3	91	4.14	376.99
17	薬理学	3	23	0	10	0	15	0	10	0	58	6.31	365.89
18	臨床腫瘍学	2	11	0	12	0	14	2	6	2	47	5.93	278.84
19	薬剤学	4	23	3	23	3	24	0	20	4	100	2.99	298.84
20	薬物動態学	2	7	2	9	2	9	2	13	1	45	10.53	473.66
21	臨床薬学	3	19	2	17	3	16	0	16	2	75	4.64	347.75
22	健康科学	2	3	0	5	0	4	0	7	0	19	7.48	142.08
23	物理学	1	2	0	1	0	1	0	2	0	6	17.79	106.72
24	薬学英語	1	-	6	-	5	-	6	-	-	17	1.69	28.70
25	臨床薬学教育研究センター	10	16	4	15	5	5	17	-	16	78	3.00	234.26
26	情報処理教育研究センター	3	-	4	-	2	-	5	-	3	14	8.97	125.60
27	薬用植物園	3	2	-	1	-	0	-	2	-	5	20.10	100.50
小 計			327	48	331	47	328	55	286	58	1480		
合 計				375		378		383		344	1480		

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
本校地キャンパス (全学共通)	講義室	36	4,209	専用	3,656	3,656	1.15	
	実習室	4	1,434	専用	400	400	3.59	
	演習室	21	1,203	専用				人数設定はしていない
	コンピュータ室	3	686	専用	356	356	1.93	
	学生自習室	3	234	専用	133	133	1.76	
	講義室	1	104	専用				人数設定はしていない
日野キャンパス (全学共通)								

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B*100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
躬行館(図書館棟)	303	303	100%				
愛学館				自習室他	133		
厚生棟(南校地)				自習室他		100席整備中	(工事中) 2014年9月 完成予定
計	303	303	100%		133	100席整備中	

- [注] 1 「学生収容定員(B)」には、当該施設を利用して全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
 2 「備考」欄には学生収容定員(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成22年度	平成23年度	平成24年度	
中央図書館	134,119	133,170	509	710	654	3,140	2,521	3,974	2,155	
〇〇図書室										
計										

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名	職名 学長	氏名 乾 賢一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当科目について 		2010年度 2011年度～ 現在に至る	1年次科目 薬学への招待を担当 1年次科目 医療の担い手としてのこころ構えA を担当
<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目における授業評価について 		2010年度 2011年度 2012年度	授業評価点 /10点 学内平均7.5点 授業評価点 /10点 学内平均7.7点 授業評価点 /10点 学内平均7.7点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業方法の工夫 		2010年度～ 2013年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイントの使用と、同時にその印刷物を配布した。 ・ 薬学・薬剤師の役割、使命、魅力について理解を深められるように、新聞記事や具体的事例を多用しながら、社会のニーズ、医療環境の変化などを含めて解説した。 ・ 一方的な講義ではなく、学生に考えさせ、関心を持たせるように工夫し、学生の発言を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療薬学 第5版, 堀了平監修, 乾賢一 他 編集, 廣川書店 (2009) ・ 薬剤師が発信するがん薬物療法のエビデンス, 乾賢一監修, じほう (2009) ・ 薬物トランスポータ活用ライブラリー, 乾賢一編集, 羊土社 (2009) ・ 腎機能別薬剤使用マニュアル 改訂3版, 乾賢一, 土井俊夫 編集, じほう (2010) ・ 薬剤学 第10版, 林正弘, 尾関哲也, 乾賢一 総編集, 廣川書店 (2013) 			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ Asian Association of Schools of Pharmacy, The 2nd Pharmacy Deans Forum “Advances and Challenges in Clinical Pharmacy Education in Asia” 		2012年6月	Advancing clinical pharmacy education in Japan-obstacles and solutions.
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第42回京都ききょう会生涯研修会 特別講演 		2012年7月	薬学6年制教育と薬剤師のこれから
<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府薬剤師会 第2回北部学術大会 特別講演 		2012年7月	薬学教育6年制と薬剤師の近未来～薬薬学の新たな連携に向けて～
<ul style="list-style-type: none"> ・ 城西大学薬学部創立40周年記念・薬学部生涯教育講座 (第50回) 		2013年10月	輝ける薬学・薬剤師の未来に向けて～医療現場と薬系大学の立場から～

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
・慶應大学大学院特別講義	2012年7月	薬物トランスポーター研究に魅せられて～From Bench to Bedside～
・日本学術会議・日本薬学会主催シンポジウム 「医薬品の安全性を科学する薬学」	2012年9月	薬物トランスポータ機能と副作用発現・防衛
・第26回日本薬物動態学会年会 会長講演	2011年11月	Expectations for the Next-Generation JSSX
・日本医療薬学会認定薬剤師	2014年1月	第 14-99-0005 号
・日本医療薬学会認定薬剤師制度指導薬剤師	2014年1月	第 14-99-0005 号
・日本臨床薬理学会認定薬剤師	2011年1月	第 0106 号
・日本臨床薬理学会認定薬剤師制度指導薬剤師	2011年1月	第 0303 号

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Organic cation transporter OCT/SLC22A and H(+)/organic cation antiporter MATE/SLC47A are key molecules for nephrotoxicity of platinum agents.	共著	2011年	<i>Biochem. Pharmacol.</i> , 81(5) , 563-568
Significance of trough monitoring for tacrolimus blood concentration and calcineurin activity in adult patients undergoing primary living-donor liver transplantation.	共著	2012年	<i>Eur. J. Clin Pharmacol.</i> , 68 , 259-266
Multidrug and toxin extrusion family SLC47: physiological, pharmacokinetic and toxicokinetic importance of MATE1 and MATE2-K.	共著	2013年	<i>Mol. Aspects. Med.</i> 34 , 661-668
Novel riboflavin transporter family RFVT/SLC52: identification, nomenclature, functional characterization and genetic diseases of RFVT/SLC52.	共著	2013年	<i>Mol. Aspects. Med.</i> 34 , 693-701
Organic cation transporter OCTs (SLC22) and MATEs (SLC47) in the human kidney.	共著	2013年	<i>AAPS J.</i> 15 , 581-588

III 学会等および社会における主な活動

1996年～現在に至る	日本医療薬学会 評議員
1996年～2012年	日本医療薬学会 理事
2012年～現在に至る	日本医療薬学会 監事
2006年～2011年	日本薬物動態学会 理事
2010年～2011年	日本薬物動態学会 会長
1992年～1995年, 2006年～2011年	日本薬剤学会 理事
2006年～現在に至る	日本薬剤学会 評議員
1998年～現在に至る	日本臨床薬理学会 評議員
2009年～2012年	日本臨床薬理学会 理事
2013年～現在に至る	日本臨床薬理学会 監事
1996年～現在に至る	日本TDM学会 評議員
1998年～2008年	日本TDM学会 理事
1995年～2013年	Pharmaceutical Research, Editor
2004年～現在に至る	Pharmacology and Therapeutics, Associate Editor
2006年～現在に至る	日本学術会議連携会員
2003年～2011年	京都府薬剤師会 会長
2010年～現在に至る	日本私立薬科大学協会 理事
2010年～現在に至る	薬学教育協議会 理事
2012年～現在に至る	日本私立大学協会 理事

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	微生物感染制御学
職名	教授	氏名	後藤直正
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 担当科目と授業評価	2012年度	<ul style="list-style-type: none"> ・6年次 院内感染概論： /10.0点 ・3年次 化学療法学： /10.0点 ・2年次 微生物学： /10.0点 ・2年次 感染症学： /10.0点 ・1年次 生命科学： 点/10.0点
		2011年度	<ul style="list-style-type: none"> ・6年次 院内感染概論： /10.0点 ・3年次 化学療法学： /10.0点 ・2年次 微生物学： /10.0点 ・2年次 感染症学： /10.0点
		2010年度	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次 化学療法学： /10.0点 ・2年次 微生物学： /10.0点 ・2年次 感染症学： /10.0点
		2009年度	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次 化学療法学： /10.0点 ・2年次 微生物学： /10.0点 ・2年次 感染症学： /10.0点
		2008年度	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次 化学療法学： /4.0点 ・2年次 微生物学： /4.0点 ・2年次 感染症学： /4.0点
		2007年度	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次 微生物学： /4.0点 ・2年次 感染症学： /4.0点
	授業方法の工夫	2007年度～	授業内容の復習のために、当日の配布プリントに自作の、またCBT級の確認問題を加えた。解説は次の時間の冒頭15分間くらいで行っている。また、教科書の内容やコアカリにとらわれず、臨床現場での感染症および治療に関する情報を学生に提供している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2009年11月20日	{教科書「薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学D第2版」}の執筆・編集
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 基礎演習・早期体験学習に向けたワールド・カフェ	2013年度	企画・実施； 2013年度に向け、より効果的な連携を模索し、両科目を充実させるための意見収集法として、ワールドカフェ方式を試みた。

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
ゲノム広場2008	2008年度	ゲノム広場展示・説明	
全国私立病院薬局長研修会	2008年度	講演	
薬剤師のためのワークショップ in 近畿	2009年度	第26回開催のタスクフォース	
薬剤師のためのワークショップ in 近畿	2010年度	第44回開催のタスクフォース	
平成23年度感染制御専門薬剤師講習会	2011年度	講演	
第7回奈良感染症サーベイランス	2011年度	講演	
第1回感染制御エキスパートミーティング	2012年度	講演	
大阪薬科大学OSCE	2012年度	評価者	
同志社女子大学OSCE	2013年度	評価者	
平成25年度感染制御専門薬剤師講習会	2013年度	講演	
インфекションコントロールドクター(ICT)	2006年1月	認定番号: CT0384	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 病原菌の今日的意味	共著	2011年11月	医薬ジャーナル社
(論文) The hemolytic and cytolytic activities of <i>Serratia marcescens</i> phospholipase A (PhIA) depend on lysophospholipid production by PhIA.	共著	2009年4月	BMC Microbiology 9:26.
(論文) Translocation of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> from the intestinal tract is mediated by the binding of ExoS to an Na ⁺ K ⁺ -ATPase regulator, FXYD3.	共著	2010年2月	Infection Immunity 78:4511-4522.
(論文) RND type efflux pump system MexAB-OprM of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> selects bacterial languages, 3-oxo-acyl-homoserine lactones, for cell-to-cell communication.	共著	2012年2月	BMC Microbiology 12:70.
(論文) A novel effector secretion mechanism based on proton-motive force dependent T3SA rotation.	共著	2013年3月	FASEB J. 27:2862-2872.
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年～現在	公益社団法人 日本化学療法学会評議員		
平成18年～現在	日本細菌学会評議員		
平成18年～現在	日本学術振興会・専門委員		
平成20年～現在	日本細菌学会シンポジウム企画委員		
平成21年～平成23年	公益社団法人 日本薬学会 近畿支部幹事		
平成21年	第43回緑膿菌感染症研究会学術集会会長		
平成22年～現在	公益社団法人 日本化学療法学会理事(庶務・抗菌化学療法認定薬剤師制度担当)		
平成22年～現在	公益社団法人 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員		
平成22年～平成23年	J. Infect. Chemother., Editorial Board Member		
平成22年～平成23年	公益社団法人 日本薬学会 代議員		
平成23年～現在	J. Infect. Chemother., Associate Editor		
平成24年～現在	公益社団法人 日本化学療法学会 耐性菌対策委員		
平成24年～現在	公益社団法人 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師制度副委員長		
平成24年～現在	社団法人 日本感染症学会 耐性菌ワーキンググループ		
平成24年	大学コンソーシアム京都 国際連携委員		

平成25年 第61回日本化学療法学会西日本支部総会・第56回日本感染症学会中日本地方学術集会・第83回日本感染症学会西日本地方学術集会(3学会共同開催)の第61回日本化学療法学会西日本支部総会会長および代表事務局長

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品化学	職名 教授	氏名 赤路健一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫	2011年4月～ 現在に至る 2012年4月～ 現在に至る 2013年4月～ 現在に至る 2011年度 2011年度 2012年度 2012年度 2012年度 2013年 現在に至る	3年次科目 4年次科目 6年次科目 1年次科目 分子薬品化学B 医薬開発論B 先端創薬概論 基礎演習 分子薬品化学B 医薬開発論B 分子薬品化学B 医薬開発論B 先端創薬概論 最近の医療に関するトピックスについて2-3人で調査し、5グループの結果についてお互いに議論を行う。	分子薬品化学B 医薬開発論B 先端創薬概論 基礎演習 /10点 (学年平均7.6点) /10点 (学年平均7.5点) /10点 (学年平均7.6点) /10点 (学年平均7.6点) /10点 (学年平均8.0点)
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年	生命系の基礎有機化学 (化学同人)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当無	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当無	

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
A Practical Synthesis of a Hydroxylated Sesquiterpene Coumarin 10'R-Acetoxy-11'-hydroxyumbelliprenin by Regioselective Dihydroxylation	共著	平成25年2月	Heterocycles, 2013, 87, 423-428
Evaluation of dimerization-inhibitory activities of cyclic peptides containing a β -hairpin loop sequence of the EGF receptor	共著	平成24年10月	Bioorg. Med. Chem. 2012, 20, 5730-5737
Structure-based Design, Synthesis, and Evaluation of Peptide-mimetic SARS 3CL Protease Inhibitors	共著	平成23年12月	J. Med. Chem. 2011, 54, 7962-7937
Evaluation of Superior BACE1 Cleavage Sequences Containing Unnatural Amino Acids	共著	平成23年5月	Bioorg. Med. Chem. 2011, 19, 2785-2789
Evaluation of peptide-aldehyde inhibitors using R1881 mutant of SARS 3CL protease as a proteolysis-resistant mutant	共著	平成23年3月	Bioorg Med Chem 16: 9800-9804, 2008
III 学会等および社会における主な活動			
平成13年4月～現在	文部科学省・科学技術動向研究センター専門調査員		
平成13年11月～現在	新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）事業評価者		
平成16年4月～現在	日本ペプチド学会理事		
平成23年4月～現在	日本薬学会近畿支部幹事		
平成24年4月～現在	日本ペプチド学会副会長		
平成25年4月～現在	有機合成化学協会関西支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	病態生化学分野
		職名	教授
		氏名	秋葉 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について 1年次科目 基礎演習 2年次科目 生化学実習 3年次科目 薬物治療学B 3-6年次科目 総合薬学研究 総合薬学演習A-D 4年次科目 薬物治療学D 6年次科目 先端病態科学概論 ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫 薬物治療学BおよびD		2007年4月～ 2010年12月 2007年4月～現在 2008年9月～現在 2008年9月～現在 2009年4月～現在 2011年4月～現在 2008年度～現在 2009年度～現在 2011年度～現在 2009年4月～現在	生活習慣病をテーマとしたSGD形式で進めるPBL 核酸、糖質、脂質に関する実習 代謝性疾患の病態と薬物療法(14回中9回) 3年次後期から6年次前期までの分野での 研究・演習活動(卒業論文作成指導) 血液疾患の病態と薬物療法(13回中9回) 代謝性疾患の最先端治療戦略等の概説(7回中2回) 薬物治療学B /10点(学内平均7.6点) 薬物治療学D /10点(学内平均7.7点) 先端病態科学概論 /10点(学内平均7.8点) 配布プリントや確認問題に関して、講義後にその補足内容 や解答・解説をそれぞれ追記したものを、webを介して取 得可能とし、学生が復習に活用できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書 最新薬物治療学 最新基礎薬理学 [第3版] ポケット問題集 基礎から学ぶ内分泌薬学		2008年3月 2011年11月 2011年～現在 2013年4月	第8章：白血球減少症・白血病(廣川書店) 第12章：血液系に作用する薬物(廣川書店) 薬剤師国家試験問題の抜粋改変版(毎年1回発行) 第10章：オータコイド(エルゼビア・ジャパン)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 薬剤師のためのワークショップ in 近畿 第2回WSタスクフォースのスキル・アップ集会 四国地区大学教職員能力開発ネットワークフォーラム 2011 平成24年度 薬学教育者のためのアドバンスワークショップ 第18回FDフォーラム		2007年～現在 2009年3月 2012年8月 2012年11月 2013年2月	実務実習における指導薬剤師の養成を目的とした研修プログラムに、タスクフォースまたは事務局として、年1-2回参加している(参加回数:8回)。 上記タスクフォースのスキル向上のための研修 FD研修として「授業研究会・授業コンサルテーション・教養教育の授業づくり・理工系講義での工夫」等を受講 「学習成果基盤型教育(Outcome-Based Education)に基づいて6年制薬学教育の学習成果を考える」と題した今後の薬学教育観点に関する研修に参加した。 「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」・「学生とともにすすめるFD」と題したFD研修に参加した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称
Group IVA phospholipase A ₂ is associated with the storage of lipids in adipose tissue and liver.	共著	2011年2月	Prostaglandins Other Lipid Mediat. Vol.86, No.
Group IVA phospholipase A ₂ -associated production of MMP-9 in macrophages and formation of atherosclerotic lesions.	共著	2008年3月	Biol. Pharm. Bull. Vol.31, No.3
Alleviation of high-fat diet-induced fatty liver damage in group IVA phospholipase A ₂ -knockout mice.	共著	2009年12月	PLoS ONE. Vol.4, No.12
Regulation of macrophage differentiation and polarization by group IVC phospholipase A ₂ .	共著	2011年2月	Biol. Pharm. Bull. Vol.34, No.2
Group IVA phospholipase A ₂ participates in the progression of hepatic fibrosis.	共著	2012年6月	FASEB J. Vol.26, No.10
III 学会等および社会における主な活動			
2009年4月～現在	日本生化学会評議員		
2011年4月～2013年3月	日本薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生理学分野	職名 教授	氏名 芦原 英司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について		2012年4月～2013年3月 2012年4月～現在 2012年9月～現在 2013年4月～現在	2年次科目「ヒトの機能調節A,B」担当 1年次科目「早期体験学習（企業見学）」 3年次科目「薬理学実習」、6年次科目「先端薬理学概論」 2年次科目「生理学A」担当 2年次科目「生理学B」担当
・授業方法の工夫		2007年4月～現在	見やすいスライドを作製した。 将来薬剤師となってからも役立つ内容も踏まえ、臨床実地内容も加えた講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・Myeloma Today ・任天堂DSソフト「病態生理DS」		2007年～現在	翻訳監修 翻訳監修
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・洛北サイエンス ・第62回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿 ・平成21年度 京都大学医学部附属病院 医師臨床研修指導医講習会 ・日本血液学会血液内科専門医試験作成委員 ・日本血液学会専門医 ・日本血液学会指導医 ・日本輸血学会認定医 ・日本内科学会認定医 ・日本内科学会指導医		2012年～現在（1/年） 2012年8月 2010年1月 2008年～2009年（1年間） 1994年4月 1994年4月 2001年1月 1990年9月 1990年9月	洛北高校附属中学校2年生に対して「生命科学研究」の面白さを体験してもらった。 実務実習指導薬剤師養成のワークショップに参加 活動貢献賞を受賞 臨床研修医指導の講習会に参加 211162 211162 11090 第1539号 第1539号
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
C/EBPβ promotes BCR-ABL-mediated myeloid expansion and leukemic stem cell exhaustion.	共著	2013年3月	Leukemia, 27, 619-628.
AV-65, a novel Wnt/β-catenin signal inhibitor, successfully suppresses progression of multiple myeloma in a mouse model.	共著	2011年11月	Blood Cancer J., 1, e43.
Targeting the Wnt/β-catenin signaling pathway in human cancers.	共著	2011年7月	Exp. Opin. Ther. Targets, 15, 873-887
Growth inhibition of imatinib-resistant CML cells with the T315I mutation and hypoxia-adaptation by AV65, a novel Wnt/β-catenin signaling inhibitor.	共著	2011年1月	Cancer Lett., 312, 91-100
Beta-catenin small interfering RNA successfully suppressed progression of multiple myeloma in a mouse model.	共著	2009年8月	Clin. Cancer Res., 15, 2734-2738
III 学会等および社会における主な活動			
1998年6月～現在	近畿血液学会地方会 評議員		
2006年10月～現在	日本血液学会 代議員		
2012年1月～現在	日本癌学会 評議員		
2012年4月～現在	日本生理学会 評議員		
2012年7月～現在	日本骨髄腫学会 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	京都薬科大学	講座名	物理学分野	職名	教授	氏名	有本 収
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について				2007年4月～ 2011年9月		1年次科目物理学Aを担当	
				2012年4月～ 現在に至る		1年次科目基礎物理学Aを担当	
				2007年9月～ 2012年3月		1年次科目物理学Bを担当	
				2012年9月～ 現在に至る		1年次科目基礎物理学Bを担当	
				2007年4月～ 2009年9月		1年次科目物理学補講を担当	
				2010年4月～ 現在に至る		1年次科目物理学補講Aを担当	
				2010年9月～ 現在に至る		1年次科目物理学補講Bを担当	
				2008年4月～ 現在に至る		1年次科目基礎演習を担当	
				2009年4月～ 現在に至る		1年次科目早期体験学習(救命応急手当)を担当	
				2007年4月～ 2010年3月		4年次科目特別実習を担当	
				2008年9月～ 現在に至る		3年次科目総合薬学研究Aを担当	
				2008年9月～ 現在に至る		3年次科目総合薬学演習Aを担当	
				2009年4月～ 現在に至る		4年次科目総合薬学研究Bを担当	
				2009年4月～ 現在に至る		4年次科目総合薬学演習Bを担当	
				2010年4月～ 現在に至る		5年次科目総合薬学研究Cを担当	
				2010年4月～ 現在に至る		5年次科目総合薬学演習Cを担当	
				2011年4月～ 現在に至る		6年次科目総合薬学研究Dを担当	
				2011年4月～ 現在に至る		6年次科目総合薬学演習Dを担当	

<p>・担当科目における授業評価について</p>	<p>物理学A 2007年度 物理学A 2008年度 物理学A 2009年度 物理学A 2010年度 物理学A 2011年度 基礎物理学A 2012年度 物理学B 2008年度 物理学B 2009年度 物理学B 2010年度 物理学B 2011年度 基礎物理学B 2012年度</p>	<p>授業評価 /4点 学内平均3.0点 授業評価 /4点 学内平均3.1点 授業評価 /10点 学内平均7.4点 授業評価 /10点 学内平均7.4点 授業評価 /10点 学内平均7.7点 授業評価 /10点 学内平均7.8点 授業評価 /4点 学内平均3.1点 授業評価 /10点 学内平均7.5点 授業評価 /10点 学内平均7.5点 授業評価 /10点 学内平均7.7点 授業評価 /10点 学内平均7.7点</p>
<p>・授業の工夫</p>	<p>物理学A, 同B 2007年度～ 基礎物理学A, 同B 現在に至る 基礎物理学A, 同B 2012年度～ 現在に至る 物理学補講B 2010年9月～ 現在に至る 基礎演習 2008年4月～ 現在に至る</p>	<p>・理解力の確認, 学習の動機付け, 形成的評価のため, 毎回授業の始めに前回授業内容の確認小テストを実施している。 ・毎回授業の最後に質問・感想・要望を書いてもらい, 翌週各人にコメントを返すと共に, 必要に応じて全員に紹介することで, 大人数クラスでの「対話型授業」を模索している。 ・視覚的に理解を促し, また物理現象に興味・関心を持ってもらうために, 演示実験のDVD教材を導入して講義内容と関連づけて紹介している。 ・後期にも補習授業を行い, 講義の補足説明や問題演習にあてることで, 高校で物理未履修の学生や物理の苦手な学生の学習支援に取り組んでいる。 ・SGDの導入:最近の医療に関するトピックス(テーマ自由選択)にグループ単位で取り組ませる。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>		<p>該当なし</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		<p>該当なし</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>	<p>2008年3月 2009年3月 2009年3月 2010年9月 2011年8月 2011年11月 2012年3月 2012年12月 2013年1月 2013年5月</p>	<p>大学コンソーシアム京都第13回FDフォーラム参加 大学コンソーシアム京都第14回FDフォーラム参加 第135回応急手当普及員講習会(本講習)参加 近畿地区大学教育研究会第79回研究協議会参加 第11回山形大学FD合宿セミナー参加 第119回応急手当普及員講習会(再講習)参加 関西地区FD連絡協議会共催 共通教育ワークショップ参加 大学コンソーシアム京都 2012年度第2回京都FDer塾参加 大学コンソーシアム京都 2012年度第3回京都FDer塾参加 関西地区FD連絡協議会第6回総会参加</p>

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）高濃度ボロンドープダイヤモンドの赤外分光	共著	2007年	SPring-8 User Experiment Report 2007A, SPring-8 WEB Data Base
（論文）高濃度ボロンドープダイヤモンドの基本光学スペクトル	単著	2008年	京葉論集（第15号）
（論文）高濃度ボロンドープダイヤモンドの基本光学特性	共著	2008年	第19回光物性研究会論文集
（論文）Photostimulated detection of radiation defects produced by VUV light in BaF2	共著	2010年	Radiation Measurements Vol. 45
（論文）単斜晶系化合物半導体における励起子ポラリトンの異方性	単著	2011年	京葉論集（第18号）
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年4月～現在に至る	大学コンソーシアム京都 FD研究WG委員		
平成24年9月	大学コンソーシアム京都 新任教員FD合同研修ファシリテーター		
IV 備考			
・推薦入試合格者対象の入学前教育の統括者として、eラーニングの導入やスクーリングの実施に取り組み、毎年、各教科担当者のとりまとめ役を担っている。（2009年度～）			
・成績下位の初年次学生を対象とした「朝学習」のボランティア教員として学生支援に取り組んでいる。2012年度からは実質的責任者として本プロジェクトの運営に携わっている。（2010年度～）			
・機関会員として本学が参加している初年次教育学会の学内担当の任を担っている。（2008年度～）			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬化学
職名	教授	氏名	上西 潤一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目と授業評価について	1999年4月～現在 2007年度 2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 1999年4月～現在 2007年度 2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 2010年4月～現在 2010年度 2011年度 2012年度 2010年4月～現在 2010年度 2011年度 2012年度 2011年4月～3月 2011年度 2012年4月～ 2012年度	2年次科目 有機化学Cを担当 授業評価 /4点 学内平均 2.9点 授業評価 /4点 学内平均 3.1点 授業評価 /10点 学内平均 7.4点 授業評価 /10点 学内平均 7.4点 授業評価 /10点 学内平均 7.7点 授業評価 /10点 学内平均 7.8点 2年次科目 専門基礎演習Cを担当 授業評価 /4点 学内平均 2.8点 授業評価 /4点 学内平均 3.1点 授業評価 /10点 学内平均 7.4点 授業評価 /10点 学内平均 7.4点 授業評価 /10点 学内平均 7.7点 授業評価 /10点 学内平均 7.8点 2年次科目 有機化学Dを担当 授業評価 /10点 学内平均 7.5点 授業評価 /10点 学内平均 7.7点 授業評価 /10点 学内平均 7.7点 2年次科目 専門基礎演習Dを担当 授業評価 /10点 学内平均 7.5点 授業評価 /10点 学内平均 7.7点 授業評価 /10点 学内平均 7.7点 6年次科目 先端有機化学概論を担当 授業評価 /10点 学内平均 7.7点 2年次科目 有機化学Bを担当 授業評価 /10点 学内平均 7.7点	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年3月 2008年3月 2008年4月 2010年3月 2011年3月 2013年3月	ソロモンの新有機化学 上 第9版 ソロモンの新有機化学 下 第9版 ソロモン 新有機化学・スタディガイド 第9版 “バザバ”薬学演習シリーズ④ 有機化学演習 初版 天然物合成で活躍した反応 初版 基礎有機化学問題集 初版	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
天然物合成で活躍した反応	共著	2011年3月	有機合成化学協会
Synthesis of Chiral 1-Substituted Tetrahydroisoquinolines by the Intramolecular 1,3-Chirality Transfer Reaction Catalyzed by B1 (OTf) ₃	共著	2011年3月	<i>J. Org. Chem.</i> , 76, 2102
PdII-catalyzed Cascade Reaction with 1,3-Chirality Transfer: Stereoselective Synthesis of Chiral Non-racemic 2,2'-THF-THF Ring Units	共著	2011年5月	<i>Org. Lett.</i> , 13, 2350
Total Synthesis and Biological Evaluation of (-)-Apicularen A and Its analogues	共著	2012年4月	<i>J. Org. Chem.</i> , 77, 388
Synthesis of of the 1-Phenethyltetrahydroisoquinoline Alkaloids (+)-Dysoxyline, (+)-Colchiethanamine and (+)-Colchiethine	共著	2012年11月	<i>J. Org. Chem.</i> , 77, 11101
III 学会等および社会における主な活動			
2000年4月～現在	日本薬学会近畿支部委員		
2001年4月～現在	関西サイエンス・フォーラム委員		
2006年8月～2007年7月	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査委員		
2002年12月～2008年11月 2012年12月～2013年11月	有機合成化学協会代議員		
2001年4月～2010年3月	科学技術動向研究センター専門調査員		
2006年4月～現在	大学化合物プロジェクト顧問		
2006年8月～2007年7月 2009年8月～2010年7月	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査委員		
2007年 2013年	有機合成化学協会関西支部・支部賞選考委員		
2007年4月～2011年3月 2012年4月～2014年3月	近畿化学協会代議員		
2008年4月～2011年3月	近畿化学協会事業企画委員		
2008年	日本薬学会 学会賞一次選考委員		
2006年12月～2007年11月 2009年12月～2012年11月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		
2010年2月～2012年2月	有機合成化学協会関西支部幹事		
2010年10月～2013年10月	日本化学会近畿支部代議員		
2009年, 2012年	第12回国際有機化学京都会議 (IKCOC-12) 組織委員会委員		
2012年	日本薬学会 学会賞二次選考委員		
2013年2月～2015年2月	有機合成化学協会理事		
2013年2月～2014年2月	有機合成化学協会関西支部・支部長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬理学分野	職名 教授	氏名 大矢 進
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目・授業評価について		2007年4月～ 2012年3月	2年次科目 機能形態学を担当 授業評価 /5点 学内平均3.5点
		2007年4月～ 2012年3月	2年次科目 薬理学・毒性学Ⅰを担当 授業評価 /5点 学内平均3.5点
		2007年4月～ 2012年3月	3年次科目 薬理学・毒性学Ⅲを担当 授業評価 /5点 学内平均3.5点
		2007年4月～ 2012年3月	医療系薬学実習Ⅰを担当 授業評価 /5点 学内平均3.5点
		2007年4月～ 2012年3月	4年次科目 薬学演習Ⅰを担当
		2007年4月～ 2012年3月	6年次科目 薬学演習Ⅱを担当
		2010年4月～ 2012年3月	4年次科目 臨床薬学Ⅱを担当 授業評価 /5点 学内平均3.5点
		2012年4月～ 2012年12月	3年次科目 薬理学Bを担当 授業評価 /10点 学内平均7.7点
		2012年4月～ 2012年12月	6年次科目 先端薬理学概論を担当 授業評価 /10点 学内平均8.0点
・授業方法の工夫		2009年4月～ 2012年3月	授業応答システムを用いた双方向性授業を行い、学生の学習意欲を高めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・医療系薬学実習書 (名古屋市立大学)			共著、2-19ページ担当 (全121ページ)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・名古屋市生涯教育センター主催の大学連携講座 ・第16回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海 タスクフォース		2007年4月～ 2009年3月 2008年11月	名古屋市生涯教育センター主催の名古屋市立大学連携講座「くすりの話：薬物治療の最前線」で「血管老化の予防と薬物治療」と題して講演した。 第16回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海において、タスクフォースとして「評価」に関する講義を行った。

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）New tricks for old dogs: KCNQ expression and role in smooth muscle	共著	平成21年4月	British Journal of Pharmacology, 156, 1196-1203.
（論文）Accelerated Ca ²⁺ entry by membrane hyperpolarization due to Ca ²⁺ -activated K ⁺ channel activation in response to histamine in chondrocytes	共著	平成22年4月	American Journal of Physiology Cell Physiology, 298, C786-C797
（論文）Involvement of dominant-negative spliced variants of the intermediate conductance Ca ²⁺ -activated K ⁺ channel, K _{Ca} 3.1, in immune function of lymphoid cells	共著	平成23年5月	Journal of Biological Chemistry, 286, 16940-16952.
（論文）Intermediate-conductance Ca ²⁺ -activated K ⁺ channel, K _{Ca} 3.1, as a novel therapeutic target for benign prostatic hyperplasia	共著	平成23年8月	Journal of Pharmacology & Experimental Therapeutics, 338, 528-536.
（論文）免疫疾患における創薬標的としてのカリウムチャネル	単著	平成24年6月	ファルマシア, 48, 509-514.
III 学会等および社会における主な活動			
平成13年4月～現在に至る	日本薬理学会 学術評議員		
平成20年4月～平成22年3月	日本薬学会 代議員		
平成21年4月～現在に至る	日本平滑筋学会 評議員		
平成24年4月～現在に至る	日本薬理学会 代議員		
IV 備考			
当該教員は、平成24年4月に京都薬科大学に赴任した。平成24年4月以前の教育、研究活動については名古屋市立大学大学院薬学研究科での実績である。			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬物治療学分野
職名	教授	氏名	加藤 伸一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・ 担当科目について		2006年4月～ 現在に至る	1年次科目基礎演習を担当
		2008年9月～ 現在に至る	3年次薬理学実習を担当
		2009年4月～ 現在に至る	4年次科目薬理学D、薬物治療学Eを担当
		2011年4月～ 現在に至る	6年次科目先端病態薬科学概論を担当
・ 担当科目における授業評価		2009年度	薬理学D /7.4、薬物治療学E /7.5
		2010年度	薬理学D /7.4、薬物治療学E /7.5
		2011年度	薬理学D /7.7、薬物治療学E /7.7、先端病態薬科学概論 /7.7
		2012年度	薬理学D /7.8、薬物治療学E /7.8、先端病態薬科学概論 /7.8
・ 講義での工夫			私の授業の進め方の基本は教科書と板書である。出来る限り教科書に沿って授業を進め、話しながらタイミング良く、また学生がノートにまとめ易いように整理して板書する。一度に200名近くの学生に講義しているため、コミュニケーションの点で難しい面もあるが、そのような環境の中でも一方的に講義するのではなく、学生には講義中に「考える」ことをしてもらえよう、時には質問を投げかけ、また問題点を抽出するなどの機会を取り入れるよう工夫している。また、担当科目が4年次であることから、特にCBT対策を兼ねて、毎講義の最後の10分間をその日の講義のオーバービューを行うとともに、適時CBTや国家試験の練習問題や過去問などの解説を取り入れている。
・ 薬理学実習での工夫			実習で得られた結果を実習ペアおよび実習班の中でディスカッションする機会を取り入れている。また、どのようにすれば効率的に実習を進められるかについて、学生自身に考えてもらい、出来るだけ学生自身の考えで実習を進めてもらうようにしている。一方、教育現場、研究、医薬品開発などにおける動物実験の必要性を講義するとともに、動物実験を行うに当たり、動物の福祉や苦痛の軽減、代替法などについて学生にも考えてもらうように工夫している。
・ 基礎演習での工夫			学生が個人または2～3人毎のグループになり、自分たちで題材を決めて調査させ、最終的にはプレゼン形式での発表を行う。演習の進行自体も原則学生に任せており、毎回非常に興味深い題材での演習が行われている(例 笑いとう癌、心の持ち方と薬の効果、香りとう病気など)。

2 作成した教科書、教材、参考書 最新薬物治療学 スタンダード薬学シリーズ4 日本薬学会編生物系薬学IV 演習編 最新薬理学	2007年3月 2011年6月 2011年1月	廣川書店 東京化学同人 廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 5-HT3 receptor antagonists ameliorate 5-fluorouracil-induced intestinal mucositis by suppression of apoptosis in murine intestinal crypt cells.	共著	2013年5月	British Journal of Pharmacology (168・6)
(論文) Potential role of the NADPH oxidase NOX1 in the pathogenesis of 5-fluorouracil-induced intestinal mucositis in mice.	共著	2012年5月	American Journal of Physiology Gastrointestinal Liver Physiology (302・10)
(論文) Dual role of serotonin in the pathogenesis of indomethacin-induced small intestinal ulceration: pro-ulcerogenic action via 5-HT3 receptors and anti-ulcerogenic action via 5-HT4 receptors.	共著	2012年6月	Pharmacological Research (66・3)
(論文) Activation of $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptors ameliorates indomethacin-induced small intestinal ulceration in mice.	共著	2011年1月	European Journal of Pharmacology (650・1)
(論文) Aggravation of cold-restraint stress-induced gastric lesions in adjuvant arthritic rats: pathogenic role of inducible and endothelial nitric oxide.	共著	2009年11月	Journal of Pharmacological Sciences (111・3)
III 学会等および社会における主な活動			
2000年4月～現在に至る	日本薬理学会評議委員		
2009年4月～現在に至る	日本消化管学会代議員		
2012年4月～現在に至る	日本消化管学会学術企画委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名：薬品分析学分野	職名：教授	氏名：北出 達也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
・担当科目について	2007年4月～ 2008年3月	1年次科目：基礎演習科目	
	2007年4月～ 現在に至る	2年次科目：機器分析学A 機器分析学実習	
	2008年4月～ 現在に至る	3年次科目：機器分析学B 臨床分析学 総合薬学研究A 総合薬学演習A	
	2009年4月～ 現在に至る	4年次科目：総合薬学研究B 総合薬学演習B	
	2010年4月～ 現在に至る	5年次科目：総合薬学研究C 総合薬学演習C	
	2011年4月～ 現在に至る	6年次科目：総合薬学研究D 総合薬学演習D 先端生命分子機構学概論	
	2012年4月～ 現在に至る	1年次科目：基礎化学	
・担当科目における授業評価について		総合評価の平均点数	学内平均点数
	2007年度	/4.0点	3.0点/4.0点
	2008年度	/4.0点	3.1点/4.0点
	2009年度	/10.0点	7.5点/10.0点
	2010年度	/10.0点	7.5点/10.0点
	2011年度	/10.0点	7.7点/10.0点
	2012年度	/10.0点	7.8点/10.0点
・授業方法の工夫	2007年4月～ 現在に至る	<ul style="list-style-type: none"> ・分析機器を構成する部品等の実物を見せることにより、測定機器を身近に感じ興味を持ってもらえるようにした。 ・配布資料として講義の予習や復習、さらに詳しい内容についての理解を深めることが可能なようにポケット版ミニ解説書を作成して配布した。 ・配付資料としてメモスペースを十分にとったパワーポイントの投影図を配付した。 ・教科書記載内容と講義内容の関連性を明確にするために、配付資料に教科書のページを記入すると共に講義中にも教科書のどこの部分について説明しているかを説明した。 ・知識の定着度を向上させるために講義の最終回を総復習にあてた。 	

2 作成した教科書、教材、参考書	2007年3月15日	(教科書)NEW薬学機器分析 第4版:廣川書店	
	2009年3月31日	(参考書)薬学分析科学の最前線:じほう	
	2011年8月10日	(教科書)NEW薬学機器分析 第2版:廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年9月8日	(発表)日本科学教育学会第37回年会「6年制薬学教育における実験実習支援センターの機能と役割」	
4 その他教育活動上特記すべき事 (FDを含む) ・第7回薬剤師のためのワークショップ in 近畿 (大阪) ・第4回名城大学臨床薬学教育臨床技能トレーニングプログラム及び第27回医学教育セミナーとワークショップ (名古屋) ・第19回薬剤師のためのワークショップ in 近畿 (京都) ・平成20年度第2回WSタスクフォース・スキルアップ集会 in 京都 (京都)	2007年5月5, 6日	タスクフォースとして協力	
	2008年1月12, 13日	参加	
	2008年8月9, 10日	タスクフォースとして協力	
	2009年3月25日	タスク補助として協力	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) NEW薬学機器分析 第4版	共著	2007年3月	廣川書店
(論文) Preparation and characterization of a new lipid nano-emulsion containing two cosurfactants, sodium palmitate for droplet size reduction and sucrose palmitate for stability enhancement	共著	2008年	Chem. Pharm. Bull., 56, 1097-1102
(論文) Characterization, in vitro cytotoxicity and cellular accumulation of paclitaxel-loaded lipid nano-emulsions	共著	2010年	J. Microencapsul., 27, 453-459
(論文) Spectroscopic studies on the interaction of mefloquine with phosphatidylcholine-phosphatidylserine bilayer vesicle and bovine serum albumin	共著	2012年	Curr. Pharm. Anal., 8, 286-294
(論文) Binding of diuretic antihypertensive bendroflumethiazide to human serum albumin studied by ¹⁹ F nuclear magnetic resonance method	共著	2012年	Eur. J. Pharm. Sci., 45, 195-200
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～現在に至る	薬学教育協議会分析化学系教科検討委員会委員		
平成19年4月～現在に至る	日本分析化学会近畿支部幹事 (平成23年度は常任幹事)		
平成19年4月～平成24年3月	日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部会委員		
平成20年4月～現在に至る	日本薬学会近畿支部委員		
平成21年4月～現在に至る	薬学教育協議会日本薬局方教科担当教員会議委員		
平成23年6月～平成25年3月	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団東部文化会館文化芸術活動活性化協議会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品物理化学	職名 教授	氏名 小暮健太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫</p> <p>・担当科目について</p> <p>2007年4月～2012年7月 2007年9月～2013年1月 2008年4月～2013年5月 2011年4月～ 2012年4月～ 2012年4月～ 2012年9月～ 2007年9月～ 2007年4月～ 現在に至る</p> <p>・担当科目における授業評価について</p> <p>2007年度 2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度</p> <p>物理化学の講義・身近なエピソードを取り入れ、講義終了時に復習用演習問題を取り入れた。 授業方式を反映させた教科書を作成し、プリントなどを極力するなくした。</p> <p>2009年4月～ 2011年4月～</p>		<p>2年次科目物理化学Aを担当 2年次科目物理化学Bを担当 3年次科目物理化学Cを担当 6年次科目先端生命分子機構学概論を担当 1年次科目基礎化学を担当 1年次科目物理化学Aを担当 1年次科目物理化学Bを担当 2年次科目物理化学実習を担当 大学院特論科目生物物理化学特論を担当</p> <p>授業評価 /10点 学内平均7.5点 授業評価 /10点 学内平均7.8点 授業評価 /10点 学内平均7.5点 授業評価 /10点 学内平均7.5点 授業評価 /10点 学内平均7.7点 授業評価 /10点 学内平均7.8点</p> <p>物理化学という学生にとって取りつきにくい科目への苦手意識を払しょくする工夫として身近なエピソードを取り入れた。 それまでの授業方式を教科書の構成に反映させることにより、教科書内容と講義全体をリンクさせることができるようになった。</p>	
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>「エピソード物理化学」</p>	2011年4月	<p>身近なエピソード、ポイント、講義内容（解説）、演習問題、コラムという授業方式にあった構成になっており、2色ずりでイラストを多くすることで、これまでの物理化学の硬いイメージを払しょくすることを心がけて作成した。</p>	
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>「第2回物理系薬学の教育・研究を展望するシンポジウム」において「物理化学の副読本についての構想」と題して講演</p> <p>「第5回物理系薬学の教育・研究を展望するシンポジウム」において「エピソード物理化学について」と題して講演</p>	2009年1月7日 2011年9月11日-12日	<p>日本薬学会物理系薬学部会主催、於：日本薬学会会長井記念館ホール</p> <p>日本薬学会物理系薬学部会主催、於：ホテル箱根アカデミー</p>	
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チームにおける活動</p>	2012年7月-2013年3月	<p>E班-b薬理・病態・薬物治療・薬剤情報に所属し、主に製剤関連のGIO、SBOsの検証・改訂に携わった。</p>	

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Multi-layered nano particles for penetrating the endosome and nuclear membrane via a step-wise membrane fusion process.	共著	平成21年3月	Biomaterials vol30, pp2940-2949 (2009)
（論文） Noninvasive and efficient transdermal delivery of CpG-oligodeoxynucleotide for cancer immunotherapy.	共著	平成23年1月	Journal of Controlled Release vol150, pp256-265 (2011)
（著書） 「新しいコンセプトに基づくペプチド医薬品の投与方法」	共著	平成24年11月	シーエムシー出版「ペプチド医薬の最前線」（木曾良明、向井秀仁 監修） pp136-140 (2012)
（論文） A novel effector secretion mechanism based on proton-motive force dependent type III secretion apparatus rotation.	共著	平成25年3月	FASEB Journal 印刷中
（著書） 「イオンフォレスिसによる機能性物質の皮内デリバリー」	共著	平成25年6月	シーエムシー出版「機能性化粧品と薬剤デリバリー」（杉林堅次、正木仁、市橋正光監修） pp121-
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年4月～現在	日本DDS学会評議員		
平成21年5月～現在	ビタミン学会評議員		
平成22年1月～現在	ビタミンE研究会幹事		
平成22年4月～平成24年3月	日本薬剤学会評議員		
平成22年4月～平成25年3月	日本薬学会BPB誌編集委員		
平成22年4月～現在	遺伝子デリバリー研究会役員		
平成24年4月～現在	日本薬剤学会理事		
平成24年6月～現在	物性物理化学研究会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

2 作成した教科書、教材、参考書 『英医事新聞のHeadline-読み方の基本-』（自家製本、非売品）	2007年度	2年次生英語テキストとして作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも 可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 近世京都災害関係資料	共編著	平成25年2月	立命館大学
(著書) 嘉永七年京都大火・安政度内裏造営関係資料	共編著	平成23年3月	立命館大学
(著書) みやこの近代	共著	平成20年3月	思文閣出版
(論文) 「京都御備」としての安政期の湖北通船路開鑿事業	単著	平成25年3月	人文学報(104号)
(論文) 「幕末の鴨川水害と鴨川浚計画」	単著	平成23年7月	京都市政史編さん通信(41号)
(論文) 旧彦根藩士西村捨三における〈京都の祝祭〉、そして彦根	単著	平成20年3月	『近代京都研究』思文閣出版
III 学会等および社会における主な活動			
平成12年6月～平成22年6月	京都民科歴史部会代表委員		
平成6年1月～現在	彦根市史編さん委員		
平成6年6月～現在	彦根市史編集委員		
平成24年4月～現在	公益財団法人 奈良屋記念杉本家保存会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名京都薬科大学	講座名 薬物動態学分野	職名教授	氏名高田寛治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義使用の全補助教材をホームページへアップロード		平成19年4月～ 平成25年7月現在	薬物動態学AおよびBの講義で使用する全補助教材をホームページへアップロードし、受講生が常時アクセスして印刷できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬物動態学（じほう社より出版）		平成19年4月～ 平成25年7月現在	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Method to increase the systemically delivered amount of drug from dissolving microneedles	共著	2012年	Chem Pharm Bull, in press
Transdermal insulin application system with dissolving microneedles	共著	2012年	Diabetes Technol Ther. 14, 891-899.
Utility of nano-sized, water-in-oil emulsion as a sustained release formulation of	共著	2011年	Biol. Pharm. Bull34, 300-305
Three-layered microcapsules as a long-term sustained release injection preparation.	共著	2010年	J. Pharmaceut. 384, 53-59
Self-dissolving micropiles for the percutaneous absorption of human growth	共著	2008年	Biol. Pharm. Bull. 31, 1631-1633
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年4月～平成25年7月現在	日本臨床薬理学会会員（評議員）		
平成19年4月～平成25年7月現在	日本薬物動態学会会員（評議員）		
平成19年4月～平成25年7月現在	日本DDS学会会員（評議員）		
IV 備考			
大阪治験病院（前大阪臨床薬理研究所）治験審査委員会IRB委員長、NPO法人・日本健康支援機構AN治験審査委員会IRB委員長			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京薬科大学	講座名	臨床薬学教育研究センター
職名	教授	氏名	高山 明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について		2008年～2009年	1年次：基礎演習
		2008年～2013年	1年次：早期体験学習
		2009年～2013年	4年次：病院薬学A
		2009年～2013年	4年次：病院薬学B
		2009年	4年次：地域薬局学
		2009年～2013年	4年次：病院・薬局に行く前に
		2010年～2013年	2年次：医療の担い手としてのこころ構え
		2010年～2013年	5年次：病院・薬局で学ぶ
2 作成した教科書、教材、参考書			
シナリオ症例解析—医療現場で今—		共著	2009年 京都廣川書店
医療薬学（第5版）		共著	2009年 廣川書店
実務実習指導例集（初版、第2版、第3版）		共著	2010年、2011年、2013年 京都府薬剤師会
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
実務実習受入連絡会（7回 講演）		2009年	京都府薬剤師会（3回）、京都府病院薬剤師会（2回）、滋賀県薬剤師会（1回）
「円滑な実務実習のための事前学習 実務家教員が果たす役割」		2010年	シンポジウム 第20回日本医療薬学会年会（千葉）
実務実習受入連絡会（5回 講演）		2010年	京都府薬剤師会（3回）、滋賀県薬剤師会（1回）、三重県薬剤師会（1回）、山口県薬剤師会（1回）
薬学・薬剤師教育の充実、薬剤師機能の向上、医療薬学の発展のために臨床系・実務家教員は何をすべきか？「京都薬科大学における臨床系教員の役割」		2012年	シンポジウム 第22回日本医療薬学会年会（新潟）
実務実習受入連絡会（2回 講演）		2011年	三重県薬剤師会（1回）、山口県薬剤師会（1回）
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
薬剤師のためのワークショップ in近畿（12回、17回）		2007年～2008年	タスクフォース
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）
			発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）特集「参加型」実務実習はどう実践されたか 大学の対応と今後に向けて		単著	2011年 月刊薬事, 53, 75-78
（著書）小特集1 実務実習をより良くするために		単著	2011年 医薬ジャーナル, 47, 133-135
（論文）Need for Pharmaceutical Care During Chemotherapy for Prevention of Side Effects: Examples of Blood Sugar Monitoring in Dexamethasone.		共著	2012年1月 Palliative Care Research vol.6 No.1
III 学会等および社会における主な活動			
2008年4月～現在		京都府薬剤師会理事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 衛生化学	職名 教授	氏名 長澤 一樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目及び2012年度授業評価(10点満点) ・授業方法の工夫		2007-2011 2012- 2007- 2011- 2007-	生物学A及びB(1年次) 生命科学(1年次): (学内平均7.8点) 栄養と健康(2年次): (学内平均7.7点) 先端衛生薬学概論(6年次): (学内平均7.8点) 最新のトピックスを積極的に活用し、出来る限り 双方向のやり取りとなるような講義を心がけた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年3月1日	薬学領域の食品衛生化学(編集)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2009年10月	2008年度京都薬科大学教育講演会教育賞
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) NAD ⁺ influx through connexin hemichannels prevents poly(ADP-ribose) polymerase-mediated astrocyte death	共著	2013年4月	Life Sciences, Vol. 92, No. 13
(論文) Mitochondrial dysfunction is involved in P2X7 receptor-mediated neuronal death	共著	2012年9月	Journal of Neurochemistry, Vol. 122, No. 6
(論文) Microglial zinc uptake via zinc transporters induces ATP release and the activation of microglia	共著	2011年12月	Glia, Vol. 59, No. 12
(論文) Contribution of P2X7 receptors to adenosine uptake by cultured mouse astrocytes	共著	2010年11月	Glia, Vol. 58, No. 14
(論文) Astrocyte cultures exhibit P2X7 receptor channel opening in the absence of exogenous ligands	共著	2009年4月	Glia, Vol. 57, No. 6
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年4月～	日本アブライド・セラピューティクス学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬理学分野	氏名	中田徹男
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
・担当科目について		2007年4月～ 現在に至る	3年次科目免疫学を担当		
・担当科目における授業評価について		2007年4月～ 現在に至る	4年次科目薬物治療学C, Fを担当		
・授業方法の工夫 板書とテキストの利用		2012年度	授業評価 /10点 学内平均7.5 全ての授業評価は平均 ~ の間にある		
		2007年4月～ 現在に至る	医療現場での話題、最近のトピックスなどを交え、学生の眼をみながら講義する。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
臨床医学の概論ノート第5～7版		2007年9月～	免疫学教科書として使用		
講義用スライドのハンドアウト資料		2007年9月～	毎講義前に配布		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)					
関西医・薬・看護学部学生フォーラム		2013年6月	コメンテーターとして参加		
日本循環器学会認定専門医		1994年3月	第05104号		
日本高血圧学会専門医		2009年4月	第0146号		
日本消化器内視鏡学会専門医		1993年12月	930499号		
日本消化器内視鏡学会指導医		2007年12月	930499号		
日本内科学会認定医		2004年3月	80755		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
(著書) 臨床医学の概論ノート第7版		共著	2012年2月	京都廣川書店	
(論文) Erythropoietin attenuated vascular dysfunction and inflammation by inhibiting NADPH oxidase-derived superoxide production in nitric oxide synthase-inhibited hypertensive rat aorta.		共著	2012年2月	Eur. J. Pharmacol., 691, 190-197	
(論文) Additive amelioration of oxidative stress and cardiac function by combined mineralocorticoid and angiotensin receptor blockers in postinfarct failing hearts.		共著	2012年4月	J. Cardiovasc. Pharmacol., 60, 140-149	
(論文) Telmisartan inhibits vascular dysfunction and inflammation via activation of peroxisome proliferator-activated receptor- γ in subtotal nephrectomized rat.		共著	2012年9月	Eur. J. Pharmacol., 685, 91-98	
(論文) Endothelial dysfunction, macrophage infiltration and NADPH oxidase-dependent superoxide production were attenuated by erythropoietin in streptozotocin-induced diabetic rat aorta		共著	2013年2月	Pharmacology, 91, 48-58	
III 学会等および社会における主な活動					
平成14年4月～現在	日本高血圧学会評議員				
平成15年4月～現在	日本心脈管作動物質学会評議員				
平成16年4月～現在	日本薬理学会学術評議員				
平成25年1月～現在	日本循環薬理学会世話人幹事				

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	生化学分野
職名	教授	氏名	中山 祐治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫		2012年7月～ 現在に至る 2012年度	1年次科目 生化学A, 2年次科目 生化学B, 3年次科目 生化学Cを担当 授業評価 /10点 学内平均7.8点 講義プリントは穴埋めであり, 講義はマンガや動画 を用いて視覚的にも理解しやすいようにしている。 毎回課題を与え, 講義時間中に学生に答えさせるこ とで, 自己学習を身につけさせようとしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・危険物取扱者免状(乙種4類)		2014年1月	第112416004555 号
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
v-Src causes delocalization of Mklp1, Aurora B, and INCENP from the spindle midzone during cytokinesis failure.	共著	平成25年	<i>Exp Cell Res, in press</i>
Role of cyclin B1 levels in DNA damage and DNA damage-induced senescence.	共著	平成25年	<i>Int Rev Cell Mol Biol, in press</i>
c-Src but not Fyn promotes proper spindle orientation in early prometaphase.	共著	平成24年7月	<i>J Biol Chem</i> , 287: 24905-24915
Enrichment of cell populations in metaphase, anaphase, and telophase by synchronization using nocodazole and blebbistatin: A novel method suitable for examining dynamic changes in proteins during mitotic progression.	共著	平成24年5月	<i>Eur J Cell Biol</i> , 91: 413-419
Dynammin participates in the maintenance of anterior polarity in the <i>C. elegans</i> embryo.	共著	平成21年6月	<i>Dev Cell</i> , 16: 889-900
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学分野	職名 教授	氏名 西口 工司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>・担当科目について</p> <p>・担当科目における授業評価について</p> <p>・授業方法の工夫</p>	<p>2008年度～ 現在に至る</p> <p>2009年度～ 2010年度</p> <p>2009年度～ 現在に至る</p> <p>2011年度～ 現在に至る</p>	<p>・総合薬学演習A～D (3年次～6年次)</p> <p>・総合薬学研究A～D (3年次～6年次)</p> <p>・臨床薬学特論 (大学院)</p> <p>・病院薬学B (4年次)</p> <p>・基礎演習 (1年次)</p> <p>・早期体験学習 (1年次) (2012年度より企業見学担当責任者)</p> <p>・調剤学 (4年次)</p> <p>・テーラーメイド薬物治療学 (4年次)</p> <p>・病院薬局へ行く前に (4年次)</p> <p>・先端臨床薬学概論 (6年次)</p> <p>・病院薬学B (4年次) 2009:、2010:、2011:</p> <p>・調剤学 (4年次) 2009:、2010:、2011:、2012:</p> <p>・テーラーメイド薬物治療学 (4年次) 2009:、2010:、2011:、2012:</p> <p>・先端臨床薬学概論 (6年次) 2011:、2012:</p> <p>・基礎演習 (1年次) SGDの導入</p> <p>・調剤学 (4年次) オリジナル資料の活用</p> <p>・テーラーメイド薬物治療学 (4年次) オリジナル資料の活用</p> <p>・先端臨床薬学概論 (6年次) 最近のトピックスの導入</p>	
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>1) 実務実習事前学習のための調剤学 改訂版, 柴崎正勝ら 監修, 厚田幸一郎ら 編集, 廣川書店 (2011)</p> <p>2) 医療薬学, 第5版, 堀 了平 監修, 乾 賢一ら 編集, 廣川書店 (2009).</p> <p>3) 実務実習事前学習のための調剤学, 柴崎正勝ら 監修, 厚田幸一郎ら 編集, 廣川書店 (2009).</p> <p>4) シナリオ症例解析 -医療の現場で今..., 高山 明 編集, 廣川書店 (2009).</p>			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)</p> <p>・2012年度第18回FDフォーラム (立命館大学)</p> <p>・認定実務実習指導薬剤師</p> <p>・日本医療薬学会認定薬剤師</p> <p>・日本医療薬学会認定薬剤師制度指導薬剤師</p>	<p>2013年2月23日</p> <p>2008年4月1日</p> <p>2014年1月1日</p> <p>2014年1月1日</p>	<p>シンポジウム「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」</p> <p>8100737</p> <p>14-99-0099</p> <p>14-04-1010</p>	

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
1) Tetsuya Minegaki, Kohji Takara, Ryohei Hamaguchi, Masayuki Tsujimoto, Kohshi Nishiguchi: Factors affecting the sensitivity of human-derived esophageal carcinoma cell line to 5-fluorouracil and cisplatin. ONCOLOGY LETTERS, 5, 427-434 (2013).			
2) Ikuya Miki, Tsutomu Nakamura, Akiko Kuwahara, Motohiro Yamamori, Kohshi Nishiguchi, Takao Tamura, Tatsuya Okuno, Hideaki Omatsu, Shigeto Mizuno, Midori Hirai, Takeshi Azuma, Toshiyuki Sakaeda: THRB Genetic Polymorphisms Can Predict Severe Myelotoxicity after Definitive Chemoradiotherapy in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Int. J. Med. Sci., 9, 748-756 (2012).			
3) Takao Tamura, Akiko Kuwahara, Kaori Kadoyama, Motohiro Yamamori, Kohshi Nishiguchi, Tsubasa Inokuma, Yoshiji Takemoto, Naoko Chayahara, Tatsuya Okuno, Ikuya Miki, Yoshimi Fujishima, Toshiyuki Sakaeda: Effects of bolus injection of 5-fluorouracil on steady-state plasma concentrations of 5-fluorouracil in Japanese patients with advanced colorectal cancer. Int. J. Med. Sci., 8, 406-412 (2011).			
4) Masayuki Tsujimoto, Keishi Higuchi, Daisuke Shima, Hitoshi Yokota, Taku Furukubo, Satoshi Izumi, Tomoyuki Yamakawa, Masaki Otagiri, Sumio Hirata, Kohji Takara, Kohshi Nishiguchi: Inhibitory effects of ureamic toxins 3-indoxyl sulfate and p-cresol on losartan metabolism in vitro. J. Pharm. Pharmacol., 62, 133-138 (2010).			
5) Masayuki Tsujimoto, Maya Horie, Hiroko Honda, Kohji Takara, Kohshi Nishiguchi: The structure-activity correlation on the inhibitory effects of flavonoids on cytochrome P450 3A activity. Biol. Pharm. Bull., 32, 671-676 (2009).			
III 学会等および社会における主な活動			
平成18年4月1日～平成20年3月31日	兵庫県病院薬剤師会 理事		
平成21年4月1日～	日本アプライドセラピューティクス学会 評議員		
平成22年4月1日～	日本病院薬剤師会 編集委員会特別委員		
平成24年4月1日～	日本薬学会近畿支部 委員		
	日本医療薬学会		
平成11年1月1日～	・ 認定薬剤師認定		
平成16年1月1日～	・ 認定薬剤師制度指導薬剤師		
平成20年1月1日～	・ 認定薬剤師制度認定試験問題実行小委員会委員		
	・ 認定薬剤師制度認定薬剤師試験問題小委員会委員		
	・ 編集委員会委員		
平成25年4月1日～	・ JPHCS刊行準備委員会委員		
平成25年4月1日～	・ 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬学教育研究センター
		職名	教授
		氏名	橋詰 勉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫		2006年4月～ 2009年4月～ 2010年4月～ 2012年度 2009年度～ 2010年度～	1年次科目基礎演習、早期体験学習を担当 4年次科目臨床情報学、実務実習事前学習を担当 5年次科目実務実習（病院・薬局実習）を担当 （2009年までは4年次の病院保険薬局実習） 臨床情報学の授業評価 /10点（学年平均7.6） 臨床情報学講義では演習をとりいれている。 実務実習の直前講義で少人数教育を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年4月～	臨床情報学では、補足資料を適宜作成・配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・発表 日本薬学会第127年会（富山） 日本薬学会第127年会（富山） 教育フォーラム2007（熊本） 第18回日本医療薬学会年会（札幌） 薬学教育実務実習事前学習に関する調査・研究フォーラム（東京） 第31回日本病院薬剤師会近畿学術大会（京都） 日本薬学会第132年会（札幌） 日本薬学会第132年会（札幌） ・講演 大阪府病院薬剤師会・薬局長セミナー（大阪） 京都薬科大学・京薬会卒業教育講座（京都） 第7回京都薬学実務実習研修会（京都） 滋賀県薬剤師会受入実習研修会（草津）		2007年 3月 2007年 3月 2007年12月 2008年 9月 2009年 2月 2010年 1月 2012年 3月 2012年 3月 2008年 3月 2008年 7月 2009年 3月 2010年 9月	早期体験学習の評価（第1報） 薬学共用試験の現状・課題・展望—OSCEトライアル報告 「医療の担い手」を意識した事前学習の取り組み 早期体験学習の評価（第2報） 京都薬科大学における事前学習 後期の事前学習を円滑に行うための前期演習の取り組み 病院・薬局見学—学生アンケートによる経時的調査 京都薬科大学におけるふるさと実習への取り組み 「6年制薬学教育における共用試験の概要」 「薬学部6年制における薬学共用試験 ～CBT・OSCEと実務実習～」 「長期実務実習に向けて～大学での事前学習と薬学共用試験～」 「第Ⅰ期実務実習を終えて」
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ワークショップ、フォーラムへの参加 第12回FDフォーラム（京都） 第七回薬学教育改革大学会議アドバンスワークショップ（東京） 第27回医学教育セミナーとワークショップ in 名城（名古屋） 東京薬科大学「医療系学部教員による合同ワークショップ」 平成22年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者ワークショップ（東京） 文部科学省「大学における医療人養成推進等委託事業」におけるワークショップ（東京） ・日本薬学会関係のワークショップへの協力（タスクフォース） 第1回全国学生ワークショップ（大阪） 第2回全国学生ワークショップ（府中） 第2回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ（大阪）		2007年 3月 3日 2007年 3月11日 2008年1月12-13日 2010年12月26-28日 2011年 2月11日 2012年11月 3日 2011年 8月 4日 2012年8月7-8日 2012年11月23-25日	学生が伸びる大学教育 実務実習における総括的評価のあり方に関するワークショップ OSCEで終わらないコミュニケーション教育を目指して 臨床薬学教科の教材開発（医薬品情報学） 6年制一期生として薬学教育に望むこと 6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと

・薬学教育協議会関係のワークショップへの協力（タスクフォース）		
第10回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（京都）	2007年9月1-2日	
第19回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（京都）	2008年8月9-10日	
第20回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（滋賀）	2008年9月14-15日	
第23回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（京都）	2008年11月2-3日	
第37回薬剤師のためのワークショップ in 近畿（京都）	2009年8月29-30日	
薬学教育協議会フォーラム2011（東京）	2011年 2月12日	初年度実務実習の成果と課題～学生からのフィードバック
第56回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿（京都）	2011年8月27-28日	（薬学教育者ワークショップ）
認定実務実習指導薬剤師アドバンス研修会（京都）	2012年 2月26日	
第62回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿（京都）	2012年8月11-12日	（薬学教育者ワークショップ）
・文部科学省関係のワークショップへの協力（タスクフォース）		
平成21年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ（京都）	2009年 8月25日	
・薬学共用試験センター関係のワークショップへの協力（タスクフォース）		
第1回薬学共用試験OSCE評価者養成伝達講習会（名古屋）	2007年 7月22日	
第2回薬学共用試験OSCE評価者養成伝達講習会（名古屋）	2007年 8月21日	
第3回薬学共用試験OSCE評価者養成伝達講習会（東京）	2008年 3月29日	
薬学共用試験OSCE標準模擬患者（SP）養成講習会（神戸）	2008年 9月 7日	
模擬患者参加型演習に関するフォーラム（神戸）	2008年12月26日	
平成22年度第1回薬学共用試験OSCE評価者養成伝達講習会（京都）	2010年 9月 5日	
平成24年度薬学共用試験OSCEに向けて：ワークショップ（東京）	2012年 5月27日	
平成24年度薬学共用試験OSCE評価者養成伝達講習会（京都）	2012年 9月 1日	
平成24年度薬学共用試験OSCE：モニター員ワークショップ（東京）	2012年 9月 7日	

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）厚生労働省から提供される情報。医薬品情報学	共著	平成23年 1月	廣川書店
（論文）京都薬科大学における早期体験学習の評価	共著	平成19年 8月	医療薬学（33巻8号）
（解説）薬学教育6年制とこれからの展望－薬学共用試験の果たす役割	単著	平成21年 2月	医薬ジャーナル（45巻2号）
（解説）京都薬科大学における実務実習事前学習の取り組み	共著	平成22年 7月	滋賀県病院薬剤師会誌（32巻1号）

III 学会等および社会における主な活動

平成16年4月～平成20年3月	滋賀県病院薬剤師会「学術委員会」委員
平成17年10月～平成25年3月	滋賀県薬剤師会「薬学生実習受入部会」（平成25年から薬学教育委員会）委員
平成18年5月～平成26年3月	薬学教育協議会「病院・薬局実務実習近畿地区調整機構」運営委員
平成18年9月～平成20年4月	薬学共用試験センター「OSCE実施委員会」一般委員
平成20年5月～平成22年8月	日本薬学会「OSCE内容・体制委員会」委員
平成21年4月～平成26年3月	日本薬学会近畿支部委員
平成22年9月～平成24年8月	薬学共用試験センター「OSCE実施委員会」一般委員
平成22年10月～平成23年3月	薬学教育協議会「参加型実務実習の充実化に向けた薬学共用試験の在り方に関する調査・研究委員会」委員
平成24年4月～平成25年3月	文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員
平成24年5月～平成26年3月	文部科学省「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業選定委員会」委員
平成24年9月～平成26年6月	薬学共用試験センター「OSCE実施委員会」副委員長、「運営委員会」委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	細胞生物学分野
職名	教授	氏名	藤室 雅弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・担当科目について		2011/9/1～ 2012/4/1～	1年次科目生物学Bを担当 1年次科目基礎演習を担当 6年次科目先端分子生物学概論を担当 1年次科目基礎科学実習を担当
・担当科目における授業評価について		2013/4/1～ 現在に至る	2年次科目細胞生物学を担当 3年次科目化学療法学を担当
・授業方法の工夫 (SGDの導入)		2011年度 2012年度前期	授業評価 /10点 学内平均7.8点 授業評価 /10点 学内平均7.8点
		2011/9/1～ 現在に至る	iPS技術等の生命科学に関する最新トピックスを 講義に取り入れ、修学意欲を高める工夫を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年9月20日 2013年3月20日 2012年9月20日	新細胞生物学, 廣川書店, 東京, 3章細胞小器官 7タンパク質の品質管理と分解 新細胞生物学, 廣川書店, 東京, 6章細胞分裂と増殖 がん増殖と悪性化の分子機構, 化学同人, 京都, 第13章ウイルス発がん
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012/10/27 2012/7/10	京都の大学「学び」フォーラム 会場(大谷大学) 模擬講義 がんウイルスの不思議な世界ー感染して“がん”になる人ならない人ー 山梨大学医学部 平成24年度優秀教員奨励制度・表彰
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) The ubiquitin system and Kaposi' s sarcoma-associated herpesvirus.	共著	2012	Frontiers in Microbiology vol.3, 66
(著書) Hyrtioreticulins A-E, indole alkaloids inhibiting the ubiquitin-activating enzyme from the marine sponge Hyrtios reticulatae.	共著	2012	Bioorg Med Chem, vol.20, 4437-4442
(論文) Proteasome inhibitors induce apoptosis and reduce viral replication in primary effusion lymphoma cells.	共著	2011	Biochem. Biophys. Res. Commun., vol. 415, 573-578
(論文) Regulation of Inducible Nitric-oxide Synthase by the SPRY Domain- and SOCS Box-containing Proteins.	共著	2011	J Biol. Chem., vol. 286, 9009-9019
(論文) Silencing of autocrine motility factor induces mesenchymal to epithelial transition and suppression of osteosarcoma pulmonary metastasis.	共著	2010	Cancer Res., vol.70, 9483-9493
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年4月～平成25年7月	日本ウイルス学会 ウイルス編集委員会委員		
平成22年10月～現在	Frontiers in Microbiology, Review Editor		
平成18年10月～現在	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 外部専門家		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学 講座名 薬学英語	職名 教授	氏名 FOONG Foo Wah	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 科学（医学・薬学）英語教育システムの開発・企画	2011/3/1	高等教育に適した段階的科学的英語教育システムを開発し、学生の聞く・書く・話す・読むという総合的科学的英語能力向上に寄与した。欧米の学生の水準を目標とした。	
2 作成した教科書、教材、参考書 科学的英語教育のための教科書9冊を執筆（単著・共著（音声教材も含む））	1997. 3. 18～	上記の目的達成のため、書籍教材のみでなく、音声教材を開発し、学生のコミュニケーション能力（リスニング力・発音能力）の育成に寄与した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 国内外の科学的英語教育・薬学教育関連学会での発表	2012. 10. 24～28 2013. 03. 11～12 2013. 03. 27～31	4th Asian Conference on Education Global Summit on Education (2013) 日本薬学会第133年会（横浜）	
4 その他教育活動上特記すべき事項 立命館大学でゲストスピーカーとして講演 立命館大学FD講師	2011. 04～ 2011/4/13	科学的英語の概念・哲学の紹介 科学的英語の哲学とその指導法および教材に関して	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称
（著書）科学的英語論文作成・投稿の基礎知識（初版）	共著	2007年3月	イメックスジャパン社
（著書）科学的英語[中級A]（第2版）	共著	2009年3月	イメックスジャパン社
（著書）Anthony先生の耳で覚える科学的英語（初版）	共著	2011年9月	講談社
（著書）薬剤師のための基礎英会話II（第3版）	共著	2012年3月	イメックスジャパン社
（論文）English for Special Purpose (ESP) 「特殊目的英語」	単著	2012年12月	京薬論集第 17号 P41-46
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			
IV 備考：日本薬学会会員（2012～）			

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 情報処理教育研究センター	職名 教授	氏名 深田 守
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業改善の工夫	2006年4月～ 2012年3月 20012年4月～ 現在に至る 2006年4月～ 現在に至る 2006年度 2007年度 2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 2006年度～ 現在に至る	1年次科目ITA、ITBを担当 1年次科目情報科学を担当 1年次科目基礎演習、早期体験学習、3年次科目薬学総合演習A、4年次科目薬学総合演習B、5年次科目薬学総合演習C、6年次科目薬学総合演習Dを担当 授業評価 /5点 学内平均2.9点 (ITA) 授業評価 /5点 学内平均3.0点 (ITA) 授業評価 /5点 学内平均3.1点 (ITA) 授業評価 /5点 学内平均3.0点 (ITB) 授業評価 /10点 学内平均7.4点 (ITA) 授業評価 /10点 学内平均7.5点 (ITB) 授業評価 /10点 学内平均7.4点 (ITA) 授業評価 /10点 学内平均7.5点 (ITB) 授業評価 /10点 学内平均7.7点 (ITA) 授業評価 /10点 学内平均7.7点 (ITB) 授業評価 /10点 学内平均7.8点 (情報科学) 授業内容をホームページに記載し、マルチメディアを活用して興味を高めるようにしている。東北薬科大学との遠隔合同授業を行い、モチベーションの向上を図っている。MoodleなどのICTツールを使用し、学生との双方向学習を取り入れている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2007年3月 2008年9月 2010年12月 2011年3月 2011年10月 2012年3月 2012年9月 2012年12月	第127年会 日本薬学会 (富山) 第18回日本医療薬学会年会 (札幌) 平成22度情報教育研究集会 (京都) 日本薬学会第131年会 (静岡) 第21回日本医療薬学会年会 (神戸) 日本薬学会第132年会 (札幌) 日本教育工学会第28回全国大会 (長崎) 大学ICT推進協議会2012年度年次大会 (神戸)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2009年4月～ 2011年3月 2011年4月～ 2012年3月	大学コンソーシアム京都 FD開発推進センター 運営委員 大学コンソーシアム京都 FD企画研究委員会 副委員長	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) α cluster states in $^{44,46,52}Ti$	共著	2009年12月	Physical Review C80 Vol. 80
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	生薬学分野
職名	教授	氏名	松田 久司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・担当科目について		2007年4月～現在に至る	1年次科目 基礎演習を担当
		2007年4月～2008年3月	2年次科目 生薬学A、生薬学B 生薬学実習
		2008年4月～現在に至る	3年次科目 天然医薬品学A、天然医薬品学B 有機化学・天然医薬品学実習
		2009月～現在に至る	4年次科目 漢方医薬学A、漢方医薬学B
		2011年4月～現在に至る	4年次科目 漢方医療概論
		2007年4月～現在に至る	大学院 生薬学特訓 (2012年度は開講なし)
・担当科目における授業評価について		2008年度	天然医薬品学A /4点 天然医薬品学B /4点
		2009年度	天然医薬品学A /10点 天然医薬品学B /10点 漢方医薬学A /10点 漢方医薬学B /10点
		2010年度	天然医薬品学A /10点 天然医薬品学B /10点 漢方医薬学A /10点 漢方医薬学B /10点
		2011年度	天然医薬品学A /10点 天然医薬品学B /10点 漢方医薬学A /10点 漢方医薬学B /10点 漢方医療概論 /10点
		2012年度	天然医薬品学A /10点 天然医薬品学B /10点 漢方医薬学A /10点 漢方医薬学B /10点 漢方医療概論 /10点
・授業方法の工夫 (SGDの導入)		2012年度～現在に至る	基礎演習：伝承薬や食品に関するトピックス (テーマ自由選択) についてグループ単位で取組ませる。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年11月	薬学生のための天然物化学 (改訂第2版) 分担
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
・薬学関係のワークショップや学外のFD名		2007年7月、2008年10月	第 8 回薬剤師ワークショップ in 近畿 タスクフォース 第 22 回薬剤師ワークショップ in 近畿 タスクフォース
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 第 11 章 コショウ科植物由来スパイス・ハーブと生体機能、スパイス・ハーブと機能と最新応用技術	共著	2011年1月	シーエムシー出版
(著書) 第 4 章 甘茶の新規生体機能、薬用食品の開発II -薬用・有用植物の機能性食品素材への応用-	共著	2012年4月	シーエムシー出版
(論文) Cucurbitacin E as a new inhibitor of cofilin phosphorylation in human leukemia U937 cells	共著	2010年5月	Bioorg. Med. Chem. (第19巻第9号)
(論文) Structural requirements of flavonoids for the adipogenesis of 3T3-L1 cells	共著	2011年5月	Bioorg. Med. Chem. Lett. (第20巻第9号)
(論文) Sesquiterpenes from an Egyptian herbal medicine, Pulicaria undulate, with inhibitory effects on nitric oxide production in RAW264.7 macrophage cells	共著	2012年3月	Chem. Pharm. Bull. (第60巻第3号)
III 学会等および社会における主な活動			
平成13年4月～現在	日本生薬学会	Journal of Natural Medicines	副編集長
平成20年12月～平成23年3月	日本薬学会	Biological & Pharmaceutical Bulletin	編集委員
平成22年4月～現在	和漢医薬学会	Journal of Traditional Medicines	編集委員
平成23年4月～現在	日本東洋医学会	関西支部役員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 代謝分析学	職名 教授	氏名 安井 裕之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について ・授業方法の工夫		2007年4月～ 現在に至る 2010年度～ 現在に至る	2年次科目分析化学、生命錯体化学、分析化学実習、3年次科目臨床分析学、6年次科目先端生物無機化学概論を担当 講義中に授業内容に関連した諸問題（大学院入試問題、薬剤師国家試験問題、新作実力問題）の演習に取り組む
2 作成した教科書、教材、参考書 ・分析化学および生体分析学 ・無機化学および錯体化学		2010年度～ 2013年度 2008年度～ 2013年度	教科書の執筆、作成 分析化学プラクティス、臨床分析学のサブノート 医薬品分析化学（全て京都廣川書店） 生命錯体化学のサブノート、生命錯体無機化学のサブノート、基礎無機化学（全て京都廣川書店）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第2回物理系薬学の教育と研究を展望するシンポジウム ・フォーラム2011 衛生薬学・環境トキシコロジー ・第7回物理系薬学の教育と研究を展望するシンポジウム		2008年度 2011年度 2013年度	全て招待講演として 分析化学における演習の導入 新しい薬学生「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成を目指して 新しい薬学生-ファーマシスト・サイエンティスト-の育成を目指して
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・薬剤師のためのワークショップ in 近畿 (現、認定実務実習指導薬剤師育成ワークショップ)		2007年度 2008年度 2009年度 2011年度	第8回開催および第10回開催のタスクフォース 第19回開催のタスクフォース 第36回開催のタスクフォース 第58回開催のタスクフォース
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称
(著書) 薬学生dead or alive	共著	平成23年3月	京都廣川書店
(著書) 医薬品分析化学	共著	平成25年9月	京都廣川書店
(論文) Diameter and rigidity of multi-walled carbon nanotubes are critical factors in mesothelial injury and carcinogenesis.	共著	平成23年10月	<i>Proc. Natl. Acad. Sci. USA</i> , 108 , E1330-1338 (2011)
(論文) Development of a novel antidiabetic zinc complex with an organoselenium ligand at the lowest dosage in KK-Ay mice.	共著	平成25年1月	<i>J. Inorg. Biochem.</i> , 121 , 10-15 (2013)
(論文) Potential of collagen-like triple helical peptides as drug carriers: their in vivo distribution, metabolism and excretion profiles in rodents.	共著	平成25年11月	<i>Biopolymers</i> , 100 , 705-713 (2013)
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年12月～現在	メタロミクス研究フォーラム 評議員		
平成21年6月～現在	日本酸化ストレス学会 評議員		
平成21年6月～現在	金属の関与する生体関連反応シンポジウム 評議員		
平成25年4月～現在	日本薬学会物理系薬学部会 庶務幹事		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授	氏名 矢野義孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年～2012年 2007年～2012年	生物統計・医療統計関連講義(「医薬開発論A」他) 生物統計・医療統計関連講義(京都大学薬学部) 実務実習事前学習における医療コミュニケーション演習	
2 作成した教科書、教材、参考書	2007年～2012年 2009年～ 2012年4月～	生物統計・医療統計に関わる教材の作成 事前実習医療コミュニケーション教材の作成 初年度SGD教育(「基礎演習」)教材の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2008年2月 2009年3月	第6回京都薬学実務実習研修会講演 日本薬学会第129年会シンポジウム	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年4月～	5年次生演習科目「総合薬学演習」企画・運営 1年次生早期体験科目学外見学企画	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 医療薬学(第5版)	共著	2009年3月	廣川書店
(著書) スタンダード薬学シリーズ、薬と疾病 Ⅲ. 薬物治療(2)および薬物治療に役立つ情報(第2版)、日本薬学会編	共著	2012年12月	東京化学同人
(論文) Pharmacokinetic / pharmacodynamic modeling and simulation to determine effective dosage regimens for doripenem	共著	2010年5月	J. Pharm. Sci., 99(5): 2483-2491 (2010)
(論文) Assessment of pharmacy students' communication competence using the Roter interaction analysis system during objective structured clinical examinations	共著	2011年4月	Am. J. Pharm. Educ., 75(3): Article 43 (2011)
(論文) Need for pharmaceutical care during chemotherapy for prevention of side effects: examples of blood sugar monitoring in dexamethasone treatment	共著	2012年1月	Palliative Care Res. 7(1): 101-111 (2012)
III 学会等および社会における主な活動			
2013年4月～	Population Approach Group in Japan (PAGJA) 副会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

2 作成した教科書、教材、参考書 CBT対策と演習 有機化学（共著） ソロモンの新有機化学（上・下）第9版（共訳） 化学構造と薬理作用 医薬品を化学的に読む（共著） 有機医薬品合成化学-ターゲット分子の合成-（共著） パートナー薬品製造学 第2版（共著）	2008年3月31日 2008年3月31日 2010年10月20日 2011年1月30日 2012年4月10日	第3章 有機化合物の立体構造, pp. 61-89, 廣川書店 廣川書店 第7章-3, ヒスタミン関連医薬品, pp. 102-111, 廣川書店 第8章 ペリ環状反応, pp. 173-201, 廣川書店 第4章 炭素-酸素結合反応 pp. 125-153, 南江堂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし

II 研究活動			
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Asymmetric Total Synthesis of (-)-Linderol A	共著	2007年7月	<i>J. Org. Chem.</i> , 72 (26), 5697-5703
メラニン生合成阻害活性天然物リンデロールAの合成研究	共著	2008年1月	<i>有機合成化学協会誌</i> , 66 (1), 61-73
A novel skeleton transformation of 2a-substituted 2a,8b-dihydro-3H-benzo[b]cyclobuta[d]pyran-3-ones to 2-(2-Oxoethyl)-2H-1-benzopyrans promoted by a combination of ZnI ₂ , organic base and H ₂ O	共著	2008年2月	<i>Synlett</i> , 3 , 428-432
First total synthesis of (±)-adunctin B	共著	2011年12月	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 52 (52), 7046-7048
Novel skeleton transformation reaction of α-pyrone derivatives to spirobicyclo[3.1.0]hexane derivatives using dimethylsulfoxonium methylide	共著	2012年12月	<i>Org. Lett.</i> , 14 (23), 6048-6051
III 学会等および社会における主な活動			
平成16年4月～18年3月	有機合成化学協会関西支部幹事		
平成22年5月～現在	日本薬学会近畿支部委員		
平成25年2月～平成27年1月	日本薬学会 代議員		
平成24年度	第97回薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬剤学分野	職名 教授	氏名 山本 昌
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1998年1月～現在に至る	講義担当科目は、薬剤学A, 薬剤学C, 先端薬物動態学概論であり、これらの科目の授業評価は10点満点中～であり、平均よりも高い評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年2月15日 2012年4月10日	演習で理解する生物薬剤学 (廣川書店) 製剤学改訂第6版 (南江堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
ペプチド・タンパク性医薬品の新規DDS製剤の開発と応用	共著 (編集)	2011年6月10日	メディカルドゥ社
難吸収性薬物の吸収性改善と新規投与製剤の開発	共著 (監修)	2012年4月2日	シーエムシー出版
非経口投与製剤の開発と応用	共著 (監修)	2013年6月3日	シーエムシー出版
Polyamidoamine dendrimers as novel absorption enhancers for improving the small intestinal absorption of	共著	2011	Journal of Contrlled Release 149
The development of characteristics of novel microneedle arrays fabricated from hyaluronic acid, and their	共著	2012	Journal of Contrlled Release 161
III 学会等および社会における主な活動			
平成25年5月現在	日本薬剤学会評議員		
平成25年5月現在	日本DDS学会評議員		
平成25年5月現在	日本薬物動態学会評議員		
平成25年5月現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床腫瘍学分野	職名 教授	氏名 吉貴 達寛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫 (SGDの導入)	2010年4月～ 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 2010年度～ 現在に至る	1年次科目解剖学 4年次科目薬物治療学C・E 6年次科目がん化学療法概論 大学院講義臨床腫瘍学特論 薬物治療学C /10点 ヒトの成り立ち /10点 薬物治療学C /10点 ヒトの成り立ち /10点 薬物治療学C /10点 薬物治療学E /10点 がん化学療法概論 /10点 解剖学 /10点 薬物治療学C /10点 薬物治療学E /10点 がん化学療法概論 /10点	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・日本泌尿器科学会泌尿器科専門医 ・日本泌尿器科学会泌尿器科指導医	1989年 1994年4月	登録番号第890235号 登録番号第940172号	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Involvement of cancer biomarker C7orf24 in the growth of human osteosarcoma.	共著	2011年	Anticancer Res. 2011 ;31:1297-305
(論文) Multiple NF-Y-binding CCAAT boxes are essential for transcriptional regulation of the human C7orf24 gene, a novel tumor-associated gene.	共著	2011年	FEBS J. 2011 ;278:4088-99.
(論文) Prevention of tumor growth by needle-free jet injection of anti-C7orf24 siRNA	共著	2012年	Cancer Gene Ther. 2012 ;19:553-7.
(論文) Association of epigenetic alterations in the human C7orf24 gene with the aberrant gene expression in malignant cells.	共著	2013年	J Biochem. 2013 . [in press]
(論文) A fluorogenic probe for γ -glutamyl cyclotransferase: Application of an enzyme-triggered O-to-N acyl migration-type reaction.	共著	2013年	ChemBioChem. 2013 . [in press]
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	公衆衛生学分野
職名	教授	氏名	渡辺徹志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009～2012年度 2007～2013年度 2007～2013年度 2011～2013年度 2013年度 2013年度 2013年度 2013年度 2010年4月～ 現在に至る	2年次科目社会集団と健康を担当 3年次科目生活環境と健康を担当 3年次科目化学物質の生体への影響を担当 6年次科目先端衛生薬学概論を担当 社会集団と健康：授業評価 生活環境と健康：授業評価 化学物質の生体への影響：授業評価 先端衛生薬学：授業評価 前年度の授業アンケートに記載されていた学生の意見を参考に講義方法の改善を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年1月10日 2013年2月10日	日本薬学会編「健康と環境」(分担執筆)発行 廣川書店「考える衛生薬学」(分担執筆)発行
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当無し
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Genotoxicity of 3,6-dinitrobenzo[e]pyrene, a novel mutagen in ambient air and surface soil, in mammalian cells in vitro and in vivo.		共著	2009年3月
(論文) Genotoxic activation of the environmental pollutant 3,6-dinitrobenzo[e]pyrene in Salmonella typhimurium umu strains expressing human cytochrome P450 and N-acetyltransferase.		共著	2009年8月
(論文) Isolation and identification of a novel aromatic amine mutagen produced by the Maillard reaction.		共著	2009年9月
(論文) Determination of 3,6-dinitrobenzo[e]pyrene in tea leaves as a possible exposure source and in human hair as a biomarker with a two-dimensional HPLC system.		共著	2011年1月
(論文) Development of a two-dimensional high-performance liquid chromatography system coupled with on-line reduction as a new efficient analytical method of 3-nitrobenzanthrone, a potential human carcinogen.		共著	2012年8月
III 学会等および社会における主な活動			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2004年1月～		日本環境変異原学会評議員	
2006年1月～2009年12月		日本環境変異原学会理事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
京都薬科大学	講座名 基礎科学系一般教育	職名 准教授	氏名 今井 千壽
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫		平成19年度～ 現在 平成19年度～ 平成24年度	1年次科目「外国文学B」、「英語ⅠB・ⅠD」 (平成24年度から「英語ⅠA・ⅠB」に科目変更) 2年次科目「英語ⅡA・ⅡB」(平成25年度から 「英語2A」に科目変更)を担当。 1年次英語 /10点 外国文学B /10点 2年次英語 /10点 英語の授業では、長文の理解及び内容検討のためSGDを導入している。
2 作成した教科書、教材、参考書			文法事項の解説および練習問題、科学英語の長文読解を主体とした教材を独自に作成。(来年テキストとして出版予定。)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年8月・ 平成23年8月	関西の大学英語教員有志による英語授業法の研究会において発表。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Northanger Abbeyについての一考察	単著	平成19年12月	京薬論集第14号
(論文) Hard Timesにおける窓の内外	単著	平成21年12月	京薬論集第16号
(論文) The Mystery of Edwin DroodにおけるJasperの旅	単著	平成23年12月	京薬論集第18号
(論文) A Christmas Carol: Scrooge再生に至るプロセス	単著	平成24年12月	京薬論集第19号
(著書) 医療・生命・薬学英语	共著	平成25年3月	ムイスリ出版
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 数学	職名 准教授	氏名 葛城 大介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について	2007年4月～ 2011年9月 2007年9月～ 2012年2月 2007年4月～ 現在に至る 2007年4月～ 2012年9月 2007年4月～ 現在に至る 2007年6月 2009年10月～ 2009年11月 2010年6月～ 2011年6月 2010年12月～ 2012年1月 2012年4月～ 現在に至る 2012年9月～ 現在に至る 2013年4月～ 現在に至る	1年次科目微分学積分学Aを担当 1年次科目微分学積分学Bを担当 1年次科目数学補講を担当 2年次科目統計学を担当 1年次科目基礎演習を担当 1年次科目病院薬局見学引率を担当 4年次科目病院・薬局へ行く前に、の模擬患者を担当 1年次科目早期体験、車椅子疑似体験を担当 1年次科目IT Bを担当 1年次科目基礎数学Aを担当 1年次科目基礎数学Bを担当 2年次科目薬学統計解析学を担当	
・入学前数学課題の質問応答, 学習状況の確認	2007年度～ 現在に至る	指定校推薦や一般公募推薦合格者に対して実施	
・入学前数学スクーリングの実施	2010年度～ 現在に至る	指定校推薦や一般公募推薦合格者に対して日曜日に実施	
・数学のプレースメントテストの問題作成, 実施	2007年度～ 現在に至る	各年度における入学者の実力をみるために実施	
・再試験前の講義の実施	2007年度～ 現在に至る	再試験対象者に対して、再試験前にレポートを課し、そこで出来なかった問題等の解説講義を行って、理解させた上で再試験に臨ませている	

<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微分積分学A, 基礎数学Aのレジュメと問題集の作成 ・微分積分学B, 基礎数学Bのレジュメと問題集の作成 ・統計学, 薬学統計解析学のレジュメと問題集の作成 ・数学補講の問題集の作成 ・入学前課題の作成 ・IT Bの教材作成 	<p>2007年度～ 現在に至る</p> <p>2007年度～ 現在に至る</p> <p>2007年度～ 現在に至る</p> <p>2007年度～ 現在に至る</p> <p>2007年度～ 2009年度</p> <p>2010年度～ 2011年度</p>	<p>毎講義時, 配付している。その学年のレベルに合うように, 毎年手直しをしている。</p> <p>毎講義時, 配付している。その学年のレベルに合うように, 毎年手直しをしている。</p> <p>毎講義時, 配付している。その学年のレベルに合うように, 毎年手直しをしている。</p> <p>毎講義時, 配付している。その学年のレベルに合うように, 毎年手直しをしている。高校数学や大学初年級の簡単な問題を集めて作っている。</p> <p>指定校推薦や一般公募推薦合格者に対して, 高校数学レベルの問題を作成。</p> <p>中心極限定理, 捕食者-被捕食者モデル, 感染症のモデルに関するシミュレーション教材の作成。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育関連学会での発表 ・FD関連での発表 	<p>2010年9月</p> <p>2013年3月</p> <p>2010年1月</p> <p>2010年12月</p> <p>2011年3月</p> <p>2012年3月</p> <p>2013年2月</p>	<p>「医療統計本における間違った手法」という題目で, 数学教育学会にて発表(名古屋大学にて)</p> <p>「$\sin^{-1}x$か$\arcsin x$か」という題目で, 数学教育学会にて発表(京都大学にて)</p> <p>「海外のFD」と「山形大学教養教育FD合宿セミナー」という題目で, 学内発表</p> <p>「京都薬科大学におけるFDの取り組み」という題目で, 第9回京都Fder塾「連携大学・短期大学のFD活動から学ぶ」にて発表(メルパルク京都にて)</p> <p>「文系学生に対する数学教育」という題目で, 大学コンソーシアム京都16回FDフォーラム「組織的FDの取り組み～FD義務化から現在」の第1分科会にて, 司会&コーディネータ(京都外国語大学にて)</p> <p>「教養教育における科学リテラシー問題発見能力と問題解決力の修得を目指して」という題目で, 大学コンソーシアム京都第17回FDフォーラム「大学におけるキャリア教育を考える」の第3分科会にて, 司会&コーディネータ(京都産業大学にて)</p> <p>「入学前教育の現状とその効果の検証」という題目で, 大学コンソーシアム京都第18回FDフォーラム「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」の第8分科会にて, 司会&コーディネータ(立命館大学にて)</p>

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
・大学コンソーシアム京都FDフォーラムの参加	2007年3月	「学生が伸びる大学教育」に参加(キャンパスプラザ京都にて)
	2009年3月	「学生が身につけるべき力とは何か—個性ある学士課程教育の創造」に参加(龍谷大学にて)
	2010年3月	「学生の学びを支える—つなぐFDの展開」に参加(同志社大学にて)
・高大連携教育フォーラムの参加	2007年12月～ 2009年12月	第2部分科会「入試」と第3部分科会「数学」に参加(キャンパスプラザ京都にて)
	2011年12月	
・近畿地区で行われたFD関連の講習会の参加	2009年3月	FD講習会(京都大学にて)
	2009年6月	授業評価研究会(京都大学にて)
	2011年7月	「アメリカでの授業評価に関するワークショップ」に参加(キャンパスプラザ京都にて)
	2012年5月	近畿地区大学教育研究会(滋賀県立大学にて)
・京都Fder塾の参加	2009年11月	「授業評価アンケートの活用」と題したワークショップに参加(佛光大学にて)
	2010年2月	「授業コンサルテーションとは」と題したワークショップの参加(キャンパスプラザ京都にて)
・初年次教育学会第1回年次大会に参加	2008年11月	ワークショップに参加(玉川大学にて)
・第8回山形大学教養教育FD合宿セミナーに参加	2009年8月	山形大学蔵王山寮にて
・FD海外視察に参加	2009年8月	ヨーロッパ大学協会, VINNOVA, スtockホルム大学, 王立工科大学, コンストファックを訪問, 視察
・教育研究活動デザインの会に参加	2009年12月～ 2010年2月	ワークショップに参加(早稲田大学大学院日本語教育研究科にて)

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)少数自由度, 大自由度, 自由度無限大の カオスダイナミクス	単著	平成22年2月	信学技報NLP2009-179 pp. 121-124
(論文)医療統計本における間違っ た手法	単著	平成22年9月	数学教育学会誌pp. 36-38
(論文)薬学部における中心極限定 理の実践授業	単著	平成23年4月	数学教育学会誌pp. 226-228
(論文)有限なシステムサイズはシ ステムサイズ無限大のよい近似と なり得るか?	単著	平成25年1月	信学技報NLP2012-131 pp. 155-158
(論文) $\sin^{-1}x$ か $\arcsin x$ か	単著	平成25年3月	数学教育学会誌pp. 232-234
(報告書)スウェーデンの高等教育 システムについて	共著	平成21年12月	2009年度夏季海外視察報告書京 都FD開発推進センターpp. 10-13
(報告書)ストックホルム大学のFD	単著	平成21年12月	2009年度夏季海外視察報告書京 都FD開発推進センターpp. 19-24
(報告書)京都薬科大学における FDの取り組み	単著	平成22年12月	http://www.kyoto-fd.jp/pdf/poster_10.pdf に 収録
(報告書)文系学生に対する数学 教育	共著	平成23年6月	2010年度第16回FDフォーラム報 告集pp. 1-1~1-15
(報告書)教養教育における科学 リテラシー—問題発見力と問題解 決力の修得を目指して	単著	平成24年6月	2011年度第17回FDフォーラム報 告集pp. 235-243
(報告書)入学前教育の現状とそ の効果の検証	単著	平成25年6月	2012年度第18回FDフォーラム報 告集pp. 353-366

III 学会等および社会における主な活動

平成25年4月～現在に至る	日本物理学会第69期代議員
---------------	---------------

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生理学分野	職名 准教授	氏名 北村 佳久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
i) パワーポイントおよび配布資料（プリント）作成		平成20年4月	要点および重要ポイントを分かり易く説明した。
ii) 講義内容の学生による授業評価を参考に配布資料を修正		平成23年10月	配布資料の文字を大きく、見やすく工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
i) パートナー機能形態学-ヒトの成り立ち（共著：南江堂）		平成20年8月	生理学の講義に使用。
ii) 最近基礎薬理学（共著：廣川書店）		平成23年10月	講義の補助資料として使用。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
i) 京都の大学「学び」フォーラム 2011に参加・発表		平成23年10月	高校生・保護者・教員を対象に模擬講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項			
i) 近畿圏の高等学校で出張講義		毎年1回程度	「薬学部」での教育・研究を紹介した。
ii) 京都府立洛北高等学校附属中学校2年生を対象に「洛北サイエンス」を開講		毎年1回	「生命科学研究」の楽しさを体験してもらった。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
〔論文〕 Human GPM6A is associated with differentiation and neuronal migration of neurons derived from human embryonic stem cells.	共著	平成21年5月	Stem Cells Development, 18 (4), 629-639.
〔論文〕 Loss of HRD1-mediated protein degradation causes amyloid precursor protein accumulation and amyloid-β generation.	共著	平成22年3月	Journal of Neuroscience, 30 (11), 3924-3932.
〔論文〕 ドパミン神経保護及び神経ネットワークの再構築.	単著	平成22年10月	薬学雑誌 130 (10), 1263-1272.
〔論文〕 Therapeutic effects of human mesenchymal and hematopoietic stem cells on rotenone-treated Parkinsonian mice.	共著	平成25年1月	Journal of Neuroscience Research, 91 (1), 62-72.
〔著書〕 A survey of the molecular basis for the generation of functional dopaminergic neurons from pluripotent stem cells: Insights from regenerative biology and regenerative medicine.	共著	平成25年4月	『Neural Stem Cells』 In Tech, pp.271-286.
III 学会等および社会における主な活動			
平成4年～現在	日本薬理学会 評議員		
平成12年～現在	日本神経化学会 評議員		
平成24年9月～現在	日本薬理学会 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 准教授	氏名 木村徹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 学部学生実習の効率化		2010年4月1日	分野と連携して学生実習の教育効果および効率化をはかる
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 初年時教育について		2013年9月8日	日本科学教育学会第37回年会発表 「6年制薬学教育における実験実習支援センターの機能と役割」
4 その他教育活動上特記すべき事項			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Structure-guided design and synthesis of P1' position 1-phenylcycloalkylamine-derived pentapeptidic BACE1 inhibitors.	共著	2011 Sep	elsevier, Bioorg Med Chem. 19(17):5238-46.
Design and synthesis of several small-size HTLV-I protease inhibitors with different hydrophilicity profiles.	共著	2011 Apr	elsevier, Bioorg Med Chem Lett. 21(8):2425-9.
Maintaining potent HTLV-I protease inhibition without the P3-cap moiety in small tetrapeptidic inhibitors.	共著	2011 Mar	elsevier, Bioorg Med Chem Lett. 21(6):1832-7.
Design of pentapeptidic BACE1 inhibitors with carboxylic acid bioisosteres at P1' and P4 positions.	共著	2010 May	elsevier, Bioorg Med Chem. 18(9):3175-86.
11-sized human immunodeficiency virus type-1 protease inhibitors containing allophenylnorstatine to explore the S2' pocket.	共著	2009 Dec	ACS Publications, J Med Chem. 52(23):7604-17.
III 学会等および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 一般教育	職名 準教授	氏名 桑形広司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫 (SGDの導入)	2007年4月～ 現在に至る 2007年度 2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 2010年度～ 現在に至る	1年次科目ドイツ語IA/Bおよび外国文学 2年次生ドイツ語IIA/Bを担当 授業評価 /10点 学内平均5.5点 授業評価 /10点 学内平均5.6点 授業評価 /10点 学内平均5.7点 授業評価 /10点 学内平均5.8点 授業評価 /10点 学内平均5.9点 授業評価 /10点 学内平均5.1点 ドイツの医療制度、薬局制度について グループ単位で取り組ませる。	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) ドイツで見られる古典語名	単著	平成19年12月	京薬論集刊行会、京薬論集N014
(論文) 近代体操の父ヨハン・クリストフ・フリードリッヒ・ゲーツムーツの名字の特異性について	単著	平成23年12月	京薬論集N018
(論文) ドイツの城郭名の基礎語に関する一考察	単著	平成23年12月	京薬論集N019
III 学会等および社会における主な活動			
平成3年4月～現在まで	日本独文学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	一般教育
職名	准教授	氏名	児玉 富美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目			
英語I		2007年4月 ～現在に至る	4クラス担当 自立学習をe-learning で実施、文法の補足は講義式で行う。2007年度より英語教育測定研究所の外部試験(客観テスト)を導入。学期中、TOEFLiのListening部分のテストも応用編で使用。学期末に、outputの意味で、小グループで英語劇の発表。
英語II		2007年4月 ～現在に至る	2クラス担当 自立学習：e-learning で実施、文法の補足は講義式で行う。2007年度より英語教育測定研究所の外部試験(客観テスト)を導入。outputの意味で、グループ学習として、英語劇を実施。米国文化時代背景登場人物等の考察、イデオム等の学習。学期末に小グループで英語劇の発表。
談話分析とコミュニケーション学		2007年4月 ～現在に至る	少人数ゼミ方式(京都コンソーシアム同時開講)関西の主要大学10大学の3、4回生が毎年履修。 「医療現場と言葉」等も分析対象、特に、2011年度は、医療現場における方言の役割も取り組んだ。
京都大学(非常勤) 英語I&II		2007年4月 ～2013年3月	2クラス担当 英語劇、TOEFL対策、学術論文購読
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
オーストラリア	ACTとNew South Wales州の学校視察	2007年3月	両州の小学中学高校を含む4校視察：語学教育の実情、障害児教育の専門担当教員との意見交換等。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
e-learning導入実践		2009年4月～	学外からWeb上でアクセスが可能になる。 1、2年生担当継続学生の結果に成績の向上が顕著にみられる。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 英語におけるアスペクト動詞と補文構造		藤田耕司他編	2012年
(論文) AlcNetAcademyスタンダードコース導入からAlcNetAcademy2へのバージョンアップまでを振り返って—授業活用と自学自習—		単著	2009年
(論文) AlcNetAcademyスタンダードコース導入からAlcNetAcademy2へのバージョンアップまでを振り返って「実践報告」		単著	2009年
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			開拓社
			英語教育とe-Learning Alc出版
			AlcNetAcademy通信 No. 59
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬理学	職名 准教授	氏名 小原 幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫	2004年4月～ 現在に至る 2008年4月～ 現在に至る 2009年4月～ 現在に至る 2009年4月～ 現在に至る 2011年4月～ 現在に至る 2010年度 2011年度 2012年度 2010年度 2011年度 2012年度 2010年度 2011年度 2012年度 2011年度 2012年度 2011年度～	1年次科目基礎演習を担当 3年次科目免疫学を担当 4年次科目薬物治療学Cを担当 4年次科目免薬物治療学Fを担当 6年次科目先端医学概論を担当 免疫学 授業評価/10点 学内平均 7.4点 授業評価/10点 学内平均 7.7点 授業評価/10点 学内平均 7.8点 薬物治療学C 授業評価/10点 学内平均 7.4点 授業評価/10点 学内平均 7.7点 授業評価/10点 学内平均 7.8点 薬物治療学F 授業評価/10点 学内平均 7.5点 授業評価/10点 学内平均 7.7点 授業評価/10点 学内平均 7.7点 先端医学概論 授業評価/10点 学内平均 7.7点 授業評価/10点 学内平均 7.8点 インターネットを使用した積極的な動画の取り入れ 質疑応答を通じた、学生の授業への参加	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
内科認定医	1993年4月1日	第4742号	
総合内科専門医	2000年4月1日	第5422号	
循環器専門医	1996年3月1日	第11130号	
日本医師会認定産業医	1995年5月25日	第9900505号	

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Endothelial dysfunction, macrophage infiltration and NADPH oxidase-dependent superoxide production were attenuated by erythropoietin in streptozotocin-induced diabetic rat aorta.	共著	2013年1-2月	Pharmacology. 2013;91(1-2):48-58
（論文） Erythropoietin attenuated vascular dysfunction and inflammation by inhibiting NADPH oxidase-derived superoxide production in nitric oxide synthase-inhibited hypertensive rat aorta.	共著	2012年9月	Eur J Pharmacol. 2012 Sep 15;691(1-3):190-7
（論文） Additive amelioration of oxidative stress and cardiac function by combined mineralocorticoid and angiotensin receptor blockers in postinfarct failing hearts.	共著	2012年8月	J Cardiovasc Pharmacol. 2012 Aug;60(2):140-9
（論文） Telmisartan inhibits vascular dysfunction and inflammation via activation of peroxisome proliferator-activated receptor- γ in subtotal nephrectomized rat.	共著	2012年6月	Eur J Pharmacol. 2012 Jun 15;685(1-3):91-8.
（論文） Antibody against interleukin-6 receptor attenuates left ventricular remodelling after myocardial infarction in mice.	共著	2010年8月	Cardiovasc Res. 2010 Aug 1;87(3):424-30.
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年4月～現在に至る	日本循環器学会社員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名: 京都薬科大学	講座名	薬剤学	職名: 准教授	氏名: 坂根稔康
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
・担当科目について		2008年9月～ 2009年4月～ 2009年4月～ 2009年9月～ 2011年4月～ 現在に至る	3年次科目 薬剤学・薬物動態学実習 を担当 1年次科目 基礎演習 を担当 4年次科目 薬剤学A を担当 4年次科目 薬剤学B を担当 6年次科目 先端薬物動態学概論 を担当	
・担当科目における授業評価について		2009年度 2010年度 2011年度 2012年度	薬剤学A 評価/10点 学内平均7.4点 薬剤学B 評価/10点 学内平均7.5点 薬剤学A 評価/10点 学内平均7.4点 薬剤学B 評価/10点 学内平均7.5点 薬剤学A 評価/10点 学内平均7.7点 薬剤学B 評価/10点 学内平均7.7点 先端薬物動態学概論 評価/10点 学内平均7.7点 薬剤学A 評価/10点 学内平均7.8点 薬剤学B 評価/10点 学内平均7.7点 先端薬物動態学概論 評価/10点 学内平均7.8点	
・授業方法の工夫		2009年度～ 現在に至る 2009年度～ 現在に至る 2012年度～ 現在に至る	薬剤学Aの授業では、自己学習のための資料を提供するため、計算問題および正誤確認問題のプリントを作成して配布している。また、重要項目をまとめたプリントを最後の授業で配布し、総復習を行っている。 薬剤学Bの授業では、製剤の実物や医薬品の製造機器が作動する様子を撮影した動画を示し、学生の理解を深めている。 先端薬物動態学概論の授業では、血中濃度の経時変化を解析するためのコンピューターソフトを実際にPC上で動かしながら、操作法や使用法を説明し、実例を用いて演習を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
「製剤学(改訂第6版)」 第6章 薬物の生体内動態		2012年4月	四ツ柳智久, 檀上和美, 山本 昌編集, pp. 258-265, 南江堂	
「製剤学・物理薬剤学(第2版)」 第3章 界面現象と分散系		2012年3月	柴崎正勝, 赤池昭紀, 橋田 充監修, 栄田敏之, 唐沢 健, 岡本浩一編集, pp.29-53, 廣川書店	
「製剤学・物理薬剤学ー計算問題の解法ー」 第6章 粉体の性質		2012年1月	唐沢 健, 坂根稔康編集, pp.79-87, 廣川書店	
「製剤学・物理薬剤学ー計算問題の解法ー」 第9章 製剤試験法		2012年1月	唐沢 健, 坂根稔康編集, pp.117-123, 廣川書店	
ベーシック薬学教科書シリーズ18「薬物動態学」 第3章 薬物の分布		2010年4月	橋田 充編集, pp.55-80, 化学同人	
「演習で理解する生物薬剤学」 第2章 薬物の分布		2009年2月	山本 昌編集, pp.73-96, 廣川書店	
「演習で理解する生物薬剤学」 第5章 薬物動態の解析		2009年2月	山本 昌編集, pp.189-240, 廣川書店	

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 第17回薬剤師のためのワークショップ in 近畿 第38回薬剤師のためのワークショップ in 近畿 第57回薬剤師のためのワークショップ in 近畿 第62回薬剤師のためのワークショップ in 近畿	2008年6月21日 ～2008年6月22日 2009年9月20日 ～2009年9月21日 2011年9月18日 ～2011年9月19日 2012年8月11日 ～2012年8月12日	タスクフォース タスクフォース タスクフォース タスクフォース	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)「非経口投与剤の開発と応用」 第1章 薬物の経鼻吸収生体鼻腔内投与型剤の開発 —現状と展望—	単著	2013年6月	山本 昌監修, pp.1-8, シーエムシー出版
(論文) <i>In vitro</i> evaluation of the ciliary beat frequency of the rat nasal epithelium using a high- speed digital imaging system	共著	2013年6月	<i>Biological and Pharmaceutical Bulletin</i> , Vol.36, No.6, pp.966-973.
(論文) The disposition and intestinal absorption of zinc in rats	共著	2011年10月	<i>European. Journal of Pharmaceutical Sciences</i> , Vol.44, No.3, pp.410-415.
(著書)「ペプチド・タンパク性医薬品の新規DDS 剤の開発と応用」 第4章-1 ペプチド・タンパク性医薬品の経鼻吸収性 と脳への送達	単著	2011年6月	山本 昌編集, pp.160-165, メディカルドゥ
(論文) Transnasal delivery of methotrexate to brain tumors in rats: A new strategy for brain tumor chemotherapy	共著	2010年10月	<i>Molecular Pharmaceutics</i> , Vol.7, No.5, pp.1561-1568.
III 学会等および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名 薬品分析学分野	職名：准教授	氏名：武上 茂彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・担当科目について	2006年4月～ 2011年7月	1年次科目「早期体験学習」救命応急手当	
	2006年4月～	1年次科目「早期体験学習」研究室見学	
	2007年9月～	2年次科目「機器分析学実習」	
	2008年9月～	2年次科目「機器分析学A」 3年次科目「臨床分析学」	
	2009年4月～	1年次科目「基礎演習」 3年次科目「機器分析学B」	
	2011年4月～	6年次科目「先端生命分子機構学概論」 6年次科目「薬学演習」 6年次科目「薬学特別演習」	
	2012年4月～	1年次科目「基礎化学」 1年次科目「早期体験学習」企業見学SGD	
	現在に至る		
・担当科目における授業評価について	2008年度	「機器分析学A」 /4点 学内平均3.0点 「臨床分析学」 /4点 学内平均3.0点	
	2009年度	「機器分析学A」 /10点 学内平均7.5点 「機器分析学B」 /10点 学内平均7.4点 「臨床分析学」 /10点 学内平均7.5点	
	2010年度	「機器分析学A」 /10点 学内平均7.5点 「機器分析学B」 /10点 学内平均7.4点 「臨床分析学」 /10点 学内平均7.5点	
	2011年度	「機器分析学A」 /10点 学内平均7.7点 「機器分析学B」 /10点 学内平均7.7点 「臨床分析学」 /10点 学内平均7.7点 「先端生命分子機構学概論」 /10点 学内平均7.7点	
	2012年度	「基礎化学」 /10点 学内平均7.8点 「機器分析学A」 /10点 学内平均7.7点 「機器分析学B」 /10点 学内平均7.8点 「臨床分析学」 /10点 学内平均7.7点 「先端生命分子機構学概論」 /10点 学内平均7.8点	
・授業方法の工夫 (「基礎演習」において、SGDや学外見学の導入)	2009年4月～ 現在に至る	「薬物乱用問題」に関するトピックスにグループ単位で取り組ませている。また、近畿厚生局麻薬取締部に研修・見学に行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
「NEW薬学機器分析 第2版」 萩中淳、和田昭盛 編集 (分担執筆)	2011年8月10日	第1章 1.3 蛍光分析法 pp. 27-42. 第1章 1.5 赤外・ラマン分光分析法 pp. 66-95.	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
【ワークショップ関連】			
第4回薬剤師のためのワークショップ in 近畿	2006年9月 17、18日	(参加) 薬剤師教育における指導や 評価法について学ぶ	
ワールドカフェファシリテーター 養成ワークショップ第14期	2012年11月 23日	(参加) ワールドカフェの開催、 進行についての研修	
【高校出張模擬授業関連】			
分野別模擬授業(薬学)	2008年11月～ 現在に至る	2008年度 京都府立亀岡高等学校 2009年度 滋賀県立草津東高等学校 2010年度 私立光泉高等学校 2011年度 私立育英西高等学校 2012年度 大阪府立北千里高等学校	
【薬学共用試験OSCE関連】			
京都薬科大学 薬学共用試験OSCE	2009年12月～ 現在に至る	評価者	
大阪薬科大学 薬学共用試験OSCE	2010年1月	外部評価者	
大阪薬科大学 薬学共用試験OSCE	2011年12月	外部評価者	
【薬物乱用防止指導員関連】			
きょうと薬物乱用防止行動府民会議設立総会— 平成23年度麻薬・覚せい剤乱用防止運動京都大会	2011年10月9日	(参加) 京都府薬物乱用防止指導員委嘱と 薬物乱用問題に関する研修	
京都府薬物乱用防止指導員(大学等関係)研修会	2012年1月26日	(参加) 薬物乱用の現状と 防止運動の取り組みについての研修	
薬物乱用防止活動功績者感謝状贈呈式 京都府薬物乱用防止指導員委嘱式及び研修会	2013年3月22日	(参加) 京都府薬物乱用防止指導員委嘱と 薬物乱用防止運動に関する現状報告	
II 研究活動			
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Partitioning of anti-inflammatory steroid drugs into Phosphatidylcholine and phosphatidylcholine-cholesterol small unilamellar vesicles as studied by second-derivative spectrophotometry	共著	2008年5月	Chem. Pharm. Bull. Vol.56 No. 5, 663-667.
(論文) Preparation and characterization of a new lipid nano-emulsion containing two cosurfactants, sodium palmitate for droplet size reduction and sucrose palmitate for stability enhancement	共著	2008年8月	Chem. Pharm. Bull. Vol.56 No. 8, 1097-1102.
(論文) Characterization, in vitro cytotoxicity and cellular accumulation of paclitaxel-loaded lipid nano-emulsions	共著	2010年4月	J. Microencapsul. Vol.27 No. 5, 453-459.
(論文) Effect of bovine serum albumin on the stability of bicalutamide-encapsulated lipid nano-emulsion in bovine serum	共著	2012年4月	Curr. Nanosci. Vol.8 No. 2, 187-192.
(論文) Spectroscopic studies on the interaction of mefloquine with phosphatidylcholine-phosphatidylserine bilayer vesicle and bovine serum albumin	共著	2012年9月	Curr. Pharm. Anal. Vol.8 No. 3, 286-294.
III 学会等および社会における主な活動			
1995年4月～現在に至る	日本薬学会会員		
1995年4月～現在に至る	日本分析化学会会員		
2011年1月～現在に至る	ビタミンE研究会会員		
2011年3月～現在に至る	"International Journal of Spectroscopy" Editorial Board Member		
2011年10月～現在に至る	京都府薬物乱用防止指導員		
2013年4月～現在に至る	生物発光化学発光研究会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15)専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 准教授	氏名 津島美幸(通称:津島己幸)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2007年度～	「臨床情報学」(4年次前期)	
	2008年度～	「基礎演習」(1年次通年)	
	2009年度～	「実務実習事前学習」(4年次後期)	
	2010年度～ 現在に至る	病院・薬局実務実習直前講義(5年次通年)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年度～	実務実習事前実習の担当項目の教材作成	
	2010年度～ 現在に至る	「病院・薬局実務実習直前講義」の教材作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2007年3月	日本薬学会第127年会 演題:「京都薬科大学における早期体験学習の評価(第1報)—病院・薬局見学の学部生・教員・指導薬剤師のアンケート調査から—」	
	2008年9月	第18回日本医療薬学会年会 演題:「京都府病院薬剤師会・京都薬科大学の薬学連携ワークショップの現状と今後の課題」 演題:「京都薬科大学における早期体験学習—救命応急手当の取り組みと今後の課題—」 演題:「—病院・薬局見学の前後のアンケート調査から—」	
	2009年3月	日本薬学会第129年会 演題:「長期実務実習に向けた薬学連携の取り組み—京都薬科大学 長期実務実習キックオフセミナー—」	
	2012年3月	日本薬学会第132年会 演題:「京都薬科大学における病院・薬局見学—2006年度～2011年度の学生アンケートによる経時的調査—」 演題:「京都薬科大学におけるふさと実習への取り組み。」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2007年～2008年	京都薬報の生涯教育ホームテストを担当	
	2011年度～ 現在に至る	2年次生早期体験科目薬害講演会企画	
	2012年2月	「認定実務実習指導薬剤師のためのアド/バンスワークショップ」(京都)(事務局スタッフ)	
	2012年8月	第62回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿(事務局スタッフ)	
II 研究活動			
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号 数)等の名称
edition, in "Carotenoids in sea urchins"	共著	2007年	Elsevier, 2007, pp.159-166.
(著書)ウニ学.“ウニの化学物質.”本川達雄 編	共著	2009年3月	東海大学出版会
(著書)OTC医薬品対応マニュアル	共著	2011年4月	薬事日報社
(論文)Culture Characteristics of carotenoid-producing Filamentous Fungus T-1, and Carotenoid Production.	共著	2007年	J. Oleo Sci. 56(12), 649-652 (2007).
(論文)Carotenoids in Marine Invertebrates Living along the Kuroshio Current Coast.	共著	2011年	Mar. Drugs, 9, 1419-1427 (2011).
III 学会等および社会における主な活動			
2007年～2009年	京都府薬剤師会学術研修委員会委員		
2008年11月～2010年10月	京都府薬剤師会代議員		
2009年～現在	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会委員		
2010年～現在	京都府薬剤師会実務実習受入委員会委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	健康科学分野
職名	准教授	氏名	長澤 吉則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・ 担当科目について		2009年4月～ 現在に至る	1年次科目健康科学、体育実技、早期体験学習、5年次科目長期実務実習を担当
		2010年4月～ 現在に至る	1年次科目基礎演習を担当
・ 担当科目における授業評価について		2009年度	授業評価/10点 学内平均7.3点
		2010年度	授業評価/10点 学内平均7.5点
		2011年度	授業評価/10点 学内平均7.6点
		2012年度	授業評価/10点 学内平均7.7点
・ 授業方法の工夫 (SGDの導入等)		2009年4月～ 現在に至る	実技科目(体育実技)において、授業内容をどの程度理解、満足したか等について学生の記録表の点検を行い、次回以降の授業の内容の参考としている。実施時間や実施種目などに関する具体的な問題点が明らかになり、参考としている。
		2010年4月～ 現在に至る	演習科目(基礎演習)において、最近の医療に関するトピックス(テーマ自由選択)にグループ単位で取り組ませている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・ 作成した教科書		2011年9月	授業テキスト「健康・スポーツ科学講義第2版」杏林書院を執筆し、2013年度から健康科学の教科書として利用している。本書は理論編と実践編を設け、一般学生から健康・スポーツ科学を専攻する学生までが教科書・参考書として利用できる構成となっており、生涯を通じて運動・スポーツとかかわりを持ちながら心身の健康を保つことを願って編成されたものである。
・ 作成した教材		2009年4月～ 現在に至る	講義内容の改善策として、教科書以外の独自の教材(パワーポイント、補足配布資料)を作成し、毎週受講学生からの反応をも参考にして学習効果の向上に努めている。パワーポイントの教材はMoodle上に公開し、学生の自己学習に活用できるようにしている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
・ 教育に関わる講師としての講義等の内容		2008年12月	平成20年度中級スポーツ指導員養成講習会(1)、(財)日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度にて、受講者を対象に、「トレーニング:効果的な体カトレーニングの実践」について、63枚のスライド、プリントなどを利用し、講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
・ 金沢大学大学院自然科学研究科学位論文審査員(博士課程担当者)		2006年7月～ 現在に至る	博士学位論文の副査として審査にあたっている。
・ 第58回薬剤師のためのワークショップ in 近畿(兵庫)		2011年10月	受講者として参加した。
・ 京都女子大学非常勤講師		2011年4月～ 現在に至る	週2時間、実技科目「スポーツ実践」において卓球の指導を担当している。

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門	共編著	2009年6月	杏林書院
健康・スポーツ科学講義第2版	共編著	2011年9月	杏林書院
Age and sex differences of controlled force exertion measured by a computer-generated quasi-random target-pursuit system.	共著	2010年9月	Journal of Musculoskeletal and Neuronal Interactions vol.10 No.3
Age-related corresponding relationships of controlled force exertion measured by a computer-generated sinusoidal and quasi-random display.	共著	2011年10月	Measurement in Physical Education and Exercise Science vol.15 No.4
Age differences between the controlled force exertion measured by a computer-generated sinusoidal and a bar chart display.	共著	2013年4月	Archives of Gerontology and Geriatrics vol.57 No.1
III 学会等および社会における主な活動			
・学会等における主な活動			
1994年8月～2007年7月	日本教育医学会理事		
1998年9月～2009年8月	日本体力医学会東北地方会幹事		
2005年4月～2011年3月	日本体育測定評価学会理事		
2007年4月～現在に至る	日本体育測定評価学会研究助成委員会委員長		
2007年8月～現在に至る	日本教育医学会常任理事		
2009年4月～現在に至る	日本体育測定評価学会研究推進委員会委員長		
2011年4月～現在に至る	日本体育測定評価学会常任理事		
・社会における主な活動			
2008年12月	平成20年度障害者スポーツ人材養成事業中級指導員養成講習会講師		
2009年4月～現在に至る	京都薬科大学公開講座・健康企画		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬理学分野
職名	准教授	氏名	奈邊 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・担当科目について		2006年4月～ 現在に至る	1年次科目 基礎演習を担当
		2006年4月～ 現在に至る	1年次科目 早期体験学習を担当
		2007年9月～ 2012年3月	2年次科目 薬理学Aを担当
		2008年4月～ 現在に至る	3年次科目 薬理学Bを担当
		2008年9月～ 現在に至る	3年次科目 薬理学Cを担当
		2008年9月～ 現在に至る	3年次科目 薬理学実習を担当
		2011年9月～ 現在に至る	6年次科目 先端薬理学概論を担当
		2006年4月～ 現在に至る	大学院科目 薬理学特論を担当
・担当科目における授業評価について		2009年度	薬理学A /10点 (全体平均7.5点) 薬理学B /10点 (全体平均7.4点) 薬理学C /10点 (全体平均7.5点)
		2010年度	薬理学A /10点 (全体平均7.5点) 薬理学B /10点 (全体平均7.4点) 薬理学C /10点 (全体平均7.5点)
		2011年度	薬理学A /10点 (全体平均7.7点) 薬理学B /10点 (全体平均7.7点) 薬理学C /10点 (全体平均7.7点) 先端薬理学概論 /10点 (全体平均7.7点)
		2012年度	薬理学A /10点 (全体平均7.7点) 薬理学B /10点 (全体平均7.8点) 薬理学C /10点 (全体平均7.7点) 先端薬理学概論 /10点 (全体平均7.8点)
			学生による自由意見の中で、「イラストを多く含む講義資料が分かりやすい」、「薬理学に興味を持った」、「薬理学が好きになった」などの意見があった。一方、薬理学Aの評価点が薬理学Bおよび薬理学Cのそれらに比べて低かった。薬理学Aの導入部分の講義時には、あまり観念的になることなく、種々の例を挙げて、具体的に講義することが必要であると思われる。
・授業方法の工夫 (1) SGDを利用した教育		2006年4月～ 現在に至る	基礎演習において、医療・くすりに関連する自分が興味あるテーマを自由に選択させ、調査し、SGDを行い、プレゼンテーションすることを1年間に複数回取り組ませてきた。

<p>(2) 独自のテキストを使用した薬理学教育</p> <p>(3) 座席指定による出席率向上 ならびに問題ある学生の検出</p> <p>(4) 朝勉システムによるボトムアップ教育</p>	<p>2007年9月～ 現在に至る</p> <p>2007年9月～ 現在に至る</p> <p>2010年11月～ 現在に至る</p>	<p>薬理学A・B・Cにおいて、イラストを多く含む講義用資料を独自に作成し使用することで、学生が生体と薬物の相互作用をイメージとして捉えることができるように努めてきた。</p> <p>薬理学A・B・Cの講義では全て座席指定にすることで出欠を管理し、出席点を単位認定に計上することで出席率の向上を図ってきた。さらに、複数回連続で欠席した者に関しては、教務課と共同で、休学に繋がるような意欲の低下した学生ではないかどうか、呼び出してチェックするとともに、必要であればカウンセリングなどを行ってきた。</p> <p>成績不振学生を数名ピックアップし、講義開始前の午前8時30分頃から約30分間、居室にて自主的に勉強をさせるとともに質問に答え、1時間目の授業へ見送ってきた。これにより学生を勉学の方向へ向けるとともに授業への出席を促してきた。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬理学A・B・Cの講義プリント ・最新基礎薬理学 第3版 (廣川書店) 	<p>2007年9月～ 現在に至る</p> <p>2011年10月31日 発行</p>	<p>イラストを多く含む講義用資料を独自に作成した。</p> <p>京都薬科大学をはじめとした薬系大学で使用する薬理学の教科書の一部(平滑筋に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、オータコイド)の項を執筆した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		<p>該当なし</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回 全国薬学教育者ワークショップ近畿・中四国 (摂南大学、参加) ・第1回 京都薬科大学-京都府病院薬剤師会 ワークショップ (京都薬科大学、タスクフォース) ・第2回 京都薬科大学-京都府病院薬剤師会 ワークショップ (京都薬科大学、チーフタスク) ・第3回 京都薬科大学-京都府病院薬剤師会 ワークショップ (京都薬科大学、チーフタスク) ・第19回 全国薬学教育者ワークショップ近畿 (摂南大学、タスクフォース) ・第4回 京都薬科大学-京都府病院薬剤師会 ワークショップ (京都薬科大学、タスクフォース) ・第13回 薬剤師のためのワークショップin近畿 (武庫川女子大学、タスクフォース) 	<p>2003年 8月8・9日</p> <p>2004年8月8日</p> <p>2005年3月6日</p> <p>2005年12月4日</p> <p>2006年 8月5・6日</p> <p>2006年12月3日</p> <p>2008年 1月13・14日</p>	<p>6年制薬学教育の開始に向けて、薬学教育者として、今一度研修を受けた。すなわち、教育を単なる講義を行うことではなく、「学習者」を主語として、「学習者の行動(知識・技能・態度)に価値ある変化をもたらすこと」と捉え、学習者の到達すべき目標を設定し、教育の方法、評価法を具体的に作り上げ、学習者が目標に到達したか、この教育そのものが妥当であるかなどを評価し、より良いカリキュラムを作り上げて行く手法を体得した。</p> <p>6年制薬学教育の開始に向けて、学業連携を強化するため、京都薬科大学が京都府病院薬剤師会の会員に提供できることとして、「文献検索の方法」のワークショップを行った。これにタスクフォースとして協力した。</p> <p>京都薬科大学と京都府病院薬剤師会の連携ワークショップの第2回「TDMの実践」の開催を、チーフタスクフォースとしてとりまとめた。</p> <p>京都薬科大学と京都府病院薬剤師会の連携ワークショップの第3回「消毒薬の選択基準」の開催を、チーフタスクフォースとしてとりまとめた。</p> <p>厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに、タスクフォース(世話役)として参加した。</p> <p>京都薬科大学と京都府病院薬剤師会の連携ワークショップの第4回「ジェネリック医薬品ならびに溶出試験」の開催を、タスクフォースとして協力した。</p> <p>厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに、タスクフォース(世話役)として参加した。</p>

・第5回 京都薬科大学-京都府病院薬剤師会 ワークショップ（京都薬科大学、タスクフォース）	2008年3月2日	京都薬科大学と京都府病院薬剤師会の連携ワークショップの第5回「注射剤の調製（無菌操作）」の開催を、タスクフォースとして協力した。
・第29回 薬剤師のためのワークショップin近畿 （武庫川女子大学、タスクフォース）	2009年 1月13・14日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに、タスクフォース（世話役）として参加した。
・第39回 薬剤師のためのワークショップin近畿 （神戸学院大学、タスクフォース）	2009年 9月22・23日	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに、タスクフォース（世話役）として参加した。
・小野薬品工業株式会社から委託生を受け入れ、 研究指導を行っている。	2010年5月～ 現在に至る	気管支喘息におけるCysLT2受容体の役割についての研究で、小野薬品工業株式会社・水無瀬研究所の2名の研究員を受け入れ、研究指導を行っている。
・株式会社ビオスタから委託生を受け入れ、 研究指導を行った。	2012年3月～ 2012年5月	マウス喘息モデルにおける抗原の選択に関する研究で、株式会社ビオスタから1名の研究員を受け入れ、研究指導を行った。

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）最新基礎薬理学 第3版	共著	平成23年10月	廣川書店
（著書）服薬指導・看護に役立つ よくわかる治療薬ブック	共著	平成24年11月	照林社
（論文）Roles of basophils and mast cells infiltrating the lung by multiple antigen challenges in asthmatic responses of mice	共著	平成25年5月	British Journal of Pharmacology 169, 462- 476
（論文）Regulatory role of antigen-induced interleukin-10, produced by CD4+ T cells, in airway neutrophilia in a murine model for asthma	共著	平成24年2月	European Journal of Pharmacology 677, 154- 162
（論文）Important roles of neutrophils in the late asthmatic response in mice	共著	平成23年6月	Life Sciences 88, 1127- 1135

III 学会等および社会における主な活動

平成20年4月～平成22年4月	独立行政法人 科学技術振興機構（JST）『つなぐしくみ』外部専門家
平成22年10月～現在に至る	公益社団法人 日本薬理学会 代議員
平成23年4月～平成24年4月	独立行政法人 科学技術振興機構（JST）『震災地域を対象とした研究シーズ探索プログラム』外部評価委員
平成23年4月～現在に至る	独立行政法人 科学技術振興機構（JST）『知財活用促進ハイウェイ』評価委員会 外部専門委員
平成23年6月～現在に至る	一般社団法人 日本アレルギー学会 代議員

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 一般教育	職名 准教授	氏名 野崎 亜紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について 法学、医療と社会、基礎演習、英語	2013年4月～ 現在に至る	1年次科目法学、医療と社会および基礎演習、 2年次科目法学、英語を担当	
日本国憲法、公共政策入門、基礎演習、発展演習 現代社会と法、専門演習、卒論演習 学術研究の進め方、法哲学	2007年4月～ 2013年3月	1年次科目日本国憲法、公共政策入門、基礎演習、 2年次科目発展演習、 2年次以上科目現代社会と法 3年次科目専門演習、4年次科目卒論演習 大学院博士前期課程科目学術研究の進め方、法哲学	
・授業方法の工夫(SGDの導入)	2007年度～ 2013年度	法廷見学、公共政策の現場見学、講義に国内外の法曹を招聘し、ジョイント講義を行う。国外から講師を招聘する才、学生と共に講師の論文の翻訳作りなどを行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想 古典で読み解く21のトピック』	(ミネルヴァ書房、2010)	III3「生命・先端医療life and technology-自由はなぜ規制されるのだろうか?-ミル『自由論』/バーリン「二つの自由主義」」執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		特になし	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)医事法講座第2巻 インフォームド・コンセントと医事法	共著	平成22年12月	信山社
(著書)叢書アレテア11 近代法とその限界	共著	平成22年2月	御茶の水書房
(著書)多文化社会・共生・グローバル化-普遍化と多様化のはざま-	共著	平成22年2月	ミネルヴァ書房
(著書)生殖革命と親・子-生殖技術と家族II-	共著	平成20年12月	早稲田大学出版
(論文)私事・自己決定・関係性-プライバシーの観念という視点-	単著	平成19年3月	国際高等研究所『国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成』
III 学会等および社会における主な活動			
平成25年1月～現在に至る	Internationale Vereinigung für Rechts und Sozialphilosophie日本支部運営委員会委員		
平成23年12月～現在に至る	日本生命倫理学会理事		
平成23年1月～現在に至る	日本法哲学会企画委員会委員		
平成21年11月～平成24年3月	広島県情報公開・個人情報保護審査会委員		
IV 備考			
平成25(2013)年4月着任。前任校は広島市立大学国際学部(平成25(2013)年3月迄)			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬化学	職名 准教授	氏名 橋本 貴美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
有機化学A (おおむね平均/10程度)	2010年4月～ 2011年3月	1年次前期科目有機化学Aを担当	
専門基礎演習A (おおむね平均/10程度)	2010年4月～ 2011/3/1	1年次前期科目専門基礎演習Aを担当	
有機化学B (おおむね平均/10程度)	2007年4月～ 2009/3/1	1年次後期科目有機化学Bを担当	
専門基礎演習B (おおむね平均/10程度)	2012年4月～ 現在に至る	1年次後期科目専門基礎演習Bを担当	
有機化学C	2007年4月～ 2009/3/1	1年次後期科目専門基礎演習Bを担当	
専門基礎演習C	2012年4月～9月	2年次前期科目有機化学Cを担当(カリキュラム変更に伴い数人の個別授業)	
基礎演習	2012年4月～9月	1年次後期科目専門基礎演習Bを担当(カリキュラム変更に伴い数人の個別授業)	
早期体験学習	2007年4月～ 現在に至る	1年次通年科目。SGDをできるようにするために、調べる、発表する、質問するといった内容の少人数授業。中毒の科学という題目で行っているため、屋外へも積極的に出かける機会を作り、自由に発言できる雰囲気作りに努めた。	
有機化学・天然医薬品学実習	2007年4月～ 現在に至る	1年次前期科目。病院、薬局、工場見学などの付き添い、障害者の講演に対するレポート添削、SGDの練習を複数教員と共同で担当している。	
総合薬学研究A, B, C, D	2007年4月～ 現在に至る	3年次前期科目。有機化学実験で使う器具名や基礎的な操作方法を教え、安全指導を行った。更に、簡単な薬の多段階合成を行っている。複数の教員で担当している。	
総合薬学演習A, B, C, D	2009年10月～ 現在に至る	3年次後期から6年次前期までの半期ごとの科目(5年次は除く)。卒業研究を選択した学生への研究室での実験等の指導を行った。複数の教員で担当している。	
薬学特別演習	2009年10月～ 現在に至る	3年次後期から6年次前期までの半期ごとの科目(5年次は除く)。卒業演習を選択した学生へ、テーマを決め、調べる、まとめる、発表して討論するといった内容の指導を行った。複数の教員で担当している。	
	2010年10月～ 現在に至る	国家試験対策として行っている復習授業。複数の教員で担当するため、内容は時によって変わるが、有機化学の基礎を演習方式で教えた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 有機化学・天然医薬品学実習の実習書の改訂	2013年4月～	英語の部分を日本語に直し、間違いの部分を書き直した。	

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 帝京大学薬学部における集中講義	2012年12月	(1) 自然現象解明のための科学 (2) 不安定な天然物の化学という題目で、学生がサイエンスに目を向けるようにという要望に応えた。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Studies on the Red Sweat of the Hippopotamus amphibius	共著	2007	Pure & Appl. Chem., 79, 507-517
Total Synthesis of Siomycin A : Construction of Synthetic Segments	共著	2008	Chem. Asian J., 3, 984-1012
Total Synthesis of Siomycin A : Completion of the Total Synthesis	共著	2008	Chem. Asian J., 3, 1013-1025
Identification of the toxic trigger in mushroom poisoning	共著	2009	Nature. Chem. Biol., 5, 465-466
Molybdophyllysin, a Toxic Metalloendopeptidase from the Tropical Toadstool, Chlorophyllum molybdites	共著	2012	Bioorg. Med. Chem., 20, 6583-6588

III 学会等および社会における主な活動

平成18年4月～現在	新規素材探索研究会 幹事
平成18年1月～平成19年12月	日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員
平成19年～現在	菌類の事典(日本菌学会編集) 編集委員
平成20年4月～平成22年3月	有機合成化学協会関西支部 幹事
平成20年1月～平成21年12月	文部科学省 科学研究費 審査委員
平成20年8月～平成22年7月	日本学術振興会 特別研究員審査会専門委員および国際事業委員会 書面審査委員
平成25年4月～現在	関西菌類談話会 幹事

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	京都薬科大学	講座名	情報処理教育 研究センター	職名 准教授 氏名 藤原 洋一
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
● 担当科目について		2007年4月～ 2011年3月	1年次科目「ITA」および「ITB」を担当	
		2012年4月～ 現在に至る	1年次科目「情報科学」を担当	
● 担当科目における授業評価について (2009年度より実施)		2009年度	授業評価「ITA」/10点 全体平均7.4点	
		2009年度	授業評価「ITB」/10点 全体平均7.5点	
		2010年度	授業評価「ITA」/10点 全体平均7.4点	
		2010年度	授業評価「ITB」/10点 全体平均7.5点	
		2011年度	授業評価「ITA」/10点 全体平均7.7点	
		2011年度	授業評価「ITB」/10点 全体平均7.7点	
		2012年度	授業評価「情報科学」/10点 全体平均7.8点	
● 授業方法の工夫				
1) LAN配信型授業支援ソフトによる授業環境の提供		2007年4月～ 2012年3月	LAN配信型授業支援ソフト(「SkyMenuPro」)により、指導教員の説明画面が学生のPC画面上に配信される形式で授業を行った。	
2) インターネット回線を利用した遠隔授業		2007年4月～ 現在に至る	他大学(主に東北薬科大学(仙台市))との合同遠隔授業をリアルタイムで行うことにより、学生の今後の学習のモチベーションを向上させることに大い	
3) 授業内容のホームページ形式による公開		2008年4月～ 現在に至る	毎回の授業内容をホームページ形式で作成、webサーバで公開することにより、学生が予習・復習できやすい環境を整えた。	
4) 学習支援システム(LMS:「Moodle」)の導入		2009年4月～ 現在に至る	LMSである「Moodle」を運用することで、学生に対してのアンケート・課題提出・資料配布などが容易にできている。授業に対する学生の理解度を確認することに役立てている。	
5) 個別補助モニター方式による授業環境の提供		2012年4月～ 現在に至る	教員の操作画面を各学生PCの上部に1台ずつ設置したモニターに配信する方式を採用することで、各学生がどの座席からも教員の操作するPC画面と全く同じ画面(等倍、等解像度)を見ながら、PCの操作ができるようになった。	
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
●藤原洋一 他: 京都府病院薬剤師会・京都薬科大学の薬学連携ワークショップの現状と今後の課題。第18回日本医療薬学会(札幌)		2008年9月	京都府病院薬剤師会・京都薬科大学の連携ワークショップ	
●深田 守 他: 学生による地域商店街の活性化支援の取り組み。平成22年度情報処理教育研究会(京都)		2010年12月	地域社会との支援・連携	
●伊藤弥生 他: 早期体験学習「救命応急手当」で使用するビデオ教材の改良とその効果。日本薬学会第131年会(静岡)		2011年3月	従来のビデオ教材の改良および作成	
●藤原洋一 他: 初年次教育における大学間合同遠隔授業での学習支援システムを活用した取り組み。第21回日本医療薬学会年会(神戸)		2011年10月	従来の遠隔授業に学習支援システムを取り入れた取り組み	
●藤原洋一 他: 個別補助モニターを導入した情報演習室の再構築とその評価。大学ICT推進協議会2012年度年次大会(神戸)		2012年12月	教員の操作画面を各学生PCの上部に1台ずつ設置したモニターに配信する方式でPC授業利用環境を再構築	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)				
● 京都府病院薬剤師会 実務研修会		2008年2月～ 2010年10月	協力(タスク)	
● 薬剤師のためのワークショップ in 近畿		2008年8月～ 現在に至る	協力(タスク)	
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし				
III 学会等および社会における主な活動				
該当なし				

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬学教育研究センター
		職名	准教授
		氏名	細井 信造
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・担当科目について		2009年～現在に至る	2年次科目有機化学Dを担当
		2009年～2011年	2年次科目専門基礎演習D
		2009年	3年次科目分子薬品化学A
		2009年～現在に至る	4年次科目共用試験演習を担当
		2010年～現在に至る	1年次科目基礎演習を担当
		2011年～現在に至る	6年次科目薬学演習を担当
		2011年～現在に至る	6年次科目薬学特別演習を担当
・担当科目における授業評価について		2009年度	有機化学D：授業評価 /10点 学内平均7.5点 専門基礎演習D：授業評価 /10点 学内平均7.5点 分子薬品化学A：授業評価 /10点 学内平均7.5点
		2010年度	有機化学D：授業評価 /10点 学内平均7.5点
		2011年度	有機化学D：授業評価 /10点 学内平均7.7点
		2012年度	有機化学D：授業評価 /10点 学内平均7.7点
・授業方法の工夫		2010年度～現在に至る	1年次科目基礎演習において創薬に関するテーマについてまとめるにあたりSGD (KJ法、ワールドカフェ方式など) を積極的に取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年4月	1. 編集 御影雅幸、木村正幸 木村正幸、寺林進、伏谷真二、伏見裕利、御影雅幸、垣内信子、細井信造、宮一諭起範、中村憲夫、田中宏幸、矢原正治、関田節子 「伝統医薬学・生薬学」(増補) 南江堂 2013年4月 生薬の品質評価で化学的評価、現代医療に役立つ生薬および双子葉植物綱・離弁花植物亜綱について述べている。 P75-88, 97-102, 144-158 分担執筆。
		2012/1/1	2. 編集 海老塚豊、森田博史 海老塚豊、高橋邦夫、小山清隆、森田博史、石橋正己、太田富久、細井信造、小林淳一、久保田高明、代田修、三巻祥浩、竹谷孝一、一柳幸生、高山廣光、石山玄明、金田利夫、野沢幸平 「パートナー天然物化学」改訂第2版 南江堂 第3章 芳香族化合物でタンニンおよびその他の芳香族化合物について述べている。 P88-98 分担執筆。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2010年9月5日～12日	1. 米国ボストン市フェンウエイコンソーシアム(COF)加盟校のFD調査。2010年度夏季研修・調査報告書にMassachusetts College of Pharmacy and Health Sciencesの視察内容をまとめた。
		2012年8月27日～28日	2. 第12回山形大学FD合宿セミナー「相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして」に参加。

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）「わかりやすい化合物命名法」2刷	共著	2010年1月	廣川書店
（著書）「有機医薬品合成化学—ターゲット分子の合成—」	共著	2011年1月	廣川書店
（論文） Novel approach to determining the absolute configurations at the C3-positions of various types of sterols based on an induced circular dichroism	共著	2013年8月	Steroids, vol. 77, No. 12, 1198-1204
（論文） Induced circular dichroism in chiral N-methyl amides possessing an achiral binaphthyl chromophore and its application to absolute configuration determination of aliphatic chiral amines	共著	2013年7月	Tetrahedron: Asymmetry vol. 23, No. 13, 981-991
（論文） Straightforward approach to the discrimination of (4R)- and (4S)- β -isocryptoxanthin from a conformationally insensitive CD band	共著	2010年4月	Natural Product Communications, vol. 5, No. 11, 1733-1736
III 学会等および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 R Iセンター	職名 准教授	氏名 山岸伸行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について 1997年4月～ 2004年4月～ 2006年4月～ 2008年4月～ 2012年9月 2008年9月～ 2013年3月 2008年4月～ 2012年9月 2011年4月～ 2012年9月～ 2013年4月～ 2013年4月～ ・授業方法の工夫 ①視覚的な資料の作成 2003年4月～ ②毎回の講義に関するアンケート実施 2012年9月～		2年次科目「生化学実習」を担当 1年次科目「基礎演習」を担当 1年次科目「早期体験学習」を分担 2年次科目(6年制旧カリ)「生化学A」を分担 2年次科目(6年制旧カリ)「生化学B」を分担 3年次科目(6年制旧カリ)「生化学C」を分担 6年次科目「先端分子生物学」を分担 1年次科目(6年制新カリ)「生化学A」を分担 2年次科目(6年制新カリ)「生化学B」を分担 3年次科目(6年制旧カリ)「物理化学C」を分担 ・ PowerPointを用いて視覚的に理解できるようにした。 ・ 毎回の講義での質問や意見などを記入してもらい、質問に関しては代表的なものを時間の講義の冒頭で解説。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ベーシック生化学、畑山巧 編集、化学同人	2009年4月21日	第7章酵素触媒、第8章ビタミン、第16章アミノ酸代謝を分担執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 第65回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップin近畿)タスクフォース 2013年3月 第64回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップin近畿)タスクフォース 2012年9月 第127回応急手当普及員再講習 2012年7月 第56回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップin近畿)タスクフォース 2011年8月 第49回薬剤師のためのワークショップin近畿(厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ)タスクフォース 2010年9月 京都薬科大学オープンキャンパスミニ講義 2010年8月 第44回薬剤師のためのワークショップin近畿(厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ)タスクフォース 2010年1月			

第41回薬剤師のためのワークショップin近畿（厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ）タスクフォース	2009年11月	
第140回応急手当普及員本講習	2009年8月	
第19回薬剤師のためのワークショップin近畿（厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ）タスクフォース	2008年8月	
第12回薬剤師のためのワークショップin近畿（厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ）タスクフォース	2007年11月	
第9回薬剤師のためのワークショップin近畿（厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ）タスクフォース	2007年8月	
薬学教育フォーラム2005. 参加	2005年10月	
第10回全国薬学教育者ワークショップ, 参加者	2005年8月	

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Endoplasmic reticulum chaperone GRP78 suppresses the aggregation of proteins containing expanded polyglutamine tract. (2012).	共著	平成24年6月	Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol.422, No.3
（論文）Decreased expression of endoplasmic reticulum chaperone GRP78 in liver of diabetic mice.	共著	平成24年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol.417, No.1
（論文）Hsp105 reduces the protein aggregation and cytotoxicity by expanded-polyglutamine proteins through the induction of Hsp70.	共著	平成22年9月	Exp. Cell Res., Vol.316, No.15
（論文）Hsp105beta upregulates hsp 70 gene expression through signal transducer and activator of transcription-3.	共著	平成21年10月	FEBS J., Vol.276, No.20
（論文）Mammalian 105 kDa heat shock family proteins suppress hydrogen peroxide-induced apoptosis through a p38 MAPK-dependent mitochondrial pathway in HeLa cells.	共著	平成20年9月	FEBS J., Vol.275, No.18

III 学会等および社会における主な活動

該当なし

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 京都薬科大学	講座名 情報処理教育研究センター	職名 講師	氏名 石川誠司	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
● 担当科目について		2007年4月～ 2011年3月	1年次科目「ITA」および「ITB」を担当	
		2012年4月～ 現在に至る	1年次科目「情報科学」を担当	
● 担当科目における授業評価について (2009年度より実施)		2008年度	I T A /4点 I T B /4点	
		2009年度	I T A /10点 I T B /10点	
		2010年度	I T A /10点 I T B /10点	
		2011年度	I T A /10点 I T B /10点	
		2012年度	情報科学 /10点	
● 授業方法の工夫				
1) LAN配信型授業支援ソフトによる授業環境の提供		2007年4月～ 2012年3月	LAN配信型授業支援ソフト(「SkyMenuPro」)により、指導教員の説明画面が学生のPC画面上に配信される形式で授業を行った。	
2) インターネット回線を利用した遠隔授業		2007年4月～ 現在に至る	他大学(主に東北薬科大学(仙台市))との合同遠隔授業をリアルタイムで行うことにより、学生の今後の学習のモチベーションを向上させることに大いに	
3) 授業内容のホームページ形式による公開		2008年4月～ 現在に至る	毎回の授業内容をホームページ形式で作成、webサーバで公開することにより、学生が予習・復習できやすい環境を整えた。	
4) 学習支援システム(LMS:「Moodle」)の導入		2009年4月～ 現在に至る	LMSである「Moodle」を運用することで、学生に対してのアンケート・課題提出・資料配布などが容易にできている。授業に対する学生の理解度を確認することに役立てている。	
5) 個別補助モニター方式による授業環境の提供		2012年4月～ 現在に至る	教員の操作画面を各学生PCの上部に1台ずつ設置したモニターに配信する方式を採用することで、各学生がどの座席からも教員の操作するPC画面と全く同じ画面(等倍、等解像度)を見ながら、PCの操作ができるようになった。	
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
●深田 守 他: 学生による地域商店街の活性化支援の取り組み。平成22年度情報処理教育研究集会(京都)		2010年12月	地域社会との支援・連携	
●伊藤弥生 他: 早期体験学習「救命応急手当」で使用するビデオ教材の改良とその効果。日本薬学会第131年会(静岡)		2011年3月	従来のビデオ教材の改良および作成	
●藤原洋一 他: 初年次教育における大学間合同遠隔授業での学習支援システムを活用した取り組み。第21回日本医療薬学会年会(神戸)		2011年10月	従来の遠隔授業に学習支援システムを取り入れた取り組み	
●藤原洋一 他: 個別補助モニターを導入した情報演習室の再構築とその評価。大学ICT推進協議会2012年度年次大会(神戸)		2012年12月	教員の操作画面を各学生PCの上部に1台ずつ設置したモニターに配信する方式でPC授業利用環境を再構築	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし	
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし				
III 学会等および社会における主な活動				
該当なし				

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	病態生化学分野
職名	講師	氏名	石原 慶一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・ 担当科目について		2009年4月～ 現在に至る	3年次科目 薬物治療学B 4年次科目 薬物治療学D 2年次科目 生化学実習
・ 担当科目における授業評価について		2011年4月～ 現在に至る	6年次科目 先端病態科学概論
		2009年4月1日～ 現在に至る	[講義科目：薬物治療学B, 薬物治療学D] 授業評価のアンケートを行い、意見に対して講義方法を改善するなどしている。
		2011年4月1日～ 現在に至る	[講義科目：先端病態科学概論] 授業評価のアンケートを行い、意見に対して講義方法を改善するなどしている。
		2009年度	薬物治療学D /10点 学内平均 7.4点 薬物治療学B /10点 学内平均 7.5点
		2010年度	薬物治療学D /10点 学内平均 7.4点 薬物治療学B /10点 学内平均 7.5点
		2011年度	薬物治療学D /10点 学内平均 7.7点 薬物治療学B /10点 学内平均 7.7点 先端病態科学概論 /10点 学内平均 7.7点
		2012年度	薬物治療学D /10点 学内平均 7.8点 薬物治療学B /10点 学内平均 7.7点 先端病態科学概論 /10点 学内平均 7.8点
・ 板書とスライドの併用		2009年4月1日～ 現在に至る	[講義科目：薬物治療学B, 薬物治療学D] 人体の解剖学的所見や病理学的所見といった視覚的に理解する必要があるものについてはスライドを映写しながら講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・ プリント配布		2009年4月1日～ 現在に至る	[講義科目：薬物治療学B, 薬物治療学D] 教科書の内容を出来るだけ視覚的に理解できるよう、図を多く盛り込んだプリントを作成し、配布している。
・ スライドを印刷したプリントの配布		2011年4月1日～ 現在に至る	[講義科目：先端病態科学概論] 先端病態科学概論は最先端の病態科学の知見を紹介する講義であるため教科書は使用しておらず、スライド中心となる。そのスライドを印刷物として配布している。
・ 実習書の配布		2009年4月1日～ 現在に至る	[講義科目：生化学実習] 生化学実習の実習内容や実習手順などを記した実習書を作成し、配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
・ 第43回薬剤師のためのワークショップin近畿 (神戸)		2009年11月22, 23日	薬剤師教育のためのワークショップに参加した。

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Group IVA phospholipase A2 participates in the progression of hepatic fibrosis.	共著	2012年10月	The FASEB Journal, vol. 26, No. 10
（論文） Lens epithelium-derived growth factor deSumoylation by Sumo-specific protease-1 regulates its transcriptional activation of small heat shock protein and the cellular response.	共著	2012年9月	FEBS Journal, vol. 279, No. 17
（論文） Regulation of macrophage differentiation and polarization by group IVC phospholipase A ₂ .	共著	2011年12月	Biochemical and Biophysical Research Communications, vol. 416, No. 3-4
（論文） Enlarged brain ventricles and impaired neurogenesis in the Ts1Cje and Ts2Cje mouse models of Down syndrome.	共著	2010年5月	Cerebral Cortex, vol. 20, No. 5
（論文） Increased lipid peroxidation in Down's syndrome mouse models.	共著	2009年9月	Journal Neurochemistry, vol. 110, No. 6
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科	講座名 薬物動態	職名 講師	氏名 伊藤 由佳子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・授業方法の工夫 (SGDの導入)		2009年4月～ 現在に至る 2011年4月～	4年次科目 薬物動態学 A・B の一部を担当 1年次科目 基礎演習 を担当 学生が関心を持っているテーマを抽出して、グループ全体のテーマを決定する。2, 3人ごとに小項目を担当して全体としてのテーマにつながるようにまとめさせる。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effect of lipophilicity on the bioavailability of drugs after percutaneous administration by dissolving	共著	平成24年1月	J. Pharm. Sci., 101, 1145-1156 (2012)
(論文) Two-layered dissolving microneedles formulated with intermediate-acting insulin.	共著	平成24年4月	Int. J. Pharm., 436, 387-393 (2012).
(論文) Transdermal Insulin application system with dissolving microneedle.	共著	平成24年6月	Diabetes Technol. Ther., 14, 891-899 (2012).
(論文) Antigen-loaded dissolving microneedle array as a novel tool for percutaneous vaccination.	共著	平成24年2月	Vaccine, 30, 1191-1197 (2012).
(論文) High percutaneous bioavailability of granisetron by dissolving microneedles.	共著	平成24年8月	J Drug Del. Sci. Tech., 22, 500-504 (2012).
III 学会等および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 講師	氏名 今西孝至
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
・担当科目	2010年度～ 2010年度～ 2010年度～ 2012年度 2011年度～ 2013年度～ 現在に至る	早期体験学習：病院・薬局見学担当（1年次前期） 実務実習事前学習（4年次後期） （担当：水剤、軟膏剤、フィジカルアセスメント） 医療の担い手としてのこころ構え（旧カリ）（2年次前期） 基礎演習（1年次通年） 医療の担い手としてのこころ構えB（2年次前期）	
・担当科目における授業評価について	2010年度 2011年度 2012年度	科目：医療の担い手としてのこころ構え 授業評価 /10点（学内平均 7.3点） 科目：医療の担い手としてのこころ構え 授業評価 /10点（学内平均 7.6点） 科目：医療の担い手としてのこころ構え 授業評価 /10点（学内平均 7.7点）	
・授業方法の工夫	2010年度～ 2012年度～ 現在に至る	・医療現場での経験を具体例を挙げて講義中に話し、興味を持てるように心がけている。 ・初期教育から薬剤師免許取得を念頭に置き、CBTを含め国家試験を意識した授業を心がけている。 高山教授、松村助教とともに2年次科目「医療の担い手としてのこころ構え」にSGDを導入	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年度～ 2012年度 2010年度～ 2010年度～ 2011年度～ 2013年度～ 現在に至る	「医療の担い手としてのこころ構え」の教材作成 「早期体験学習（担当：病院・薬局見学）」の教材作成 実務実習事前実習の担当項目（水剤、軟膏・外用剤、フィジカルアセスメント）の教材作成 「基礎演習」（1年次SGD教育）の教材作成 「医療の担い手としてのこころ構えB」の教材作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年10月 2012年3月 2012年3月	平成23年度大津市薬剤師会研修会 演題名：「京都薬科大学における医療人としての薬剤師教育」 日本薬学会第132年会（ポスター発表） 演題名：「京都薬科大学における病院薬局見学-2006年度～2011年度の学生アンケートによる経時的調査-」 日本薬学会第132年会（ポスター発表） 演題名：「京都薬科大学におけるふるさと実習への取り組み」	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年8月	第48回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿 (タスクフォースとして参加)	
	2011年3月	第53回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿 (タスクフォースとして参加)	
	2011年8月	第56回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿 (タスクフォースとして参加)	
	2011年9月	第57回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿 (タスクフォースとして参加)	
	2012年2月	滋賀県薬剤師会主催 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ (タスクフォースとして参加)	
	2012年2月	京都府薬剤師会主催 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ (タスクフォースとして参加)	
	2012年8月	第62回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿 (タスクフォースとして参加)	
	2013年4月	奈良県薬剤師会主催 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ (タスクフォースとして参加)	
	・衛生検査技師免許証	1995年6月	第55267号
	・日本薬剤師研修センター認定薬剤師	2006年11月	第07-20045号
・救急救命士免許証	2010年4月	第37717号	
・公認スポーツファーマシスト	2012年4月	第12290017号	

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) ケアマネジメント用語辞典 [改訂版]	共著	2007年12月	ミネルヴァ書房
(論文) Characteristics for Enhanced Response of Serotonin-Evoked Ion Dynamics in Differentiated NG108-15 Cells	共著	2009年5月	Neurochem. Res., 34(5): 1011-1019 (2009)
(論文) Changes in Characteristics of the Specific Binding of [³ H]LY-278584, a 5-HT ₃ -Receptor Antagonist, on Differentiated NG108-15 Cells	共著	2010年3月	J. Pharmacol. Sci., 113(3): 281-284 (2010)
(報告) 京都薬科大学における実務実習事前学習の取り組み	共著	2010年	滋賀県病院薬剤師会誌, 32(1): 2-6 (2010)
(解説) バイタルサインのABC	単著	2011年3月	奈良県病院薬剤師会会誌, 39(3): 29-36 (2011)

III 学会等および社会における主な活動

2006年4月～2008年3月	奈良県薬剤師会 実務実習受入委員会 委員
2010年4月～現在	神戸医療福祉専門学校三田校 救急救命士科 非常勤講師 (担当科目: 生化学)
2010年7月～現在	薬学教育協議会近畿地区調整機構 実務実習指導者養成小委員会 委員
2012年10月～現在	地域医療をチームで担う人材育成事業(滋賀県地域医療再生計画に基づく) 運営委員

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	共同利用機器センター
職名	講師	氏名	小川 俊次郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫		2007年度～ 現在に至る 2007年度～ 現在に至る	1年次生科目基礎演習の1グループを担当。 10人程度の小グループであり授業評価はない。興味がある医療や疾病について調べる(自由選択)。個人またはグループ単位で調べ、得た情報や知識を発表し皆で討論する。全員の最終レポートは纏めて冊子にして返却し演習終了後も参考にする。
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・早期体験学習 ・OSCEの評価者 ・病院・薬局実務実習訪問指導		2007年度および 2008年度 2012年度 2009年度～ 2012年度 2010年度および 2012年度 2010年度～ 2012年度	「病院・薬局見学」の引率を担当した。 「プロダクト作成・展示、意見交換会」についてプロダクト作成の支援を担当した。本学のOSCEの評価者を担当した。 他大学(摂南大学)のOSCEの評価者を担当した。 病院及び薬局での実務実習生に対し訪問指導を行なった。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 該当なし			
(著書)			
(論文)			
(論文)			
(論文)			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			
IV 備考 本センターは、各研究室からの依頼により共同利用機器を用いて試料を測定し研究を支援するとともに 機器の管理・運営を行なう組織であり、センターとしての独自の研究活動は行っていない。			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 共同利用機器センター	職名 講師	氏名 織田 佳代子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		該当なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年～ 2009年～ 2007年～2009年 2012年～	実務実習（薬局訪問、実習記録の確認・指導） OSCE評価者（学内：毎年、学外：隔年） 早期体験学習（薬局・病院見学引率等） 早期体験学習（企業等見学のプロダクト作成指導）	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			
IV 備考 1974年～1992年まで薬品分析学Ⅰ教室（現在の代謝分析学分野）で研究・教育に従事していたが、1993年に現在の共同利用機器センターに移り、学内からの依頼による質量分析測定を行って研究支援をしており、データ解析の指導、原理・装置の説明等の教育活動も行っている。 (共同利用機器センターでは研究活動を行わないので、最近6年間の研究業績はなし。)			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 講師	氏名 河野修治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
・ 担当科目	2010年度～ 2010年度～ 2011年度～ 2011年度～ 現在に至る	病院・薬局実務実習直前講義（5年次通年） 実務実習事前学習（4年次後期） （担当：散剤） 基礎演習（1年次通年） 病院薬学A（4年次前期）	
・ 担当科目における授業評価について	2011年度 2012年度	科目：病院薬学A 授業評価 /10点（学内平均 7.5点） 科目：病院薬学A 授業評価 /10点（学年平均 7.6点）	
・ 授業方法の工夫	2011年度～ 現在に至る	・ 臨床現場での経験を交えて講義中に話し、興味を持てるように心がけている。 ・ 薬剤師国家試験を意識した授業を心がけている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年度～ 2010年度～ 2011年度～	「病院・薬局実務実習直前講義」の教材作成 実務実習事前実習の担当項目（散剤）の教材作成 「基礎演習」（1年次SGD教育）の教材作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年3月	日本薬学会第132年会（ポスター発表） 演題名：「京都薬科大学におけるふるさと実習への取り組み」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年8月	第62回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（事務局スタッフとして参加）	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（報告）京都薬科大学における実務実習事前学習の 取り組み	共著	2010年	滋賀県病院薬剤師会誌、 32(1)：2-6 (2010)
III 学会等および社会における主な活動			
2011年4月～現在	国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 治験審査委員会 外部委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
京都薬科大学	薬品製造学分野	講師	小島直人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について		2012年4月～ 現在に至る 2008年4月～ 20011年3月 2006年4月～ 20011年3月	3年次科目分子薬品化学A、3年次科目有機化学・天然医薬品学実習、6年次科目先端有機化学概論を担当 以下は前任地にて担当 3年次科目精密合成化学を担当 2年次科目実践化学I、2年次科目実践化学II、3年次科目基礎実習(有機化学)を担当
2 作成した教科書、教材、参考書			該当事項はありません。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当事項はありません。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当事項はありません。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Structure-activity relationships of hybrid annonaceous acetogenins: Powerful growth inhibitory effects of their connecting groups between heterocycle and hydrophobic carbon chain bearing THF ring on human cancer cell lines	共著	2013年5月	European Journal of Medicinal Chemistry, 63, 833-839.
(論文) Critical role of a methyl group on the γ -lactone ring of annonaceous acetogenins in the potent inhibition of mitochondrial complex I	共著	2013年3月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 23, 1217-1219.
(論文) Asymmetric alkynylation of aldehydes with propiolates without high reagent loading and any additives	共著	2011年6月	Organic & Biomolecular Chemistry, 9, 4425-4428.
(論文) Medicinal chemistry of Annonaceous acetogenins: design, synthesis, and biological evaluation of novel analogues	共著	2009年9月	Molecules, 14, 3621-3661.
(論文) Synthesis of hybrid acetogenins, α , β -unsaturated- γ -lactone-free nitrogen-containing heterocyclic analogues, and their cytotoxicity against human cancer cell lines	共著	2008年3月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 18, 1637-1641.
III 学会等および社会における主な活動			
平成25年2月～平成27年1月	日本薬学会 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
京都薬科大学	講座名 一般教育分野	講師	氏名 坂本尚志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			特になし
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
大学コンソーシアム京都第18回FDフォーラムワーキンググループ委員		平成24年10月～平成25年3月	分科会「ティーチング・ポートフォリオの組織的導入と活用」コーディネーター
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)《La logique du «reste» chez Michel Foucault : La question de l'histoire et de la littérature》	単著	平成24年8月	フランス語フランス文学研究、101号
(論文)「バカロレア哲学試験は何を評価しているか?—受験対策参考書からの考察—」	単著	平成24年12月	京都大学高等教育研究、18号
(著書)「資料1 京都大学文学部・文学研究科学修の仕組み」	共著	平成25年3月	『未来の大学教員を育てる 京大文学部・プレFDの挑戦』田口真奈、出口康夫、京都大学高等教育研究開発推進センター編、勁草書房
(著書)「巻末資料1 「論文の書き方」本から見るライティング指導の位置」	共著	平成25年3月	『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』関西地区FD連絡協議会、京都大学高等教育研究開発推進センター編、ミネルヴァ書房
(論文)「「他者の統治」から「自己の統治」へ—1980年代初頭におけるミシェル・フーコーの思想の変容」	単著	平成25年3月	関西フランス語フランス文学、19号
III 学会等および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	学生実習支援センター
職名	講師	氏名	竹島繁雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2007年4月～ 2009年6月 2010年4月～ 現在に至る	1年次科目 早期体験学習 ハンディキャップ体験において、車いすを用いるときの不便さを体験させた 2年次科目：分析化学実習、生化学実習、物理化学実習、機器分析学実習、部生物学実習 3年次科目：有機化学実習、天然医薬品化学実習 食品衛生化学実習、環境衛生学実習、薬理学実習 薬剤学実習、薬物動態学実習を担当し、分野教員と連携し、実習の充実化を図った。
		2007年4月～ 2010年3月	1年次科目 基礎演習において、身の回りにおける物理、化学的現象がいかに薬学において応用されているかを調べ、議論した
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年9月8日	6年生薬学教育における実験実習支援センターの機能と役割、日本科学教育学会第37回年会発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年12月 2012年12月 2009年～	同志社女子大学薬学部 共用試験 OSCE 評価者 立命館大学薬学部 共用試験 OSCE 評価者 京都薬科大学 共用試験 OSCE 評価者
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) くすりの話		資料(写真)提供	発行所、発表雑誌(巻・号 数)等の名称
			2011年3月 大阪大学出版会
III 学会等および社会における主な活動			
2007年10月～2010年3月	明治国際医療大学	非常任講師	担当科目「化学」 1年次後期
2008年4月、2009年4月	明治国際医療大学	非常任講師	新入生のための導入講義「化学」

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬学分野	職名	講師	氏名	辻本 雅之
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
・ 担当科目について			2009年4月～	4 年次科目	調剤学を担当		
			2009年4月～	4 年次科目	テーラーメイド薬物治療学を担当		
			2011年4月～	1 年次科目	基礎演習を担当		
			2011年6月～	6 年次科目	先端臨床薬学概論を担当		
			現在に至る				
・ 担当科目における授業評価について (調剤学)			2009年度	授業評価 /10点	学年平均	7.2点	
			2010年度	授業評価 /10点	学年平均	7.3点	
			2011年度	授業評価 /10点	学年平均	7.5点	
			2012年度	授業評価 /10点	学年平均	7.6点	
・ 担当科目における授業評価について (テーラーメイド薬物治療学)			2009年度	授業評価 /10点	学年平均	7.4点	
			2010年度	授業評価 /10点	学年平均	7.2点	
			2011年度	授業評価 /10点	学年平均	7.6点	
			2012年度	授業評価 /10点	学年平均	7.5点	
・ 担当科目における授業評価について (先端臨床薬学概論)			2011年度	授業評価 /10点	学年平均	8.1点	
			2012年度	授業評価 /10点	学年平均	8.0点	
・ 授業方法の工夫 (まとめプリントの配布)			2009年度～	授業内容の復習を容易に出来るようにまとめプリントを配布した。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
・ 教材、まとめプリント				調剤学、テーラーメイド薬物治療学、先端臨床薬学概論の全てにおいて、毎年、冊子を改訂している。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)							
・ 第7回薬剤師のためのワークショップ in 近畿				2007年5月 大阪にて			

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）CKDの治療と薬 Q&A	共著	平成22年10月	じほう
（著書）腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト	共著	平成25年5月	じほう
（論文）Influence of Serum in Hemodialysis Patients on the Expression of Intestinal and Hepatic Transporters for the Excretion of Pravastatin.	共著	平成24年12月	Ther. Apher. Dial., 16, 580-587
（論文）Inhibitory effects of ureamic toxins 3-indoxyl sulfate and p-cresol on losartan metabolism.	共著	平成22年1月	J. Pharm. Pharmacol., 62, 133-138.
（論文）The structure-activity correlation on the inhibitory effects of flavonoids on cytochrome P450 3A activity.	共著	平成21年4月	Biol Pharm Bull, 32, 671-676.
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年1月～	関西腎と薬剤研究会 評議員		
平成23年1月～	関西POS薬剤研究会 理事		
平成23年4月～平成26年3月	日本薬学会ファルマシア トピックス専門小委員		
平成24年1月～	日本腎臓病薬物療法学会 評議員		
平成24年1月～	日本腎臓病薬物療法学会 編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2008年9月	京都薬科大学卒後教育講座（京都）	
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・体験実習の講師 ・日本医療薬学会がん指導薬剤師 ・日本病院薬剤師会がん専門薬剤師 ・日本医療薬学会指導薬剤師 ・日本病院薬剤師会指導薬剤師 ・日本医療薬学会認定薬剤師	2010年～ 2010年1月 2006年4月 2013年1月 2010年4月 2013年1月	京都市立洛北中学校（洛北サイエンス） 第10-0079号 第06-10号 第13-03-0096号 2010年4月（第081-0726号） 2013年1月（第13-03-0165号）	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）シナリオ症例解析—医療現場で今—	共著	2009年9月	京都廣川書店
（論文）Need for pharmaceutical care during chemotherapy for prevention of side effects: examples of blood sugar monitoring in dexamethasone treatment	共著	2012年1月	Palliative Care Res. 7(1): 101-111 (2012)
（論文）ペメトレキセド投与時の皮疹発現リスク軽減要因の検討	共著	2012年7月	日本病院薬剤師会雑誌, 48, 845-848 (2012)
（論文）QRコードを利用したがん化学療法おける情報伝達手法の構築	共著	2012年7月	医療薬学, 38, 435-440 (2012)
（論文）蛍光測定を利用した新しい手指衛生手技評価法	共著	2013年4月	医療薬学, 39, 251-256 (2013)
III 学会等および社会における主な活動			
2011年4月～	一般社団法人日本医療薬学会 代議員		
IV 備考			
・医療従事者を対象とする教育活動			
大阪赤十字病院：がん専門薬剤師養成研修事業における研修生への講義研修講師および実務指導（2006年度～）			
第6回 京都薬科大学—京都府病院薬剤師会連携ワークショップ「注射剤の基本と実践」の講師（2009.2.8）			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 動物研究センター	職名 講師	氏名 西川 哲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012. 3. 31.	実験動物の安全な取扱い方法についてのマニュアル (CD) を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 実験動物の技術と応用―入門編 実験動物の技術と応用―実践編		2004. 5. 20. 2004. 6. 17.	実験動物学の学生、実験動物技術士試験受験用のテキスト (共著)。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
放射線医学総合研究所の分子イメージング研究 における動物実験の役割	共著	2010	実験動物技術 45, 1, 21-31.
マイクロサテライトマーカーを用いたマウスの 遺伝学的モニタリングの試み ～アウトブリードマウス系統の場合～	共著	2011	実験動物技術 46, 2, 61-66.
Current status of memorial service for laboratory animals in JAPAN :A questionnaire survey	共著	2012	Experimental Animals. 61, 2, 177-181.
A novel Kit gene mutation in CF1 mice involved in the extracellular domain of the KIT protein.	共著	2012	Experimental Animals. 61, 4, 435-444.
Functional analysis of lysosomes during mouse preimplantation embryo development	共著	2013	Journal of Reproduction and development. 59, 1, 33-39.
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年5月～平成24年5月	日本実験動物学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	健康科学分野
職名	講師	氏名	沼尾 成晴
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について 健康科学		2012年4月～ 現在に至る 2013年4月～ 現在に至る 2012年度	1年次科目 健康科学・早期体験学習を担当 1年次科目 基礎演習を担当 授業評価 /10点 学内平均 7.8点
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
健康づくり・介護予防のための体力測定法 第2版		共著	2013年2月
Effects of one night deprivation on maximal fat oxidation during graded exercise		共著	2013年4月
Short-term low carbohydrate/high fat diet intake increases postprandial blood glucose and glucagon-like peptide 1 levels during an oral glucose tolerance test in healthy men		共著	2013年6月
Effects of exercise training on circulating retinol-binding protein 4 and cardiovascular diseases risk factors in obese men		共著	2013年12月
Effects of sleep deprivation on autonomic and endocrine functions throughout the day and on exercise tolerance in the evening		共著	2013年3月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
金芳堂			
Journal of Physical Fitness and Sports Medicine vol.2 No.1			
European Journal of Clinical Nutrition vol.66 No.8			
Obesity Facts vol.5 No.6			
Journal of Sports Sciences vol.31 No.3			
III 学会等および社会における主な活動			
2011年9月～現在に至る		日本体力医学会評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品物理化学分野	職名 講師	氏名 濱 進
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・担当科目について		2008年度～ 現在に至る	2 年次科目 物理化学実習を担当
		2010年度～ 現在に至る	2 年次科目 物理化学Aを担当
		2010年度～ 2011年度	2 年次科目 物理化学Bを担当
		2010年度～ 現在に至る	大学院科目 生物物理化学特論を担当
		2011年度～ 現在に至る	6 年次生科目 先端生命分子機構学概論を担当
		2012年度～ 現在に至る	1 年次科目 物理化学Aを担当
		2013年度	1 年次科目 基礎化学を担当
		2013年度	3 年次生科目 物理化学Cを担当
・担当科目における授業評価について		2010年度前期	物理化学A /10点 学内平均7.4点
		2010年度後期	物理化学B /10点 学内平均7.5点
		2011年度前期	物理化学A /10点 学内平均7.7点
			先端生命分子機構学概論 /10点 学内平均7.7点
		2011年度後期	物理化学B /10点 学内平均7.7点
		2012年度前期	物理化学A(1年次) /10点 学内平均7.8点
			物理化学A(2年次) /10点 学内平均7.8点
			先端生命分子機構学概論 /10点 学内平均7.8点
・授業方法の工夫		2010年度～ 現在に至る	授業に関連するエピソードを紹介することにより 授業内容に興味を持ってもらえるようにする。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Scavenging of Hydroxyl Radicals in Aqueous Solution by Astaxanthin Encapsulated in Liposomes.		共著	2012年12月
(論文) Prevention of tumor growth by needle-free jet injection of anti-C7orf24 siRNA.		共著	2012年8月
(論文) Development of a novel drug delivery system consisting of an antitumor agent tocopheryl succinate.		共著	2012年8月
(論文) Protective effects of topical application of a poorly soluble antioxidant astaxanthin liposomal formulation on ultraviolet-induced skin damage.		共著	2012年8月
(著書) ビタミンEコハク酸(α-トコフェロールコハク酸)		共著	2010年11月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
			Biol Pharm Bull.Vol.35,No.12
			Cancer Gene Ther.Vol.19, No.8
			J Control Release.Vol.161, No.3
			J Pharm Sci.Vol.101,No.8
			ビタミン総合事典、朝倉書店
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年5月		日本薬剤学会第25 年会運営委員	
平成23年6月		日本ビタミン学会 第63回大会 組織運営委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究	職名：講師	氏名 本橋 秀之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 病院薬学 (授業評価等を含む) 事前実習		2012年	・注射薬・輸液・腎臓病などについて講義 ・注射薬無菌調整について実物を用いて実習指導
2 作成した教科書、教材、参考書 病院薬学授業スライド 病院薬学配付資料		2012年 2012年	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(総説) Multidrug and toxin extrusion family SLC47: physiological, pharmacokinetic and toxicokinetic importance of MATE1 and MATE2-K.	共著	2013年4月	Mol Aspects Med. 34(2-3)
(総説) Organic cation transporter OCTs (SLC22) and MATEs (SLC47) in the human kidney.	共著	2013年4月	AAPS J. 15(2)
(論文) Precise comparison of protein localization among OCT, OAT, and MATE in human kidney.	共著	2013年4月	J Pharm Sci. in press
(論文) Developmental expression of renal organic anion transporters in rat kidney and its effect on renal secretion of phenolsulfonphthalein.	共著	2012年6月	Am J Physiol Renal Physiol. 302(12)
(論文) Effects of metabolic acidosis on expression levels of renal drug transporters.	共著	2011年5月	Pharm Res. 28(5)
III 学会等および社会における主な活動			
平成16年4月～平成20年3月	京都大学薬学研究科非常勤講師		
平成18年1月～現在	日本医療薬学会認定薬剤師		
平成20年1月～現在	日本医療薬学会指導薬剤師		
平成25年1月～現在	日本薬物動態学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 講師	氏名 若槻 徹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2007年4月～ 2010年3月 2010年4月～ 2013年 2012年～ 2013年	1年次科目：生物学補講、基礎演習遺伝と医療、早期体験学習ハンディキャップ体験 2年次科目：分析化学実習、生化学実習、微生物学実習、物理化学実習、機器分析学実習における学生実習の準備と実施の支援および機器器具の管理 3年次科目：有機化学・天然医薬品学実習、食品・環境衛生学実習、薬理学実習、薬剤学・薬物動態学実習における学生実習の準備と実施の支援、身体障害者の個別実習支援および機器器具の管理 1年次科目：基礎科学実習の内容提案および準備と実施の支援
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年	実習書作成協力（基礎科学実習等）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年9月	日本科学教育学会第37回年会 (6年制薬学教育における実験実習支援センターの機能と役割、京都薬科大学学生実習支援センター)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2009年～ 2007年～ 2007年～	薬学共用試験OSCE評価者等 (京都薬科大学、摂南大学薬学部) 病院保険薬局実務実習における施設訪問 学生相談員（1～2年次学生学習生活指導）
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
2003年～20013年		京都府薬剤師会情報出版委員会委員	
		(会報誌「京都薬報」校正、生涯学習ホームページ・編集後記作成等)	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬物治療学分野
職名	助教	氏名	天ヶ瀬紀久子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・担当科目		2010年4月～現在	3年次科目 薬物治療学Aを担当
		2010年4月～現在	4年次科目 薬物治療学Eを担当
		2013年4月～現在	6年次科目 病態薬科学概論
		2007年4月～現在	3年次科目 薬理学実習を担当
		2009年4月～2011年3月	1年次科目 早期体験実習救命応急手当指導を担当
		2012年4月～現在	1年次科目 早期体験実習企業見学を担当
・担当科目における授業評価について		2010年度	授業評価 /10点 学内平均7.5点 薬物治療学A
		2010年度	授業評価 /10点 学内平均7.5点 薬物治療学E
		2011年度	授業評価 /10点 学内平均7.7点 薬物治療学A
		2011年度	授業評価 /10点 学内平均7.7点 薬物治療学E
		2012年度	授業評価 /10点 学内平均7.7点 薬物治療学E
2 作成した教科書、教材、参考書			
“薬局”増刊号、病気と薬パーフェクトBOOK 2008 共著		2008.3	消化器疾患作用薬、食道炎・胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍。横田千津子、池田宇一、大越教夫監修・編集，pp. 314-316, 326-329, 南山堂
“薬局”増刊号、病気と薬パーフェクトBOOK 2009 共著		2009.3	消化器疾患作用薬、食道炎・胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍。横田千津子、池田宇一、大越教夫監修・編集，pp. 315-318, 326-329, 南山堂
“薬局”増刊号、病気と薬パーフェクトBOOK 2010 共著		2010.3	消化器疾患、食道炎・胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍。横田千津子、池田宇一、大越教夫監修・編集，pp. 396-398, 407-410, 南山堂
最新基礎薬理学 第3版		2011.9	第9章 消化器系に作用する薬物。竹内孝治、岡 淳一郎 編集，高木敬次郎、亀山 勉、岡部 進 監修，pp. 257-286, 廣川書店
“薬局”増刊号、病気と薬パーフェクトBOOK 2011 共著		2011.3	消化器疾患、食道炎・胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍。横田千津子、池田宇一、大越教夫監修・編集，pp. 408-415, 425-427, 南山堂
“薬局”増刊号、病気と薬パーフェクトBOOK 2012 共著		2012.3	消化器疾患、食道炎・胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍。横田千津子、池田宇一、大越教夫監修・編集，pp. 364-372, 379-381, 南山堂
薬学用語辞典 共著		2012.3	消化器系および炎症関連用語。日本薬学会 編集，東京化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし

II 研究活動			
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・ 号数）等の名称
Impairment of gastric ulcer healing by alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, in rats.	共著	2007.8	Digestive Diseases and Sciences 52, 1879-1889
Protective effect of lafutidine, a histamine H2 receptor antagonist, against loxoprofen-induced small intestinal lesions in rats.	共著	2010.5	Journal of Gastroenterology and Hepatology 25, S111-S118
Gastric ulcerogenic and healing impairment effects of risedronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, in rats: Comparison with alendronate and minodronate	共著	2011.12	Journal of Physiology and Pharmacology 62, 609-618
New therapeutic strategy for amino acid medicine: Prophylactic and healing promoting effect of monosodium glutamate against NSAID-induced enteropathy.	共著	2012.2	Journal of Pharmacological Sciences 118, 131-137
Prophylactic effect of egualen Na, a stable azulene derivative, on gastrointestinal damage induced by ischemia/reperfusion, double antiplatelet therapy and loxoprofen in rats.	共著	2013.2	Journal of Physiology and Pharmacology 64, 65-75
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年4月～現在	日本潰瘍学会会員評議員		
平成21年3月～現在	日本消化管学会代議員		
平成21年4月～現在	日本薬理学会会員評議員		
平成21年6月～現在	日本薬学会薬理系薬学部会若手世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床腫瘍学分野	職名	氏名 飯居 宏美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年度～ 2011年度 2012年度	関連する話題や動画を講義内容に取り込む ヒトの成り立ち(1年次科目) 授業評価 学内平均 7.7点 解剖学(1年次科目) 授業評価 学内平均 7.7点	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年度 2011年度	FDセミナーに参加 (開催場所: 大谷大学) 薬学教育協議会認定 認定実務実習指導薬剤師養成 ワークショップ終了	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Inhibition of cytosolic phospholipase A2 suppresses production of cholesteryl ester through the reesterification of free cholesterol but not formation of foam cells in oxidized LDL-stimulated macrophages	共著	平成20年 1月	Biol. Pharm. Bull., vol. 31
(論文) Improved method for the quantification of lysophospholipids including enol ether species by liquid chromatography-tandem mass spectrometry	共著	平成22年 2月	J. Lipid Res., vol. 51
(論文) Group X secreted phospholipase A2 proenzyme is matured by a furin-like proprotein convertase and releases arachidonic acid inside of human HEK293 cells.	共著	平成23年 10月	J Biol Chem., vol. 286
(論文) Total synthesis and biological evaluation of (-)-apicularen a and its analogues.	共著	平成24年 1月	J Org Chem., vol. 77
(論文) 尿中ウロプラキンをmRNA測定による低侵襲な先天性膀胱尿管逆流症検査法の開発	共著	平成24年 12月	腎臓, vol. 35
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	京都薬科大学	講座名	薬品製造学分野	職名	助教	氏名	岩崎 宏樹
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
・担当科目について		2010年4月～ 2011年4月～	三年次科目有機化学・天然医薬品学実習を担当 一年次科目有機化学Bを担当 三年次科目分子薬品化学Aを担当 三年次科目有機化学・天然医薬品学実習を担当				
		2012年4月～	三年次科目分子薬品化学Aを担当 三年次科目有機化学・天然医薬品学実習を担当 六次次科目先端有機化学概論を担当				
		2013年4月～	二年次科目有機化学実習を担当 三年次科目分子薬品化学Aを担当 三年次科目有機化学・天然医薬品学実習を担当 大学院科目薬品製造学特論を担当				
・授業方法の工夫		2012年度～	授業資料の配布、国家試験またはCBT試験問題対策				
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし							
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 該当なし							

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Samarium(II)-Mediated Spirocyclization by Intramolecular Aryl Radical Addition onto an Aromatic Ring	共著	2008年	Journal of Organic Chemistry vol. 73, 7145-7152.
（論文）A novel samarium(II)-mediated tandem spirocyclization onto an aromatic ring	共著	2011年	Tetrahedron Letters vol. 52. 1770-1772
（論文）First Total Synthesis of (±)-Adunctin B	共著	2011年	Tetrahedron Letters vol. 52. 7046-7048
（論文）Novel Skeleton Transformation Reaction of α -Pyrone Derivatives to Spirobicyclo[3.1.0]hexane Derivatives Using Dimethylsulfoxonium Methylide	共著	2012年	Organic Letters vol. 14. 6048-6051.
（論文）Powerful growth inhibitory effects of their connecting groups between heterocycle and hydrophobic carbon chain bearing THF ring on human cancer cell lines	共著	2013年	European Journal of Medicinal Chemistry vol. 63. 833-839.
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 助教	氏名 小関 稔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫	2007年10月～ 2010年3月 2010年4月～ 現在 2007年10月～ 現在	2年次科目(後期) 有機化学D 2年次科目(後期) 専門基礎演習D 3年次科目(前期) 有機化学・天然医薬品学実習 2年次科目 分析化学実習、物理化学実習 機器分析学実習 3年次科目 有機化学・天然医薬品学実習 記録なし 講義：あらかじめ板書用のノートを作成し、学生が後で見て分かり易いノートの作成に努めた。 実習：運営がスムーズに行えるよう、マニュアル等の充実を図った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2007年10月～ 現 在 2011年10月 2012年9月	1年次科目 早期体験学習(病院・薬局見学、救命応急手当) OSCE ステーションサポートスタッフ 山科区の小学生を対象にした理科教室の開催に協力 山科“きずな”支援事業で山科区の小学生を対象とした理科教室を企画・広報課と協力して主催	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
One-pot construction of multiple contiguous chiral centers using Michael addition of chiral amine.	共著	2010年	<i>J. Org. Chem.</i> , 2010 , 75, 4201-4211.
Efficient asymmetric synthesis of abeo-abietane-type diterpenoids by using the intramolecular Heck reaction.	共著	2010年	<i>J. Org. Chem.</i> , 2010 , 75, 190-196.
First asymmetric total synthesis of (+)-taiwaniaquinol D and	共著	2013年	<i>Tetrahedron</i> , 2013 , 69, 3841-3846.
III 学会等および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名:京都薬科大学	講座名 細胞生物学	職名:助教	氏名:賀川 裕貴
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			該当なし 新規採用により、該当する教育活動なし
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし 新規採用により、該当する教育活動なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし 新規採用により、該当する教育活動なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし 新規採用により、該当する教育活動なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A novel signaling pathway mediated by the nuclear targeting of C-terminal fragments of mammalian Patched 1.	単著	平成23年4月	PLoS One. 13:6(4):e18638.
(論文) BAG-6 is essential for selective elimination of defective proteasomal substrates.	共著	平成22年8月	J Cell Biol. 23:190(4):637-50.
(論文) The effects of heat shock protein 90 inhibitors on apoptosis and viral replication in primary effusion lymphoma cells.	単著	平成22年2月	Biol Pharm Bull. :35(5):725-30.
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬剤学分野	職名 助教	氏名 勝見英正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫	2012年4月～ 現在に至る 2006年9月～ 現在に至る 2012年度 2012年度～ 現在に至る 2013年度～ 現在に至る	4年次科目薬剤学Bを一部担当 4年次科目薬剤学実習を担当 薬剤学B 授業評価 /10点 学年平均7.6点 薬剤学Bにおいて、わかりやすい資料を 独自に作成した。 薬剤学実習に製剤学の内容を新たに導入した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2006年度～ 現在に至る	薬剤学実習書 毎年作成している。平成25年度から製剤学の内容を 新たに導入し実習書を全面的に改訂した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Development of a novel self-dissolving microneedle array of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate: evaluation of transdermal absorption, safety, and pharmacological effects after application in rats.	共著	2012年9月	Journal of Pharmaceutical Sciences vol.101 No.9
(論文) Development of polyethylene glycol-conjugated alendronate, a novel nitrogen-containing bisphosphonate derivative: evaluation of absorption, safety, and effects after intrapulmonary administration in rats.	共著	2011年9月	Journal of Pharmaceutical Sciences vol.100 No.9
(論文) Absorption and safety of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, after intrapulmonary administration in rats.	共著	2010年11月	International Journal of Pharmaceutics vol.400 No.1-2
(論文) Development of a novel transdermal patch of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, for the treatment of osteoporosis.	共著	2010年12月	Journal of Bone Mineral Research vol.25 No.12
(論文) Prevention of ischemia/reperfusion injury by hepatic targeting of nitric oxide in mice.	共著	2009年11月	Journal of Controlled Release vol.140 No.1
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	日本薬剤学会 英語セミナー西地区委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・FD研修会 ・応急手当普及員講習会 ・認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	2006年から 現在に至る 2007年9月 2010年4月	毎年2回本学におけるFD研修会を受講し、教育に対する技能向上に努めた。 1年次科目『早期体験実習』における救命応急手当てを教えるために普及員の資格を得た。 第53回薬剤師のためのワークショップin近畿に参加し、実務実習における教育方法を学んだ。	
II 研究活動				
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
	(論文) An efficient synthesis of 2- and 2,6-substituted piperidines using PdII-Catalyzed 1,3-chirality transfer reaction	共著	2008年11月	<i>J. Org. Chem.</i> , 2009 , <i>74</i> , 244-253.
	(論文) Lewis acid-catalyzed intramolecular amination via 1,3-chirality transfer	共著	2009年11月	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 2009 , <i>50</i> , 6580-6583.
	(論文) Synthesis of chiral 1-substituted tetrahydroiso-quinolines by the intramolecular 1,3-chirality transfer reaction catalyzed by Bi(OTf) ₃	共著	2011年2月	<i>J. Org. Chem.</i> , 2011 , <i>76</i> , 2102-2114.
	(論文) Pd(II)-catalyzed cascade reaction with 1,3-chirality transfer; stereoselective synthesis of chiral nonracemic 2,2'-THF-THF ring units	共著	2011年4月	<i>Org. Lett.</i> , 2011 , <i>13</i> , 2350-2353.
	(論文) Stereoselective synthesis of tetrahydroiso-quinoline alkaloids: (-)-trolline, (+)-crispin A, (+)-oleracein E	共著	2011年11月	<i>Tetrahedron</i> , 2011 , <i>67</i> , 8648-8653.
III 学会等および社会における主な活動				
	該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 京都薬科大学	講座名	薬剤学分野	職名 助教	氏名 草森 浩輔
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし	
2 作成した教科書、教材、参考書			なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし	
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Development of a novel transdermal patch of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, for the treatment of osteoporosis.		共著	2010	Journal of Bone and Mineral Research 25
Absorption and safety of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, after intrapulmonary administration in rats.		共著	2012	International Journal of Pharmaceutics 400
Development of a novel self-dissolving microneedle array of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate: Evaluation of transdermal absorption, safety, and pharmacological effects after application in rats.		共著	2012	Journal of Pharmaceutical Sciences 101
Poly (N-isopropylacrylamide) coated microwell arrays for construction and recovery of multicellular spheroids.		共著	2013	Journal of Bioscience and Bioengineering 115
Pivotal role of oxidative stress in tumor metastasis under diabetic conditions in mice.		共著	2013	Journal of controlled release <i>in press</i>
III 学会等および社会における主な活動				
平成25年5月現在		日本薬剤学会		
平成25年5月現在		日本DDS学会		
平成25年5月現在		日本薬学会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	学生実習支援センター
		職名	助教
		氏名	河野享子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2007年4月～ 2010年6月	1年次科目 早期体験学習 救命応急手当 1グループ約10名の学生を2～3グループ担当し心肺蘇生法を普及した。
・担当科目について		2008年4月1日～ 現在に至る	2年～3年次生の薬学実習9科目を、分野と協力して実施する学生実習支援センターの発足メンバーとなった。
・実習方法の工夫		2012年9月19日～ 現在に至る	2年次科目:分析化学実習、生化学実習、物理化学実習、機器分析学実習、微生物学実習、 3年次科目:有機化学・天然医薬品学実習、食品・環境衛生学実習、薬理学実習、薬剤学・薬物動態学実習 1年次科目:基礎科学実習 担当分野教員との連携をはかり安全に配慮した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年3月25日	薬学英语2 薬学教育モデル・コアカリに準拠
		2012年2月10日	改訂版 薬学英语1 同上
		2013年2月10日	改訂版 薬学英语2 同上
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2010年11月5日	薬学の実験実習教育を考える、第9回文化講演会、京都薬科大学 京薬論集刊行会主催
		2013年9月8日	6年制薬学教育における実験実習支援センターの機能と役割、日本科学教育学会第37回年会 発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2008年8月22日 (FD)	大学教育改善にとつてのセンター組織－教育力バ ナンスの視点から－ 京都大学高等教育開発推進 センター第78回公開研究会
		2011年10月30日	山科区の小学生を対象に理科教室開催に協力
		2012年9月2日	山科”きずな”支援事業で山科区の小学生に理 科教室を企画・広報課と協力して主催
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Tubulin photoaffinity labeling with biotin-tagged derivatives of diketopiperazine antimicrotubule agents		共著	2008年9月
(著書) 薬学英语2		共著	2009年3月
(特許) Novel Shuttle Vector		共著	2009年6月
(著書) 改訂版 薬学英语1		共著	2012年2月
(著書) 改訂版 薬学英语2		共著	2013年2月
III 学会等および社会における主な活動			
2003年4月1日～2008年3月31日	大阪電気通信大学 非常勤講師 担当科目「生物学」「生理学」		
2006年5月28日～現在に至る	応急手当普及員		
IV 備考: 1989年1月京都薬科大学・生命薬学研究所・遺伝子工学研究部門・助手着任、2006年4月同大学、遺伝子工学 分野・助教、2008年3月遺伝子工学分野廃止、2008年4月新設された学生実習支援センター・助教に配置転換			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品化学分野	職名 助教	氏名 小林 数也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年4月～	2年次科目 有機化学実習を担当
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Amino Acid-Based Synthesis of Trifluoromethylalkene Dipeptide Isosteres by Alcohol-Assisted Nucleophilic Trifluoromethylation and Organozinc-Copper-Mediated S_N2' Alkylation.	共著	平成21年 5月	Journal of Organic Chemistry Vol.74
(論文) Peptide Bond Mimicry by (<i>E</i>)-Alkene and (<i>Z</i>)-Fluoroalkene Peptide Isosteres: Synthesis and Bioevaluation of α -Helical anti-HIV Peptide Analogues.	共著	平成21年 6月	Organic & Biomolecular Chemistry Vol.7
(論文) Molecular Modeling Study of Cyclic Pentapeptide CXCR4 Antagonists: New Insight into CXCR4-FC131 Interactions.	共著	平成24年 2月	Biorganic & Medicinal Chemistry Letters Vol.22
(論文) Synthesis and Application of an N^δ -Acetyl- N^δ -hydroxyornithine Analog: Identification of Novel Metal Complexes of Deferriferriochrysin.	共著	同 年 2月	Biorganic & Medicinal Chemistry Vol.20
(論文) Structure-Activity Relationship Study of a CXC Chemokine Receptor Type 4 Antagonist, FC131, Using a Series of Alkene Dipeptide Isosteres.	共著	同 年 2月	Journal of Medicinal Chemistry Vol.55
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			
IV 備考			
2012年3月に大学院後期博士課程を修了し、2012年10月より現職に着任したため、記載した以外に該当する業績はない			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 生化学分野	職名 助教	氏名 齊藤 洋平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について	2008年度～ 2012年度	2年次科目 生化学A 授業評価 2008年度 /4段階 学内平均3.1点 2009年度 /10点 学内平均7.4点 2010年度 /10点 学内平均7.4点 2011年度 /10点 学内平均7.7点 2012年度 /10点 学内平均7.8点	
	2012年度～現在	3年次科目 生化学C 授業評価 2012年度 /10点 学内平均7.8点	
	2007年度～現在	2年次科目 生化学実習	
・授業方法の工夫	2008年度～現在	パワーポイントを使用し、スライド資料を配布	
	2009年度～現在	板書、OHCの利用	
	2011年度～現在	教科書を中心とした講義	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 第20回薬剤師のためのワークショップin近畿 厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成 のためのワークショップ	2008年9月15日 2008年9月15日	参加。全課程を終了し、修了証を得た。 参加。全課程を終了し、修了証を得た。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Nuclear localization mechanism of Hsp105β and its possible function in mammalian cells	共著	2008年11月	Journal. Biochemistry., vol.145, No.2
Hsp105β upregulates hsp70 gene expression through signal transducer and activator of transcription-3	共著	2009年10月	FEBS Journal, vol.275
Molecular chaperone in cancer	共著	2010年8月	奈良医学雑誌, 61巻
Characterization of stress sensitivity and chaperone activity of Hsp105 in mammalian cells	共著	2011年3月	Biochem. Biophys. Res. Commun. vol.409
Structure and function of HSP105 family proteins	共著	2012年3月	生化学, 83巻, 4号
III 学会等および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 助教	氏名 高尾 郁子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月～ 2011年6月 2011年6月 2012年4月～ 現在に至る	1年次科目 早期体験学習 救命応急手当 1グループ約10名の学生を2～3グループ担当し心肺蘇生法を普及した。 1年次科目 早期体験学習 ハンデキャップ体験 視覚障害体験を通してハンディキャップのある人の置かれている状況や環境、障がいに対する理解を深めた。 学生実習を担当し、担当分野教員との連携を図り安全に配慮した。 ・2年次科目：分析化学実習、生化学実習、物理化学実習、機器分析学実習、微生物学実習 ・3年次科目：有機化学実習、天然医薬品化学実習、食品衛生化学実習、環境衛生学実習、薬理学実習、薬剤学・薬物動態学実習	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年9月8日	6年生薬学教育における実験実習支援センターの機能と役割、日本科学教育学会第37回年会発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2004年4月 ～2012年8月 2007年12月 2006年～2008年 2008年9月 2009年～現在 2010年1月 2011年12月 2010年～現在 2010年11月 2013年9月1日	質量分析測定を通して、卒業論文の作成に協力した。 応急手当普及員 資格取得 OSCE トライアルスタッフ 摂南大学OSCE トライアル 評価者 OSCE スタッフチーフ・評価者 大阪薬科大学OSCE 評価者 摂南大学OSCE 評価者 薬局・病院実務実習 正担当 環境計量士(濃度) 資格取得 山科“きずな”支援事業で山科区の小学生に理科教室を企画・広報課と協力して主催	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Improved synthesis of (±)-Linderol A and its first conversion to (±)-6- <i>epi</i> -Adunctin E	共著	2005年3月	HETEROCYCLES, 65, 5, 1099-1109
III 学会等および社会における主な活動			
2007年12月9日～現在に至る	応急手当普及員		
IV 備考：2004年4月京都薬科大学・共同利用機器センター・助手、2006年4月同大学、共同利用機器センター・助教、2012年4月、学生実習支援センター・助教に配置転換			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生理学分野	職名 助教	氏名 高田 和幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について		2007年4月～現在 2007年4月～2012年3月 2008年4月～2013年3月 2011年4月～現在 2012年4月～2013年3月 2013年4月～現在	3年次科目「薬理学実習」担当 1年次科目「早期体験学習（救命応急手当）」担当 2年次科目「ヒトの機能調節A, B」担当 6年次科目「先端薬理学概論」 1年次科目「早期体験学習（企業見学SGD）」担当 1年次科目「早期体験学習（ハンディキャップ体験）」 2年次科目「生理学B」担当
・担当科目における授業評価について		2009年度 2010年度 2011年度 2012年度	ヒト機能A 授業評価 /10点 ヒト機能B 授業評価 /10点 ヒト機能A 授業評価 /10点 ヒト機能B 授業評価 /10点 ヒト機能A 授業評価 /10点 ヒト機能B 授業評価 /10点 先端薬理学 授業評価 /10点 ヒト機能A 授業評価 /10点 ヒト機能B 授業評価 /10点 先端薬理学 授業評価 /10点
・授業方法の工夫		2012年4月～現在 2010年4月～現在 2011年4月～現在	見やすいスライドを作製した 使用スライドを資料として配布した 資料の一部を記入式とした
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 第18回FDフォーラム 「学生が主体的に学ぶ力を見につけるには」参加		2013年2月23日、24日	「主体的な学びを支える仕組み」と「学生による授業アンケートの現状と課題そして発展へ」を受講
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
DJ-1 protects against neurodegeneration caused by focal cerebral ischemia and reperfusion in rats.		共著	2008年3月
Involvement of WAVE accumulation in Aβ/APP pathology-dependent tangle modification in Alzheimer's disease.		共著	2009年7月
The 6-hydroxydopamine-induced nigrostriatal neurodegeneration produces microglia-like NG2 glial cells in the rat substantia nigra.		共著	2010年7月
Galantamine-induced amyloid-β clearance mediated via stimulation of microglial nicotinic acetylcholine receptors.		共著	2010年11月
Molecular Approaches to the Treatment, Prophylaxis, and Diagnosis of Alzheimer's Disease: Tangle Formation, Amyloid-β, and Microglia in Alzheimer's Disease.		共著	2012年3月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			J. Cereb. Blood Flow Metab., 28, 563-578. Am. J. Pathol., 175, 17-24. Glia, 58, 1686-1700. J. Biol. Chem., 285, 40180-40191. J Pharmacol Sci. 118, 331-337.
III 学会等および社会における主な活動			
2009年4月～現在	日本薬学会 医療薬科学部会 若手世話人		
2010年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2013年4月～現在	日本薬学会 薬理系薬学部会 若手世話人		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬用植物園	職名 助教	氏名 月岡淳子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について		2009年4月～ 現在に至る 2013年4月～ 現在に至る	3年次科目有機化学・天然医薬品学実習 1年次科目 基礎演習 基礎演習ではSGDを取り入れて、自分の意見を 発言し、他人の意見も聞いてまとめる練習の 機会を設けた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
フィールドベスト図鑑vol.16 日本の有毒植物	共著	2012年4月	学研
Secondary Metabolites in the Peel of <i>Citrus tachibana</i> .	共著	2011年8月	生薬学雑誌(第65巻第2号)
III 学会等および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	共同利用機器センター
職名	助教	氏名	寺田 俊二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		特になし
2	作成した教科書、教材、参考書		特になし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学外実務実習、オスキー その他化合物の元素分析による 教育研究に対するサポート
II 研究活動			
	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	
特になし			
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			
IV 備考			
本センターは、各研究室からの依頼により共同利用機器を用いて試料を測定し研究を支援するとともに、			
機器の管理・運営を行なう組織であり、センターとしての独自の研究活動は行なっていない。			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬理学分野
職名	助教	氏名	鳥羽裕恵
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当実習について ・担当早期体験実習について ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫	2007年度～ 現在に至る 2007年度～ 現在に至る 2008年度 2009年度～ 現在に至る 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度	3年次実習 薬理学実習を担当 1年次早期体験学習(救命応急手当)を担当 1年次早期体験学習(病院・薬局見学)を担当 3年次科目免疫学、4年次生科目薬物治療学Cを担当 /10点(免疫学) /10点(薬物治療学C) /10点(免疫学) /10点(薬物治療学C) /10点(免疫学) /10点(薬物治療学C) /10点(免疫学:学年平均7.7) /10点(薬物治療学C:学年平均7.6) 自作を含め動画等で視聴覚に訴える資料を使用し、受講生の理解を深めるよう努めた。講義内容に関連したCBT問題や国家試験問題を配布し、講義の最後に解答させ、その後解説した。
2	作成した教科書、教材、参考書 ・教材ビデオ(Western blotting法) ・教材ビデオ(循環器系に影響を及ぼす薬物) ・「臨床医学の概論ノート 第6・7版 (著:朝山純・中田徹男、京都廣川書店)」内 ・教材ビデオ(臓器観察)	2009年 2009年 2010年4月1日 2013年	「免疫学」の講義用 視聴覚教材を作成 「薬理学実習」のビデオ学習用教材を作成 「7. 抗原抗体反応 免疫反応の利用」 124ページ～134ページを作成 「薬理学実習『臓器観察』」のデモ用教材を作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・第37回薬剤師のためのワークショップin近畿	2009年8月	

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） L/N-type calcium channel blocker cilnidipine ameliorates proteinuria and inhibits the renal renin-angiotensin-aldosterone system in deoxycorticosterone acetate-salt hypertensive rats.	共著	2011年	Hypertens. Res Vol. 34
（論文） Recombinant human erythropoietin ameliorated endothelial dysfunction and macrophage infiltration by increasing nitric oxide in hypertensive 5/6 nephrectomized rat aorta.	共著	2011年	Eur. J. Pharmacol Vol. 656
（論文） Telmisartan inhibits vascular dysfunction and inflammation via activation of peroxisome proliferator-activated receptor- γ in subtotal nephrectomized rat.	共著	2012年	Eur. J. Pharmacol Vol. 685 No. 1-3
（論文） Erythropoietin attenuated vascular dysfunction and inflammation by inhibiting NADPH oxidase-derived superoxide production in nitric oxide synthase-inhibited hypertensive rat aorta.	共著	2012年	Eur. J. Pharmacol Vol. 691 No. 1-3
（論文） Endothelial dysfunction, macrophage infiltration and NADPH oxidase-dependent superoxide production were attenuated by erythropoietin in streptozotocin-induced diabetic rat aorta.	共著	2013年	Pharmacology Vol. 91
III 学会等および社会における主な活動			
特記なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 生薬学	職名 助教	氏名 中村 誠宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫	2008年4月～ 現在に至る 2011年12月～ 現在に至る 2008年度前期 2008年度後期 2009年度前期 2009年度後期 2010年度前期 2010年度後期 2011年度前期 2011年度後期 2012年度前期 2012年度後期	1) 3年次科目天然医薬品学AおよびBの一部を担当 2) 3年次有機化学・天然医薬品学実習を担当 6年次科目薬学特別演習講義の一部を担当 授業評価 /4.0点 学内平均3.1点 授業評価 /4.0点 学内平均3.1点 授業評価 /10.0点 学内平均7.4点 授業評価 /10.0点 学内平均7.5点 授業評価 /10.0点 学内平均7.4点 授業評価 /10.0点 学内平均7.5点 授業評価 /10.0点 学内平均7.7点 授業評価 /10.0点 学内平均7.7点 授業評価 /10.0点 学内平均7.8点 授業評価 /10.0点 学内平均7.7点 知識をただ単に説明するのではなく、医療現場で具体的にどのように役立つのかということにも重点をおき講義を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2009年12月23日 2011年12月24日	薬学共用試験OSCE評価者(同志社女子大学) 薬学共用試験OSCE評価者(大阪薬科大学)	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 薬用食品の開発 II -薬用・有用植物の機能性食品素材への応用- (第7章 パームシュガーのメタボリックシンドローム予防作用)	共著	平成24年4月	吉川雅之、村岡 修 監修、シーエムシー出版, pp. 86-96 (2012)
(論文) Alkaloid constituents from flower buds and leaves of sacred lotus (<i>Nelumbo nucifera</i> , Nymphaeaceae) with melanogenesis inhibitory activity in B16 melanoma cells.	共著	平成25年2月	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> , vol 21, 779-787 (2013).
(論文) Melanogenesis inhibitory and fibroblast proliferation accelerating effects of noroleanane- and oleanane-type triterpene oligoglycosides from the flower buds of <i>Camellia japonica</i> .	共著	平成24年8月	<i>Journal of Natural Products</i> , vol 75, 1425-1430 (2012).
(論文) The absolute stereostructures of cyanogenic glycosides, hydracyanosides A, B, and C, from the leaves and stems of <i>Hydrangea macrophylla</i> .	共著	平成21年8月	<i>Tetrahedron Letters</i> , vol 50, 4639-4642 (2009).
(論文) Steroidal saponins and pseudoalkaloid oligoglycoside from Brazilian natural medicine, "fruta do lobo" (fruit of <i>Solanum lycocarpum</i>).	共著	平成20年5月	<i>Phytochemistry</i> , vol 69, 1565-1572 (2008).
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年4月～現在	日本薬学会会誌「ファルマシア」トピックス専門小委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 衛生化学分野	職名 助教	氏名 西田 健太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について	2009年4月～ 2010年3月 2011年4月～ 現在に至る 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度	1年次科目生物学A、生物学Bを担当 2年次科目栄養と健康を担当 1年次科目生命科学を担当 2年次科目栄養化学を担当 生物学A 授業評価 /10点 回答率76.6% 生物学B 授業評価 /10点 回答率72.2% 栄養と健康 授業評価 /10点 回答率47.3% 生物学A 授業評価 /10点 回答率76.4% 生物学B 授業評価 /10点 回答率75.1% 栄養と健康 授業評価 /10点 回答率49.8% 生物学A 授業評価 /10点 回答率85.1% 生物学B 授業評価 /10点 回答率79.9% 栄養と健康 授業評価 /10点 回答率46.1% 生命科学 授業評価 /10点 回答率85.9% 栄養と健康 授業評価 /10点 回答率53.0%	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Expression of equilibrative nucleoside transporter 1 in rat circumvallate papillae.	共著	2013年1月	Neurosci Lett. 533, 104-108
(論文) Mitochondrial dysfunction is involved in P2X7 receptor-mediated neuronal cell death.	共著	2012年8月	J Neurochem. 122, 1118-1128
(論文) Microglial zinc uptake via zinc transporters induces ATP release and the activation of microglia.	共著	2011年12月	Glia. 59, 1933-1945
(論文) Contribution of P2X7 receptors to adenosine uptake by cultured mouse astrocytes.	共著	2010年11月	Glia. 58, 1757-1765
(論文) Correlation between voriconazole trough plasma concentration and hepatotoxicity in patients with different CYP2C19 genotypes.	共著	2009年7月	Int J Antimicrob Agents. 34, 91-94
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年5月～	日本アプライド・セラピューティクス学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 公衆衛生学	職名 助教	氏名 長谷井友尋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年4月 から平成25年 6月現在まで	2、3及び6年次生の講義を担当し、講義内では教科書、パワーポイント、プリントなどその時々に応じて最もわかりやすい方法で講義している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年4月 から平成25年 6月現在まで	上記講義にて、講義プリントなどの作成している。特に6年次生の先端衛生薬学概論では講義プリントを中心とした講義を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		(平成17年4月 から)平成25年 6月現在まで	早期体験学習のハンディキャップ講習、応急救護を担当している。特にハンディキャップの視覚障害体験は中心的に担当している。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
In vivo Examination of the Genotoxicity of the Urban Air and Surface Soil Pollutant, 3,6-Development of a two-dimensional high-performance liquid chromatography system		共著	in press
Determination of 3,6-Dinitrobenzo[e]pyrene in Tea Leaves as a Possible Exposure Source and Isolation and Identification of a Novel Aromatic Amine Mutagen Produced by the		共著	平成24年7月
Determination of 3,6-dinitrobenzo[e]pyrene in Surface Soil and Airborne Particles, and Its		共著	平成23年11月
		共著	平成21年9月
		共著	平成21年6月
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			Environmental Toxicology
			Journal of Chromatography A, 1253,
			Journal of Health Science, 57, 53-59
			Chem. Res. Toxicol., 22, 1588-1593
			Journal of Health Science, 55, 567-577
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名：薬品化学分野	職名：助教	氏名：服部 恭尚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目	2009年度 2010-2011年度 2011年度 2012年度～ 現在に至る	1年次生後期学生実習を担当 2年次生研究室ゼミを担当 2年次生前期学生実習を担当 3年次生前期学生実習を担当	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		該当なし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Synthesis of Pyranicin and Its Inhibitory Acton with Bovine Heart Mitochondrial Complex I	共著	2008年	Organic Letters Vol. 10
Synthesis of Pyranicin and Its Deoxygenated Analogues and Their Inhibitory Acton with Bovine Heart Mitochondrial Complex I	共著	2008年	Tetrahedron Vol. 64
Asymmetric Syntheses of Daedalin A and Quercinol and Their Tyrosinase Inhibitory Activity	共著	2010年	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters Vol. 20
Synthesis of Procyanidin C2 and C1 Using Lewis Acid Mediated Equimolar Condensation	共著	2012年	HETEROCYCLES Vol. 85
A Practical Synthesis of a Hydroxylated Sesquiterpene coumarin 10'R-Acetoxy-11'-Hydroxyumbelliprenin by Regioselective Dihydroxylation	共著	2013年	HETEROCYCLES Vol. 87
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	京都薬科大学	講座名	微生物・ 感染制御学分野	職名	助教	氏名	林 直樹
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				該当なし		
2	作成した教科書、教材、参考書				該当なし		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				該当なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)				該当なし		
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別		発行または発表の 年月 (西暦でも可)		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Jun Okuda, Naoki Hayashi, Yuka Wakahara, and Naomasa Gotoh: Reduced expression of the <i>vca0421</i> gene of <i>Vibrio cholerae</i> O1 results in innate resistance to ciprofloxacin.		共著		平成23年11月		Antimicrobial agents and chemotherapy. 54:4917-4919.	
(論文) Jun Okuda, Naoki Hayashi, Masashi Okamoto, Shinji Sawada, Shu Minagawa, Yoshitaka Yano, and Naomasa Gotoh: Translocation of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> from the intestinal tract is mediated by the binding of ExoS to an Na,K-ATPase regulator, FXYD3.		共著		同 年11月		Infection and immunity. 78:4511-4522.	
(論文) Jun Okuda, Naoki Hayashi, Soichi Tanabe, Shu Minagawa and Naomasa Gotoh: Degradation of interleukin 8 by the serine protease MucD of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> .		共著		平成24年 5 月		Journal of infection and chemotherapy. 17:782-792.	
(論文) Jun Okuda, Masashi Okamoto, Naoki Hayashi, Shinji Sawada, Shu Minagawa, and Naomasa Gotoh: Complementation of the <i>exoS</i> gene in the <i>pvdE</i> pyoverdine synthesis gene-deficient mutant of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> results in recovery of the <i>pvdE</i> gene-mediated penetration through the intestinal epithelial cell barrier but not the <i>pvdE</i> -mediated virulence in silkworms.		共著		同 年10月		Journal of infection and chemotherapy. 18:332-340.	
(論文) Naoki Hayashi, Mariko Matsukawa, Yuta Horinishi, Katsuya Nakai, Ai Shoji, Yoshiki Yoneko, Naomi Yoshida, Shu Minagawa, and Naomasa Gotoh: Interplay of flagellar motility and mucin degradation stimulates the association of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> with human epithelial colorectal adenocarcinoma (Caco-2) cells.		共著		平成25年 1 月		Journal of infection and chemotherapy. 19:305-315.	
III 学会等および社会における主な活動							
		該当なし					
IV 備考							
新卒採用であり、「I 教育活動等実績」はない。							

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名：薬学教育研究センター	職名：助教	氏名：開 章宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について	2007年4月～現在に至る 2011年4月 2011年12月 2011年4月～現在に至る 2011年9月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2011年度 生物学A 2011年度 生物学B 2012年度 生命科学	1年次科目「早期体験学習（救命応急手当）」を担当 1年次科目「生物学A」及び「生物学補講」を担当 2年次科目「生物学B」を担当 6年次科目「薬学演習」を担当 4年次科目「共用試験演習」、6年次科目「薬学特別演習」を担当 1年次科目「生命科学」及び「生命科学補講」を担当 授業評価 /10点 学内平均7.7点 授業評価 /10点 学内平均7.7点 授業評価 /10点 学内平均7.8点	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年7月31日	第1回FDセミナー参加 「授業技術を考える－多人数授業の工夫－」	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬理学分野
職名	助教	氏名	藤井正徳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について		2008年度前期 2008年度後期 2008年度後期～ 2011年度前期～ 薬理学B 2008年度 薬理学A 2008年度 薬理学C 2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 先端薬理学概論 2011年度 2012年度	3年次科目薬理学Bを担当 2年次科目薬理学Aを担当 3年次科目薬理学Cを担当 6年次科目先端薬理学概論を担当 授業評価 /5点 学内平均3.1点 授業評価 /5点 学内平均3.1点 授業評価 /5点 学内平均3.1点 授業評価 /10点 学内平均7.1点 授業評価 /10点 学内平均7.3点 授業評価 /10点 学内平均7.6点 授業評価 /10点 学内平均7.7点 授業評価 /10点 学内平均8.1点 授業評価 /10点 学内平均8.0点
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2010年5月	第46回薬剤師のためのワークショップin近畿 参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Deficiency of n-6 polyunsaturated fatty acids is mainly responsible for atopic dermatitis-like pruritic skin inflammation in special diet-fed hairless mice	共著	2013年4月	Experimental Dermatology, 22(4), 272-277
Inhibitory effect of chitosan-containing lotion on scratching response of hairless mice with atopic dermatitis-like dry skin	共著	2011年12月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 34(12), 1890-1894
Atopic dermatitis model of itching behavior in hairless mice	共著	2010年9月	Inflammation and Regeneration, 30(5), 434-439
Ethanol aggravates itch-related scratching in hairless mice developing atopic dermatitis	共著	2009年1月	European Journal of Pharmacology, 611(1-3), 92-99
Development of numerous nerve fibers in the epidermis of hairless mice with atopic dermatitis-like pruritic skin inflammation	共著	2007年7月	Journal of Pharmacological Science, 104(3), 243-251
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年7月	アトピー性掻痒モデルの開発とその解析. Science & Technologyセミナー: かゆみ・アトピーによる皮膚感覚刺激の評価方法と留意点		
平成25年4月～	日本薬理学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 助教	氏名 松村 千佳子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年～2013年 2012年～2013年 2009年～2013年	2年次：医療の担い手としてのこころ構え (講義とSGD) 6年次：緩和医療概論 (講義とビデオ) 4年次：病院・薬局に行く前に
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年～2013年 2009年～2013年 2012年～2013年	2年次：医療の担い手としてのこころ構え(教材) 4年次：病院・薬局に行く前に (教材) 6年次：緩和医療概論 (教材)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2011年11月1日	大阪府病院薬剤師会第34回中堅薬剤師研修会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
・日本薬剤師研修センター認定		2010年2月	第 10-43068号
・日本病院薬剤師会近畿ブロックがん化学療法認定薬剤師		2004年9月	第56号
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) シナリオ症例解析—医療現場で今—	共著	2009年	京都廣川書店
(論文) がん化学療法患者の糖尿病発症についての 検討	共著	2009年9月	日本病院薬剤師会雑誌 (第45巻第9号)
(論文) Need for Pharmaceutical Care During Chemotherapy for Prevention of Side Effects: Examples of Blood Sugar Monitoring in Dexamethasone.	共著	2012年1月	Palliative Care Research vol.6 No.1
(論文) 貼付型フェンタニル3日製剤から1日製剤に 切り替えた際のアンケート調査報告	共著	2012年10月	日本病院薬剤師会雑誌 (第48巻第10号)
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 微生物・感染制御学分野	職名 助教	氏名 皆川 周
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・担当科目における授業評価について 微生物学 ・授業方法の工夫		2009年4月～2013年4月 2009年4月～ 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度	2年次科目微生物学を担当 1年次科目生命科学を担当 2年次科目微生物学実習を担当 授業評価 /10点 授業評価 /10点 授業評価 /10点 授業評価 /10点 学生の理解を助けるようなスライドや動画を利用
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) RND type efflux pump system MexAB-OprM of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> selects bacterial languages, 3-oxo-acyl-homoserine lactones, for cell-to-cell communication.	共著	2012年	<i>BMC Microbiol.</i> 12: 70
(論文) Complementation of the <i>exoS</i> gene in the <i>pvdE</i> pyoverdine synthesis gene-deficient mutant of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> results in recovery of the <i>pvdE</i> gene-mediated penetration through the intestinal epithelial cell barrier but not the <i>pvdE</i> -mediated virulence in silkworms.	共著	2012年	<i>J. Infect. Chemother.</i> 18: 332-340
(論文) Degradation of interleukin 8 by the serine protease MucD of <i>Pseudomonas</i>	共著	2011年	<i>J. Infect. Chemother.</i> 17: 782-792
(論文) Translocation of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> from the intestinal tract is mediated by the binding of ExoS to an Na, K-ATPase regulator, FXD3.	共著	2010年	<i>Infect. Immun.</i> 78: 4511-4522
(論文) Characterization of CitA-CitB signal transduction activating genes involved in anaerobic citrate catabolism in <i>Escherichia coli</i> .	共著	2009年	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> 73: 346-350
III 学会等および社会における主な活動			
2011年度～2012年度	細菌学会 若手コロッセウム 世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 助手	氏名 大谷 有佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・授業方法の工夫		2012年4月1日～ 現在に至る 2012年4月1日～ 現在に至る	1年次科目 基礎科学実習を担当 2年次科目 微生物学実習を担当 2年次科目 機器分析学実習を担当 2年次科目 生化学実習を担当 3年次科目 食品・環境衛生学実習を担当 3年次科目 有機化学・天然医薬品学実習を担当 3年次科目 薬理学実習を担当 3年次科目 薬剤学・薬物動態学実習を担当 学生実習支援センターの一員となり、学生実習が安全に円滑に行えるよう、分野教員との連携を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本科学教育学会第37回年回		2013年9月8日	6年制薬学教育における実験実習支援センターの機能と役割
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 山科きずな支援事業補助金交付対象事業 2012年度新任教員FD合同研修プログラムA 2012年度京薬祭 こどもランド 2012年度第1回薬学共用試験 OSCE 2012年度新任教員FD合同研修プログラムB 早期体験学習 山科きずな支援事業補助金交付対象事業		2012年9月2日 2012年9月15～16日 2012年11月3～4日 2012年12月15～16日 2013年3月9～10日 2013年7月2日 2013年9月1日	山科区の小学生を対象に理科教室『身近な夏の不思議体験2012イン山科』を企画・広報課と協力して主催 学習者中心の授業運営のためのワークショップ 幼稚園児対象理科教室の支援 サポートスタッフ 授業実践ワークショップ 討論・プロダクト作成の指導 山科区の小学生を対象に理科教室『身近な夏の不思議体験2013イン山科』を企画・広報課と協力して主催
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Spectroscopic studies on the interaction of mefloquine with phosphatidylcholine-phosphatidylserine bilayer vesicle and bovine serum albumin		共著	平成24年9月
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称 Current Pharmaceutical Analysis, 2012, 8, No. 3
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			
IV 備考			
2012年4月1日 京都薬科大学・学生実習支援センター・助手に着任。(2012年度新卒採用。)			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬理学分野	職名 助手	氏名 大東 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		該当なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
	該当なし		
IV 備考 新規採用のため特記事項なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生化学分野	職名 助手	氏名 金井志帆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 2年次生生化学実習 (授業評価等を含む)	平成22年4~7月	学生実習の補助	
	平成23年4~7月		
	平成24年4~7月		
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 FDセミナー参加 (FDを含む)	平成22年9月	該当なし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Triacylglycerol deposition with group IVC phospholipase A2 expression in oleate- and linoleate-stimulated Huh-7 hepatocytes.	共著	2011年	Biol Pharm Bull. 34, 191-6
(論文) Xanthoangelols isolated from Angelica keiskei inhibit inflammatory-induced plasminogen activator inhibitor 1 (PAI-1) production.	共著	2011年	Biofactors, 37, 455-61
(論文) Regulation of macrophage differentiation and polarization by group IVC phospholipase A(2).	共著	2011年	Biochem Biophys Res Commun, 416, 325-30
(論文) Group IVA phospholipase A2 participates in the progression of hepatic fibrosis.	共著	2012年	FASEB J., 10, 4111-21
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年4月~平成23年3月	発表: 第57回日本生化学会近畿支部例会、第42回日本動脈硬化学会総会、第83回日本生化学会大会、日本薬学会第131年会		
平成23年4月~平成24年3月	発表: 第58回日本生化学会近畿支部例会、第43回日本動脈硬化学会総会、第84回日本生化学会大会、日本薬学会第132年会		
平成24年4月~平成25年3月	発表: 第59回日本生化学会近畿支部例会、第44回日本動脈硬化学会総会、日本薬学会第133年会		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品分析学分野	職名 助手	氏名 小西 敦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・授業方法の工夫		2012年9月～ 現在に至る 2012年9月～ 現在に至る	2年次後期科目 機器分析学実習を担当 実際に分析機器を取り扱い、分析機器について理解を深める。 学生の理解を深めるため、始めにデモンストレーションを行い、原理や注意点について説明した。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・新任教員FD合同研修<<プログラムA>> ・2012年度薬学共用試験 ・新任教員FD合同研修<<プログラムB>> ・1年次 早期体験学習		2012年9月15, 16日 2012年12月15, 16日 2013年3月9日, 10日 2013年5月14日	学習支援・特別支援のための基礎知識ワークショップや授業デザインのための基礎知識ワークショップ等を行った。 薬学共用試験OSCEサポートスタッフ 授業設計、授業実践のためのワークショップを行い、大学教員として必要な基礎知識・スキルを身につけた。 病院薬局見学SGDチューター(ファシリテーター)
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
該当なし			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
2012年4月～現在に至る		日本薬学会会員	
2012年4月～現在に至る		日本分析化学会会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬大	講座名 代謝分析学分野	職名 助手	氏名 内藤 行喜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・ 担当科目		2011年4月～ 現在に至る	2年次生（前期） 分析化学実習を担当 実習書作成、実習講義、該当実習における指導
・ 早期体験学習		2011年4月～ 現在に至る	早期体験学習の一環である研究室見学時の説明
		2012年4月～ 現在に至る	早期体験学習の一環である企業見学の事前SGD
・ OSCE		2011年度実施 2012年度実施	サポートスタッフ サポートスタッフ
・ CBT		2012年度実施	4年次生CBT体験試験、本試験での試験監督
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
「大学におけるハラスメントを防止するために」		2013年3月25日	目的を明確に伝える力と受け手側との信頼関係の構築の重要性、誰もが加害者になり得るという認識を持たなければならないことを感じた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(論文) Cellular mechanism of Zinc-Hinokitiol complex in diabetes mellitus		共著	平成23年 3月
			Bull. Chem. Soc. Jpn, vol184
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬学教育研究センター
		職名	助手
		氏名	西村 奏咲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について 4年次科目「共用試験演習」 4年次成績下位者対策「ランチョン補講」 6年次科目「薬学演習」 6年次科目「薬学特別演習」 6年次再試験対策「薬理学特別補講」 ・授業方法の工夫		2010年4月～現在 2010年4月～現在 2011年4月～現在 2011年9月～現在 2011年9月～現在	CBTのみならず、国家試験対策の一環としての演習講義 昼休みを利用した、成績下位者対象の学習支援 基礎科目の復習を中心とした、成績下位者対象の演習講義 薬剤師国家試験対策講義 薬学特別演習本試験で不合格となった学生への補講 特に少人数制の演習講義では、双方向型の講義手法を取り入れ、理解度を確認しながら進めている。 国試対策の補講では、毎回学生の要望を聞きながら、10時間で薬理学全範囲の復習ができるように講義内容を組んでいる。
2 作成した教科書、教材、参考書 京都薬科大学編集 薬剤師国家試験対策問題集 (ポケット問題集)		2011年度版：2011年8月10日 2012年度版：2012年4月1日 2012年度版：2013年4月1日	5年次のうちから国家試験を意識させることを目的に、大学内で作成・編成した問題集。各科目責任者が、国家試験過去問題の最重要問題を選定・解説を行う。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・第5回京都FDer塾 ・京都FD開発推進センター FDセミナー ・FD連携プロジェクト 新任教員合同研修 ・第18回FDフォーラム		2010年6月28日 2010年7月31日 2010年9月18日、19日 2013年2月23日	「授業活性化へのヒント～ファシリテーションとは～」・「京都産業大学 F工房沿革」・「実際の授業を題材にした支援案作成のワークショップ」 「授業技術を考える～多人数授業の工夫～」 「FD、大学教員のキャリア開発」・「授業デザインのための基礎知識」・「さまざまな授業形態（模擬授業）」・「学習者中心の授業運営」 「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」・「学生とともにすすめるFD」
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）
該当なし			発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			
IV 備考			
薬学教育研究センターに所属しておりますので、研究活動や学会活動等は基本的にありません。			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬学教育研究センター	職名 助手	氏名 高木 愛未
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			該当なし
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			
IV 備考			
平成24年4月～10月病院勤務の為、該当する業績なし。			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬用植物園(補助園)	職名 助手	氏名 前田 晋作
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 担当科目について	2012年4月～現在	総合薬学研究を担当	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 新任教員合同研修 (FDを含む)	2012年9月	大学コンソーシアム京都 主催	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名	氏名 松尾 道代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		該当なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			
IV 備考			
滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部に出向中 2013年6月30日付 退職			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学	職名 助手	氏名 峯垣 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・実習の工夫		2009年4月～ 現在に至る 2009年4月～ 現在に至る	4年次実習 病院・薬局へ行く前に を担当 可能な限り実践的な処方例を導入し、実習に用いている。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Factors affecting the sensitivity of human-derived esophageal carcinoma cell lines to 5-fluorouracil and cisplatin	共著	2013年2月	Oncol Lett 5(2):427-434
Influence of Serum in Hemodialysis Patients on the Expression of Intestinal and Hepatic Transporters for the Excretion of Pravastatin	共著	2012年12月	Ther Apher Dial 16(6):580-587
Differential effects of calcium antagonists on ABCG2/BCRP-mediated drug resistance and transport in SN-38-resistant HeLa cells	共著	2012年3月	Mol Med Rep 5(3):603-609
Effects of α -Adrenoceptor Antagonists on ABCG2/BCRP-Mediated Resistance and Transport	共著	2012年2月	PLoS One :e30697
Treatment schedule-dependent effect of 5-fluorouracil and platinum derivatives in colorectal cancer cells	共著	2012年2月	Eur J Pharm Sci 45(3):272-281
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬学教育研究センター	職名 助手	氏名 吉村 典久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年度	予備校(薬学ゼミナール)内および大学講義におけるCBT対策講義。 国家試験対策よりも、キーワードを押さえた浅く広い講義を展開。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年度	CBT対策問題集コアカリマスター(薬学ゼミナールにて)の執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 細胞生物学分野	職名 助手	氏名 渡部 匡史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年10月	京都薬科大学 1年次生 基礎科学実習
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年10月	京都薬科大学 1年次生 基礎科学実習 実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Phosphorylation of threonine-265 in Zipper-interacting protein kinase plays an important role in its activity and is induced by IL-6 family cytokines	共著	2006 年 4 月	Immunology Letters, 103(2): 127-34.
(論文) Physical and functional interactions between Daxx and STAT3	共著	同 年 同 月	Oncogene, 25: 2131-2136
(総説) HIV増殖機構と抗HIV薬の作用機序.	共著	2010 年 3 月	日本臨牀 第68巻第3号: 378-381
(論文) The hematopoietic cell-specific Rho GTPase inhibitor ARHGDI/D4GDI limits HIV-1 replication.	共著	2012 年 3 月	AIDS Research and Human Retroviruses, 28(8): 913-922
(論文) Hyrtioreticulins A-E, indole alkaloids inhibiting the ubiquitin-activating enzyme, from the marine sponge Hyrtios reticulatus.	共著	2012 年 3 月	Bioorganic & Medicinal Chemistry, 15:20(14):4437-42
III 学会等および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 共同利用 機器センター	職名 技術専門職員	氏名 照屋 千香子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年4月～	共同利用機器センターで質量分析依頼測定を担当
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬学教育研究センター
職名	特命教授	氏名	石津雅弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について		2013/4/1～ 現在に至る	4年次前期演習 5年次実務実習施設訪問
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 造血幹細胞移植におけるタクロリム ス血中濃度測定法の評価 —MEIA法及びACMIA法—	共著	2009年	TDM研究 Vol. 26 No. 2
(論文) 高齢者におけるFOLFOX療法の有害事 象発現に対する後ろ向き調査	共著	2010年7月	日本病院薬剤師会雑誌 Vol. 46 No. 7
(論文) ペメトレキセド投与時の皮疹発現 リスク軽減要因の検討	共著	2012年7月	日本病院薬剤師会雑誌 Vol. 48 No. 7
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年1月～平成25年2月	行政処分を受けた薬剤師に対する再教育研修における講師 (厚生労働省)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬学教育研究センター
職名	特命教授	氏名	稲田 節子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・授業方法の工夫		2011年4月～ 現在に至る 2011年4月～ 現在に至る	4年次実務実習事前学習及び、5年次実務実習訪問指導を担当 処方内容に関する問題点等を各自及びグループで調査し発表・討議させる。 前職の病院勤務時代に経験した臨床現場での実際の話題を交えて、学生に興味深い授業になるよう心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬学 教育研究センター
職名	特命教授	氏名	金澤 治男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ・ 担当科目について		～平成21年3月	・ 4年次科目「医薬品情報学」を担当 「実務実習」を担当
		平成22年4月～ 現在に至る	・ 5年次科目「長期実務実習」を担当
・ 授業方法の工夫（SGDの導入）		平成18年4月～ ～平成21年3月	・ 最近の医療に関する問題点（テーマ：「薬害被害から学ぶ」）についてグループで取り組ませる。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成8年度～ 平成20年度 （毎年改訂）	「病院等実習導入講義資料」（共著）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成24年3月	日本薬学会第132年会（札幌） 「京都薬科大学における病院・薬局見学」 ○今西孝至、中村暢彦、津島巴幸、金澤治男、橋詰勉、高山明
4 その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		平成8年4月～ 平成21年3月	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
（著書）薬学情報学		編・共著	平成21年3月
			発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
			株式会社 じほう
III 学会等および社会における主な活動			
平成10年3月～現在に至る	大阪市立弘済院附属病院受託研究審査委員会委員		
平成13年4月～平成21年3月	京都府薬剤師会理事		
IV 備考			
平成21年3月：京都薬科大学を定年退職、 平成22年4月：特命教授として再任用（現在に至る）			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬学教育研究
職名	特命教授	氏名	谷口隆之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について		2007年4月～ 2011年3月 2011年4月～ 現在に至る 2012年4月～ 現在に至る	2年次科目「ヒトの機能調節A, B」を担当 3年次科目「薬理学実習」担当 5年次生の病院薬局実務実習を担当 生涯教育センター長として卒後教育講座を担当
・担当科目における授業評価について		2007年度 2008年度 2009年度 2010年度	ヒト機能A 授業評価 /4点 ヒト機能B 授業評価 (不実施) ヒト機能A 授業評価 /4点 ヒト機能B 授業評価 /4点 ヒト機能A 授業評価 /10点 ヒト機能B 授業評価 /10点 ヒト機能A 授業評価 /10点 ヒト機能B 授業評価 /10点
・授業方法の工夫		2007年度～ 2011年度	見やすいスライドを作成した 使用スライドを資料として配布した
2 作成した教科書、教材、参考書 ・該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2007年4月～ 2011年3月	薬理学会、薬学会等の所属学会に学生、院生を伴い参加し、研究発表を多数行った
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年4月～ 現在	卒後教育講座は卒業生中心に、一般薬剤師に広く公開されているものであるが、在校生にも開放し、最新の医療現場の情報を習得してもらっている
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
DJ-1 protects against neurodegeneration caused by focal cerebral ischemia and reperfusion in rats.	共著	2008年3月	J. Cereb. Blood Flow Metab., 28, 563-578
Involvement of WAVE accumulation in Aβ/APP pathology-dependent tangle modification in Alzheimer's disease.	共著	2009年7月	Am. J. Pathol., 175,17-24
The 6-hydroxydopamine-induced nigrostriatal neurodegeneration produces microglia-like NG2 glial cells in the rat substantia nigra.	共著	2010年7月	Glia, 58, 1686-1700
Galantamine-induced amyloid-β clearance mediated via stimulation of microglial nicotinic acetylcholine receptors.	共著	2010年11月	J. Biol. Chem., 285, 40180-40191
Regeneration of dopaminergic neurons after 6-hydroxy-dopamine-induced lesion in planarian brain.	共著	2011年7月	J. Neurochem., 119, 1217-1231
III 学会等および社会における主な活動			
2007年4月～2012年3月	日本薬理学会 学術評議員		
2007年4月～2012年3月	日本心脈管作動物質学会 評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 特命教授	氏名 中嶋 澄江
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		該当なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			
IV 備考 特にないが、京都府立医科大学附属病院において治験コーディネーターの養成を行ってきた。日本病院薬剤師会認定指導薬剤師として薬学生の病院実習で治験について指導をしてきた。臨床薬理学会の認定CRCを取得している。			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名	臨床薬学教育 研究センター	職名：特命教授 氏名：西野武志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ○担当科目 1年次科目「薬学への招待」 ○授業方法の工夫		2006年度 2007年度 2008年度 2009年度 最初の年度より	薬学への招待 /4点 薬学への招待 /4点 薬学への招待 /4点 薬学への招待 /10点 薬学への招待(薬学概論)を担当した最初の年度より実社会で活躍されている講師(薬剤師会、製薬会社、CRO、化粧品会社、物流センターなど)に講義の一部を担当していただいた。
2 作成した教科書、教材、参考書 (著書)微生物学・改訂第5版 (著書)21世紀の考える薬学微生物学		共 著 共 著	平成18年2月 南江堂 平成14年2月 廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 京都の大学「学び」フォーラム2003 京都臨床薬学研究会		講 師 講 師	平成15年10月 京都 平成14年8月 京都
4 その他教育活動上特記すべき事項 第7回全国薬学教育者ワークショップ近畿・中四国 第4回全国薬学教育者ワークショップ		タ ス ク タ ス ク	平成15年8月 大阪 平成14年8月 大阪
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可) 発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)病原菌の今日的意味・改訂4版		共著	平成23年11月 医薬ジャーナル社
(著書)Molecular Biology of DNA Topoisomerase		共著	平成5年6月 CRC Press
(論文)Measurement of <i>P. aeruginosa</i> multidrug efflux pumps by quantitative real-time PCR.		共著	平成17年 FEMS Microbiol. Lett., 243:125-131
(論文)Cooperation between alternation of the DNA gyrase genes and overexpression of MexB and-----		共著	平成17年 Microbiol. Immunol., 49, 443-446
(論文)The substrate specificity of tripartite efflux systems of <i>P. aeruginosa</i> is determined-----		共著	平成14年 Biochem. Biophys. Res. Commun. 299, 247-251
III 学会等および社会における主な活動			
平成4年6月～平成20年6月	日本化学療法学会 理事・評議員		
昭和58年4月～平成24年5月	日本電子顕微鏡学会 評議員		
平成8年4月～平成24年6月	日本感染症学会 評議員		
平成8年6月～平成17年3月	日米医学協力研究会急性呼吸器感染症部会部会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育 研究センター	職名 特命教授	氏名 野出 學
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について		2007年10月～ 2010年3月	2年次科目(後期) 有機化学D 2年次科目(後期) 専門基礎演習D 3年次科目(前期) 有機化学・天然医薬品学実習 3年次科目(前期) 分子薬品化学A
・担当科目における授業評価について		2007年度 2008年度 2009年度	有機化学D /4点 専門基礎演習D /4点 有機化学D /4点 専門基礎演習D /4点 分子薬品化学A /4点 有機化学D /10点 専門基礎演習D /10点 分子薬品化学A /10点
・授業方法の工夫		2007年10月 ～ 2010年3月	講義：板書による説明に重点を置き、学生が見て分かり易い板書に努めた。 実習：実習内容が身につくように、何故この操作をするかの質問をしながら指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・パートナー 薬品製造学 改訂第2版(南江堂)		2012年4月10日	共著 第4章 炭素-酸素結合の合成 125-153.
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・奈良先端科学技術大学院大学 授業評価委員 ・医薬工連環科学教育研究機構 外部評価委員		2011年4月～ 2012年3月 2011年度～ 2012年度	物質創成科学科の授業評価とFD研修会での講評 関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学の連環科学教育事業の外部評価委員として事業成果を評価
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Asymmetric Michael addition of a recyclable chiral amine: inversion of stereoselectivity caused by the difference of etereal solvents.	共著	2008年	<i>Org.Lett.</i> , 2008 , <i>10</i> , 2653-2656
Development of the efficient asymmetric synthesis utilizing characteristic of chiral auxiliary.	共著	2010年	<i>J. Synth. Org. Chem. Jpn.</i> , 2010 , <i>68</i> , 854-865.
Efficient asymmetric synthesis of abeo-abietane-type diterpenoids by using the intramolecular Heck reaction.	共著	2010年	<i>J. Org. Chem.</i> , 2010 , <i>75</i> , 190-196.
One-pot construction of multiple contiguous chiral centers using Michael addition of chiral amine.	共著	2010年	<i>J. Org. Chem.</i> , 2010 , <i>75</i> , 4201-4211.
First asymmetric total synthesis of (+)-taiwaniaquinol D and	共著	2013年	<i>Tetrahedron</i> , 2013 , <i>69</i> , 3841-3846.
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年度	日本薬学会化学系薬学部会・副部長		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 特命教授	氏名 藤本 貞毅
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
担当科目について		1995.4~2009.3	1年次科目生物学及び3年次科目衛生化学を担当
		2010.4~現在に至る	5年次科目実務実習訪問指導を担当
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Mitochondrial dysfunction is involved in P2X7 receptor-mediated neuronal cell death.	共著	2012年 9月	Journal of Neurochemistry, vol.122, No.6, 1118-28.
(論文) Peroxynitrite treatment reduces adenosine uptake via the equilibrative nucleoside transporter in rat astrocytes.	共著	2011年 7月	Neuroscience Letter, vol.498, No.1, 52-6.
(論文) Contribution of P2X7 receptors to adenosine uptake by cultured mouse astrocytes.	共著	2010年 11月	Glia, vol.58, No.14, 1757-65.
(論文) Protective effect of nicotinamide against poly(ADP-ribose) polymerase-1-mediated astrocyte death depends on its transporter-mediated uptake.	共著	2010年 4月	Life Science, vol.86, 676-82.
(論文) Possible involvement of PPAR gamma in the regulation of basal channel opening of P2X7 receptor in cultured mouse astrocytes.	共著	2009年 6月	Life Science, vol.84, 825-31.
III 学会等および社会における主な活動			
平成13年~平成24年	日本生化学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究	職名 特命教授	氏名 蓑内 徳蔵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		特になし	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
・認定実務実習指導薬剤師	2008年4月	第08100181号	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) なし	単著		
(著書) なし	共著		
(論文) なし	単著		
(論文) なし	単著		
(論文) なし	共著		
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			
IV 備考			
現在行っている職務内容は実務実習の指導。①4年次生の事前学習と②5年次生の施設を訪問して指導。			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。